

## 燕市介護保険運営協議会（第1回）次第

令和2年5月29日（書面開催）

### 議 題

- (1) 燕市第8期介護保険事業計画策定スケジュール（案）について  
(資料1)
- (2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の報告について  
(資料2)
- (3) 在宅介護実態調査の報告について  
(資料3)
- (4) その他  
(資料4)

今後の開催予定日 ○各回の開催時間は午後1時30分～

第2回 令和2年8月18日（火）

第3回 令和2年10月15日（木）

第4回 令和2年11月19日（木）

第5回 令和3年2月16日（火）

※上記は開催予定であり、変更となる場合があります。

新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、今後も書面開催となる場合があります。

燕市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画策定業務スケジュール（案）

資料1

令和2年5月現在

		令和2年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
燕市	<p>■調査結果の内容検討・スケジュール検討</p> <p>■人口推計、給付実績のとりまとめ、計画施策の体系</p> <p>■計画素案作成</p> <p>■サービス見込み量の推計・認定者の推計</p> <p>■サービス見込み量の検討・保険料の検討(見える化システム活用)、地域支援事業の検討、供給量の検討</p> <p>■計画書(案)作成</p> <p>■県へ見込み量、保険料の仮設定の報告</p> <p>■県へ見込み量、保険料の報告</p> <p>■計画補修正の実施</p> <p>■県へ計画書確認提示</p> <p>■最終計画案決定(印刷製本)</p>			<p>現状分析・見込み量の実績評価</p> <p>高年齢者保健福祉事業の実績取りまとめ</p>	<p>高齢者保健福祉施策の検討</p>								
介護保険運営協議会			<p>調査結果の報告について</p>			<p>事業計画に係る国の基本指針案について</p> <p>事業実績の取りまとめについて</p>		<p>見込み量に係る認定者数の推計・保険料の推計について</p>	<p>パブリックコメントの実施について</p>			<p>計画最終案の検討</p> <p>保険料の検討</p> <p>パブリックコメントの実施報告について</p>	

●議会報告素案と概要

●議会報告計画案

---

# 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 報 告 書 【 概要版 】

---

令和 2 年 5 月  
燕 市

---

---

# 目 次

---

<b>1 調査概要</b> .....	<b>1</b>
1. 調査目的.....	1
2. 調査方法.....	1
3. 回収結果.....	1
4. 報告書の見方.....	1
<b>2 調査結果</b> .....	<b>2</b>
回答者について.....	2
1. 家族や生活状況について.....	5
2. 健康等について.....	7
3. 介護保険料について.....	12
4. 生きがいや社会参加について.....	13
<b>3 評価項目別のリスク分析結果</b> .....	<b>15</b>
1. 運動器機能.....	15
2. 転倒.....	17
3. 閉じこもり.....	19
4. 低栄養.....	21
5. 口腔機能.....	23
6. 認知機能.....	25
7. うつ傾向.....	27
<b>4 日常生活圏域別の地域分析</b> .....	<b>29</b>
1. リスク該当者の状況.....	29
2. 地域活動への参加状況.....	30

# 1 調査概要

## 1. 調査目的

第 8 期介護保険事業計画を策定するにあたり、高齢者の健康状態や日常生活の状況、地域のニーズや課題を把握し、介護保険サービス等、健康づくり事業の一層の向上を図るための基礎資料とすることを目的として実施しました。

## 2. 調査方法

- 調査対象者：令和元年 12 月 1 日時点において、市内在住で要介護認定を受けていない 65 歳以上の市民から無作為抽出した 1,500 人
- 調査期間：令和元年 12 月 13 日～令和元年 12 月 27 日
- 調査方法：郵送による配布・回収

## 3. 回収結果

- 調査対象者数：1,500 人
- 回収数（回収率）：973 件（64.9%）
- 有効回答数：973 件

## 4. 報告書の見方

- ① 報告書中の「n」の数値は、設問への回答者数を表します。
  - ② 回答の比率（%）は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記しています。このため、回答率の合計が 100.0%にならない場合があります。
  - ③ 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、回答率の合計が 100.0%を超えることがあります。
  - ④ 年齢など調査対象者の基本属性を中心としたクロス集計結果については、基本属性等に「無回答」があるため、全体の示す数値とは一致しない場合があります。
  - ⑤ 設問により、平成 28 年 12 月に実施した前回調査結果を比較したグラフや、日常生活圏域別、性別、年齢別等のクロス集計結果のグラフを表記しています。
  - ⑥ 燕市の日常生活圏域は、燕地区を 2 地区とし燕 A 地区（おおまがり）、燕 B 地区（さわたり）、吉田地区、分水地区の 4 つを圏域としています。
- ※ クロスグラフの回答者数「n」が少数の場合は、その傾向に注意が必要です。

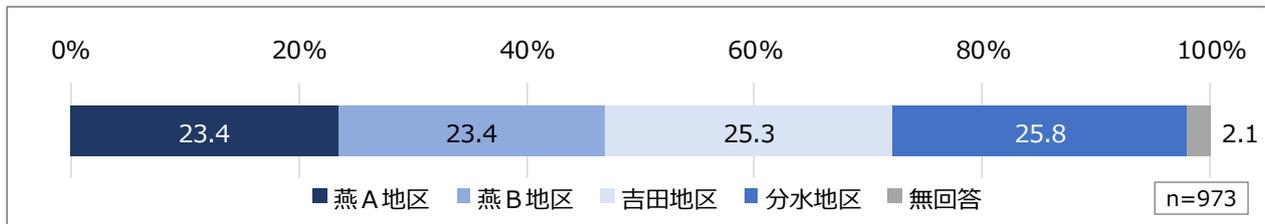
## 2 調査結果

### 回答者について

#### ●日常生活圏域

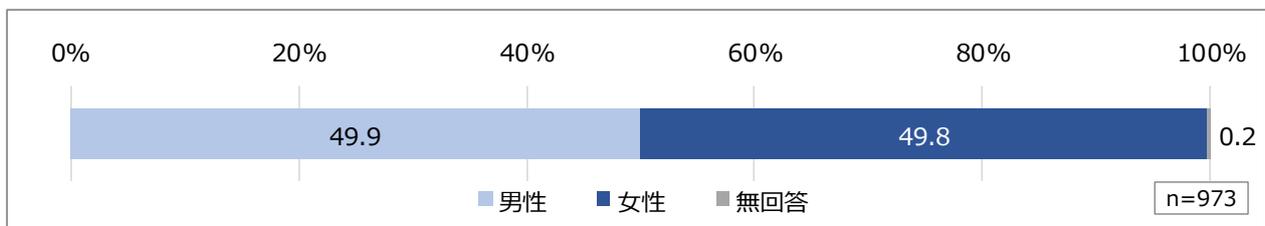
地域の要介護者が住み慣れた地域で適切なサービスを受けながら生活できるよう、市内における地理的条件、人口、交通事情など、その他の社会的条件、介護給付等対象サービスを提供するための施設整備の状況等の条件を総合的に勘案し、本市では、燕地区を2地区（燕A地区（おおまがり）、燕B地区（さわたり））と吉田地区、分水地区の4つの日常生活圏域を設定しています。

回答者の日常生活圏域は、「燕A地区」、「燕B地区」が23.4%、「吉田地区」が25.3%、「分水地区」が25.8%となっています。



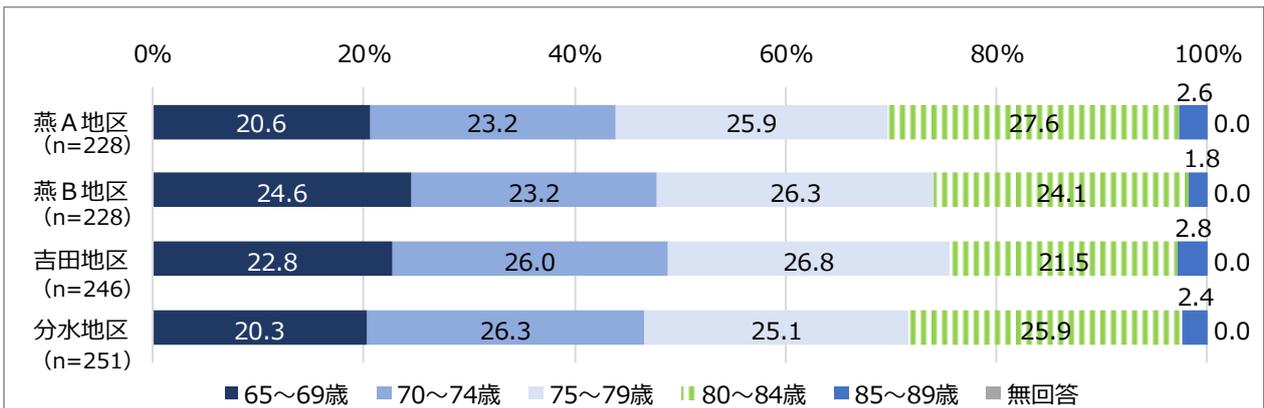
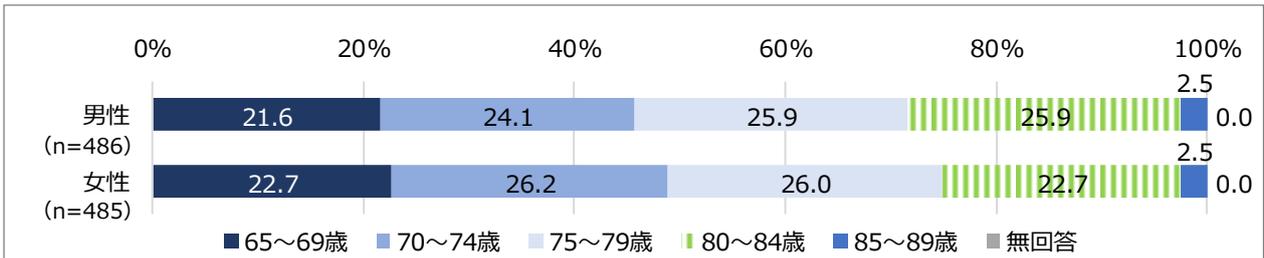
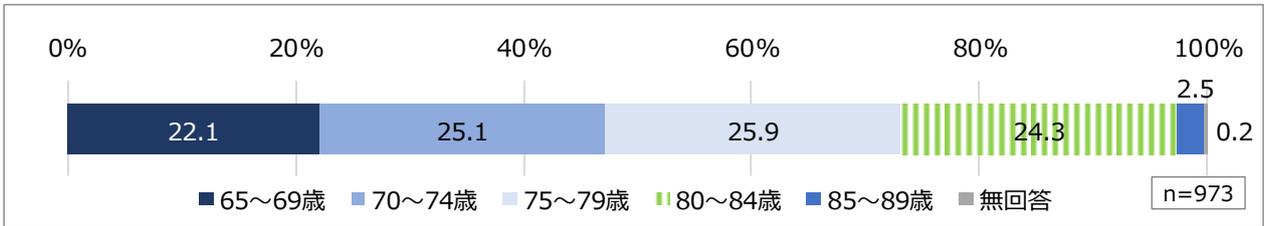
#### ●性別

回答者の性別は、「男性」が49.9%、「女性」が49.8%となっています。



## ●年齢

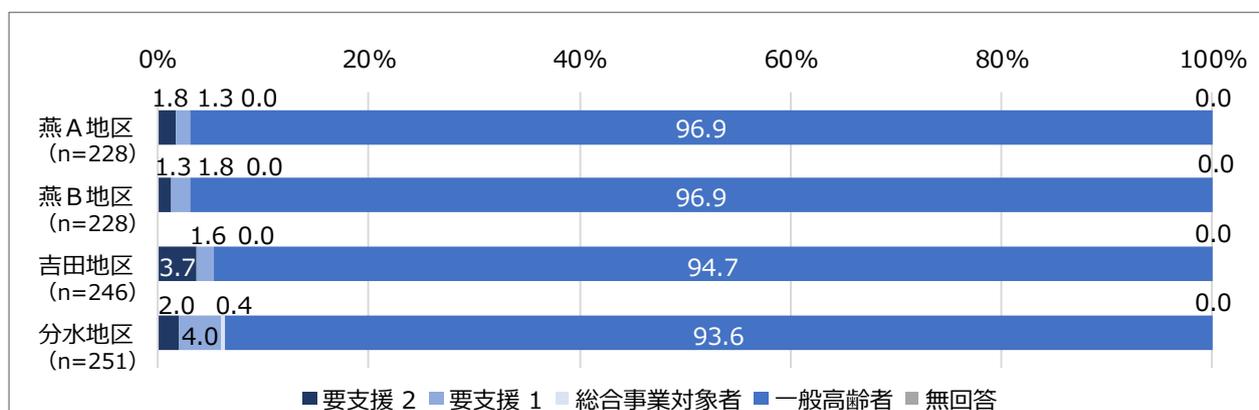
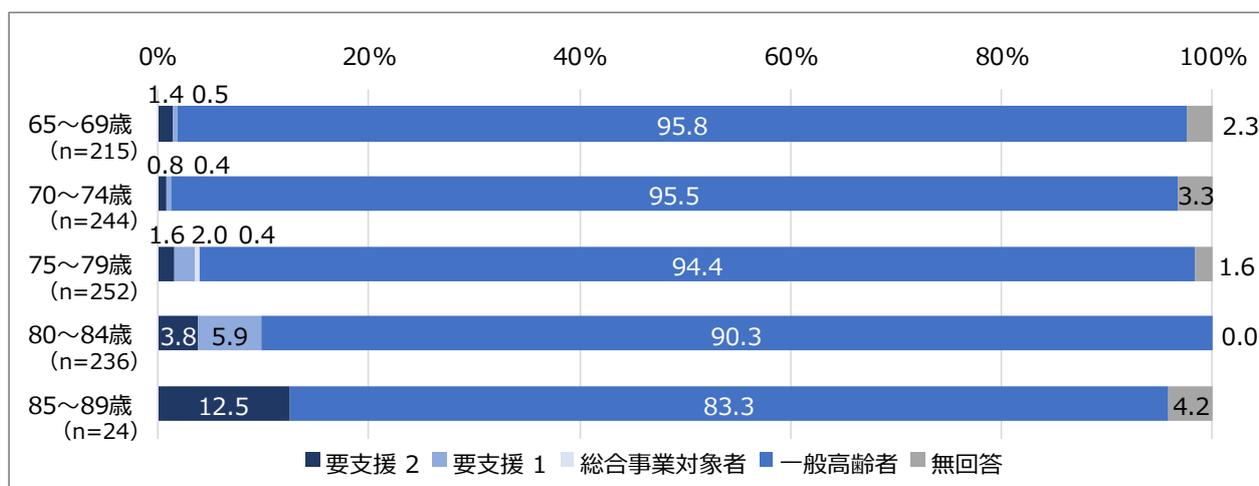
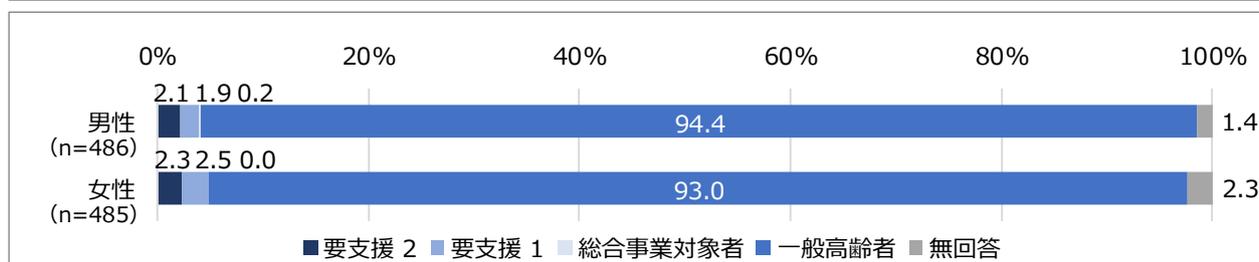
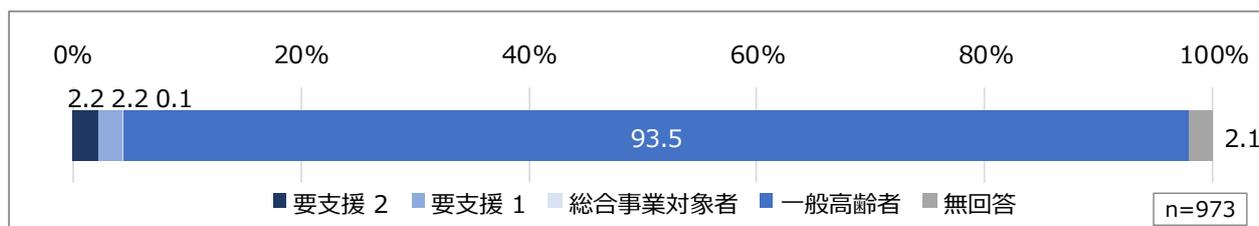
回答者の年齢は、「65～69歳」が22.1%、「70～74歳」が25.1%、「75～79歳」が25.9%、「80～84歳」が24.3%、「85～89歳」が2.5%となっています。2区分にすると「65～74歳」が47.2%、「75歳以上」が52.7%となっています。



## ●認定区分

回答者の認定区分は、「要支援 2」、「要支援 1」が 2.2%、「介護予防・日常生活支援総合事業対象者（以下「総合事業対象者」という。）」が 0.1%、「いずれの認定も受けていない一般高齢者（以下「一般高齢者」という。）」が 93.5%となっています。

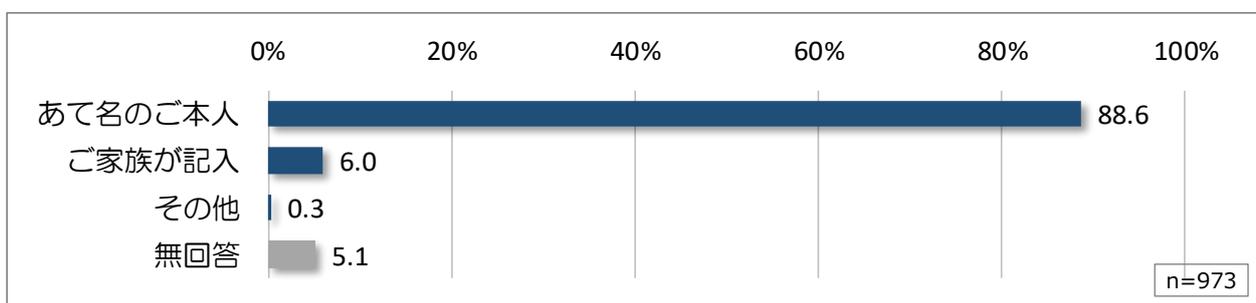
年齢別にみると、「要支援 2」の割合が最も高いのは「85～89 歳」で 12.5%、「要支援 1」の割合が最も高いのは「80～84 歳」で 5.9%となっています。「総合事業対象者」は「75～79 歳」の 1 名のみとなっています。



\*介護認定データを用いて集計していますが、判定ができないものは無回答としています。

## ● 調査票記入者

調査票記入者は「あて名のご本人」が88.6%と最も高くなっています。



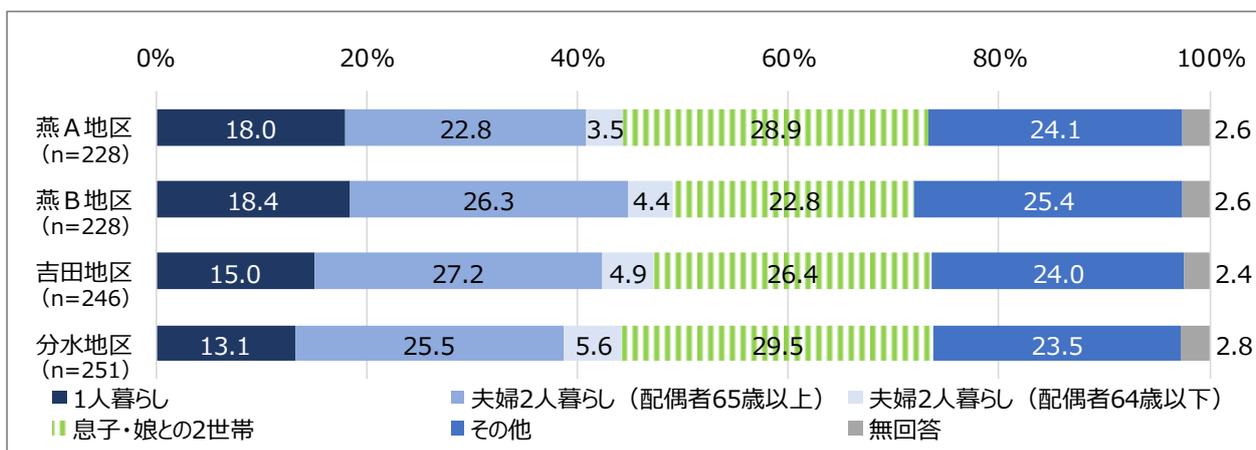
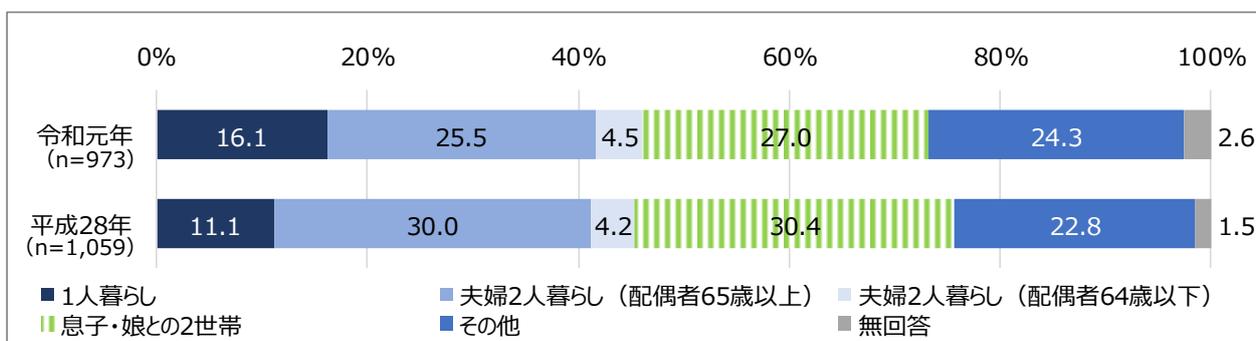
## 1. 家族や生活状況について

### ● 家族構成

#### (1) 家族構成をお教えてください

「息子・娘との2世帯」が27.0%と最も高く、ついで「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が25.5%となっています。「1人暮らし」は、平成28年調査時から5.0ポイント増加して16.1%となっています。

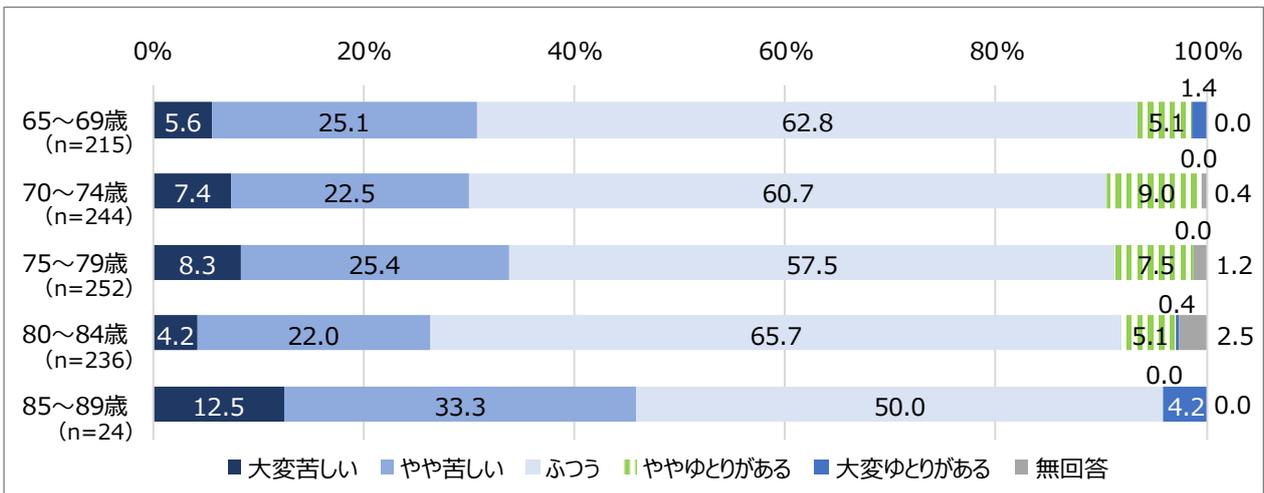
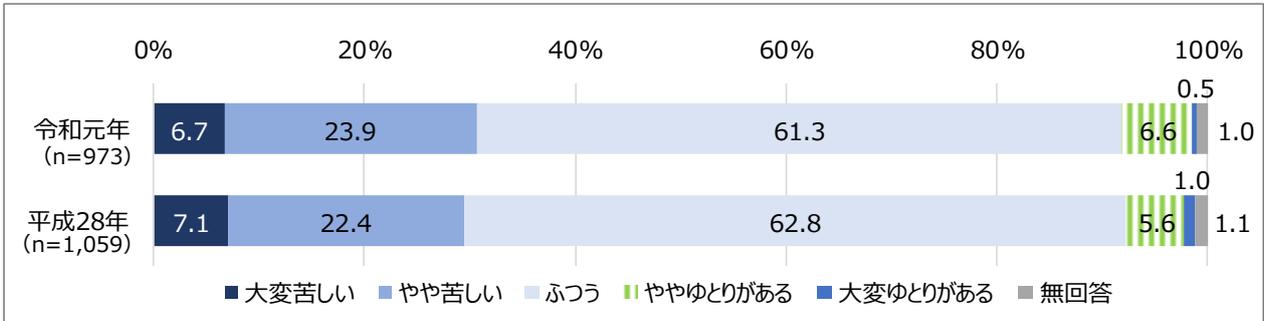
日常生活圏域別にみると、「1人暮らし」の割合が最も高いのは「燕B地区」で18.4%、「息子・娘との2世帯」の割合が最も高いのは「分水地区」で29.5%となっています。



● 経済的状況

(2) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

「ふつう」が61.3%と最も高く、次いで「やや苦しい」が23.9%となっています。  
 年齢別にみると、「85～89歳」で「大変苦しい」、「やや苦しい」割合が最も高くなっている一方で、「大変ゆとりがある」割合も最も高くなっています。

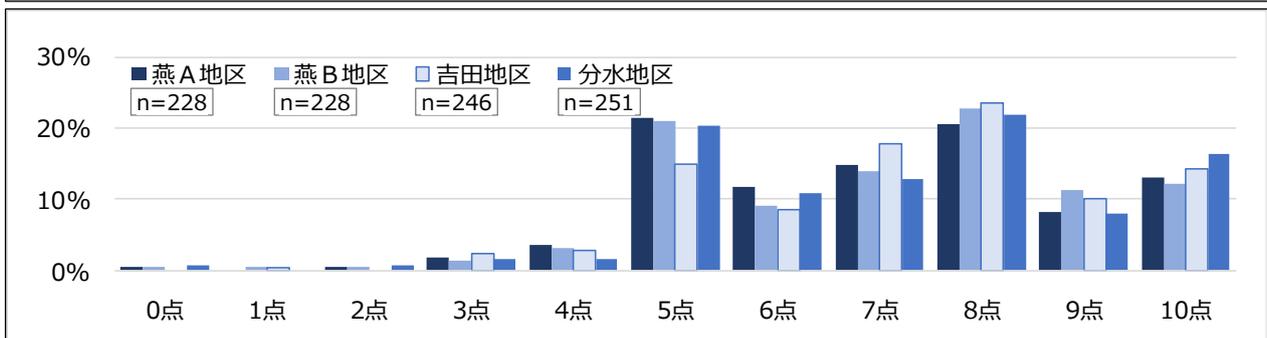
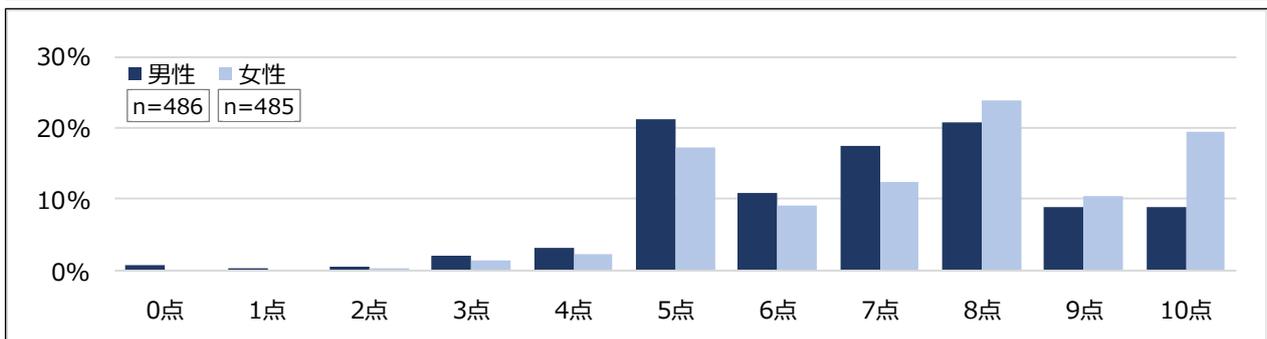
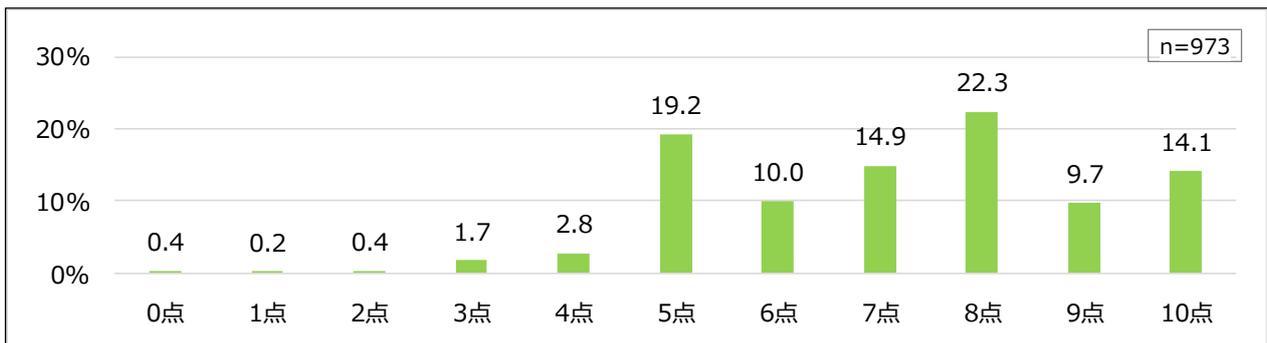


## 2. 健康等について

### ●幸福度

(1) あなたは、現在どの程度幸せですか（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）

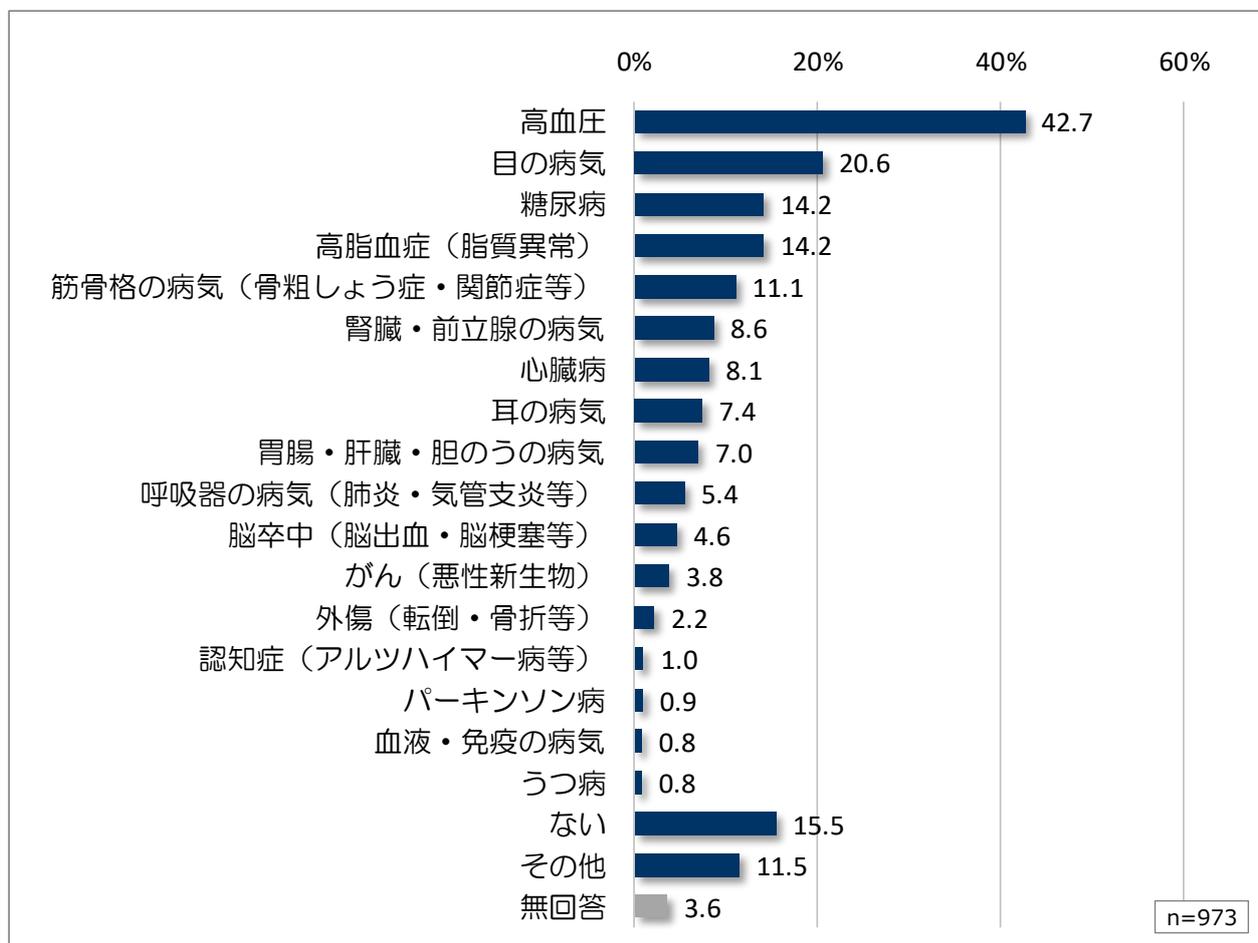
「8点」が22.3%と最も高く、次いで「5点」が19.2%で、平均は7.1点となっています。



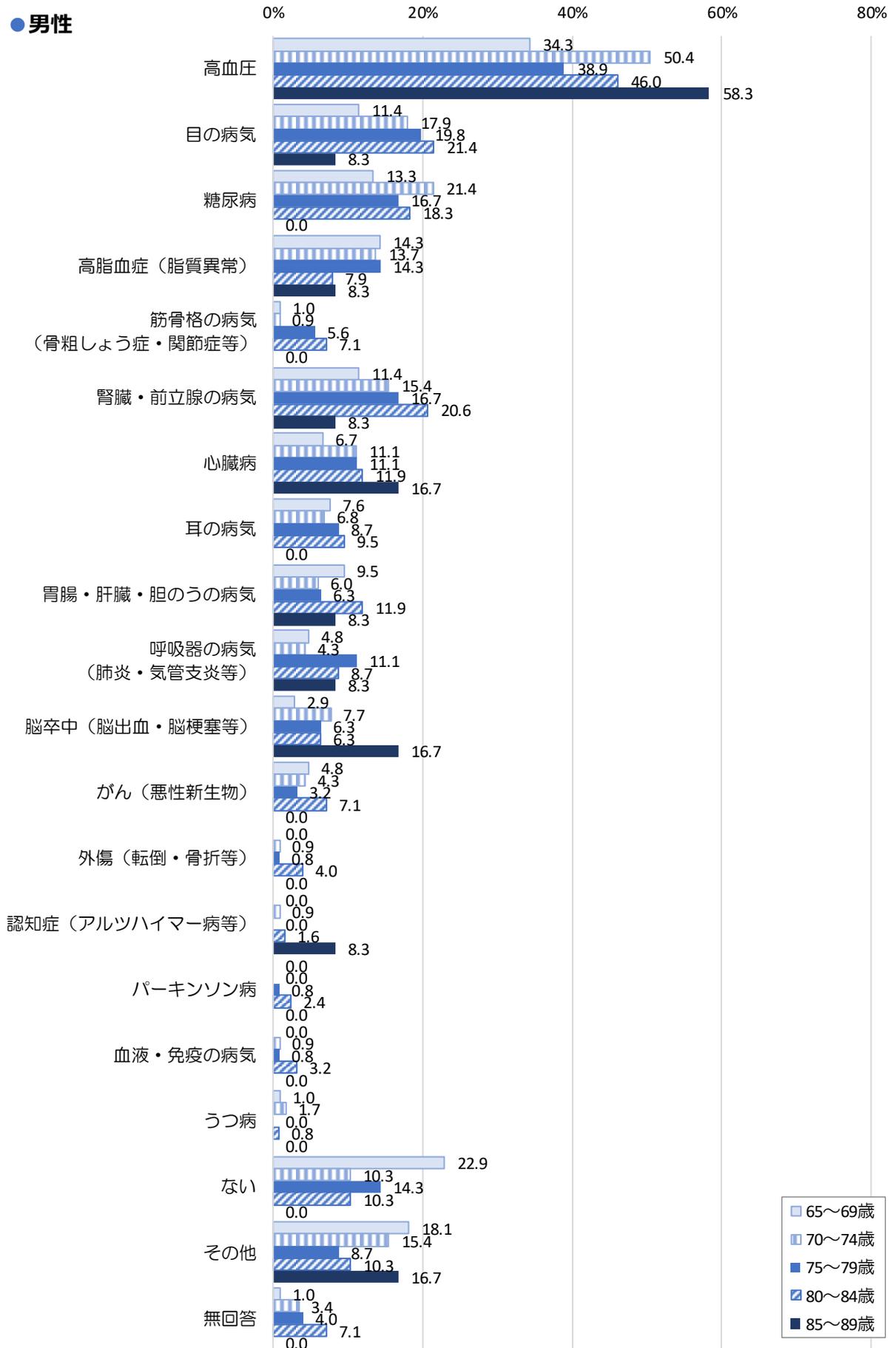
## ●病気について

### (2) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（複数回答）

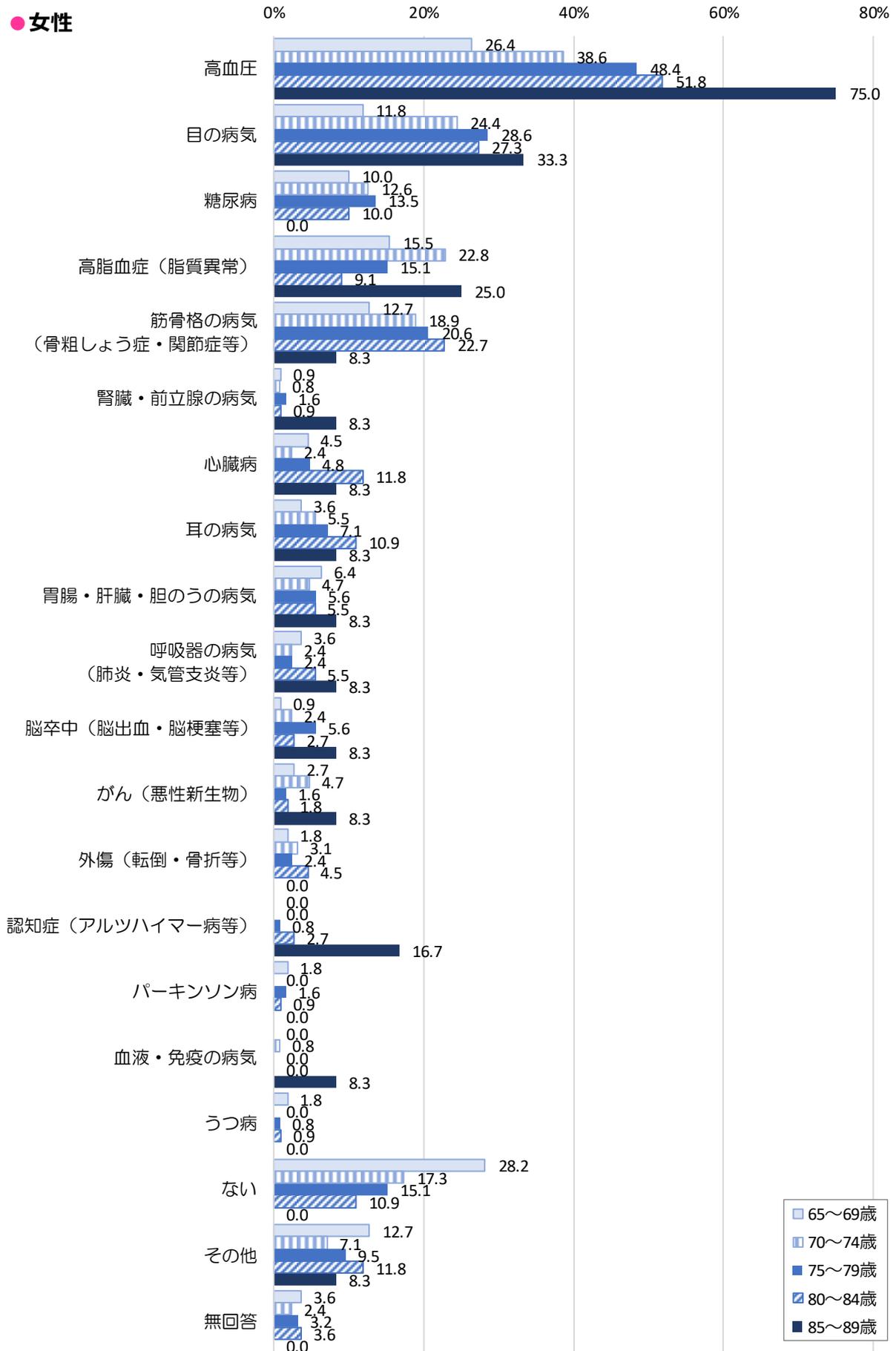
「高血圧」が42.7%と最も高く、次いで「目の病気」が20.6%、「糖尿病」と「高脂血症（脂質異常）」が14.2%となっています。「ない」は15.5%となっています。



● 男性



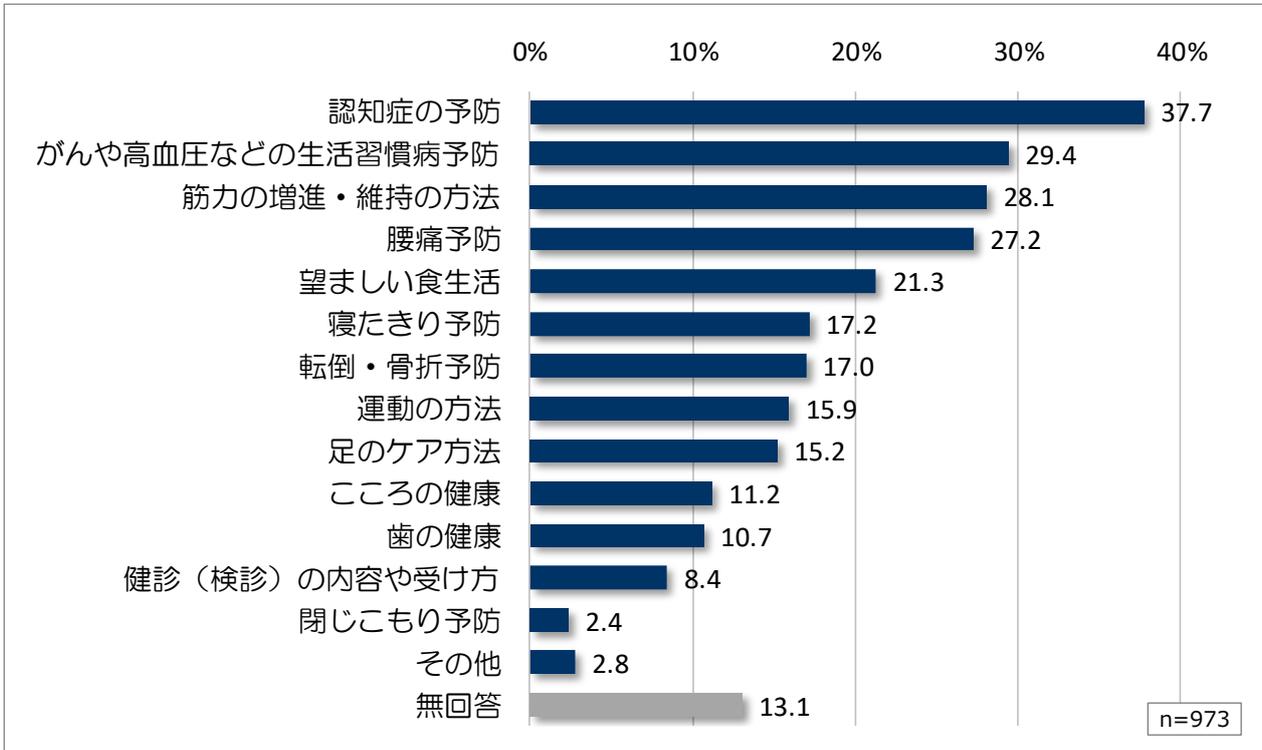
●女性



## ●健康についての情報

### (3) 健康についてどのような情報が知りたいですか（複数回答）

「認知症の予防」が37.7%と最も高く、次いで「がんや高血圧などの生活習慣病予防」が29.4%となっています。



## ●成年後見制度

### (4) 「成年後見制度」を知っていますか

※「成年後見制度」とは、後見人等が、あなたの代理で契約したり、同意したり、あなたに不利な契約を取り消したりすることができる制度です。

「知っている」と「少し知っている」を合わせると32.9%となっています。一方で「まったく知らない」は30.4%と最も高くなっています。



(5) あなた自身が認知症などで判断が十分にできなくなったとき、「成年後見制度」を利用したいと思いますか

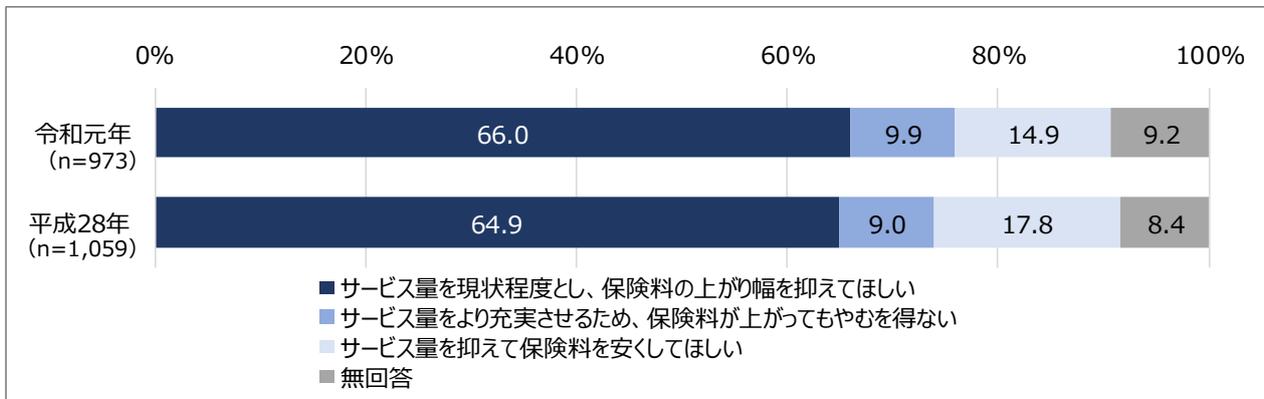
「わからない」が58.3%と最も高くなっています。「利用したい」は17.9%、「利用したくない」は16.4%となっています。



### 3. 介護保険料について

(1) 介護保険の利用者の増加と高齢化の進行により、サービス量を現状程度に保っていくためには、介護保険料も高くなっていきます。あなたは介護保険のサービスと保険料の関係について、おおよそどのように考えていますか

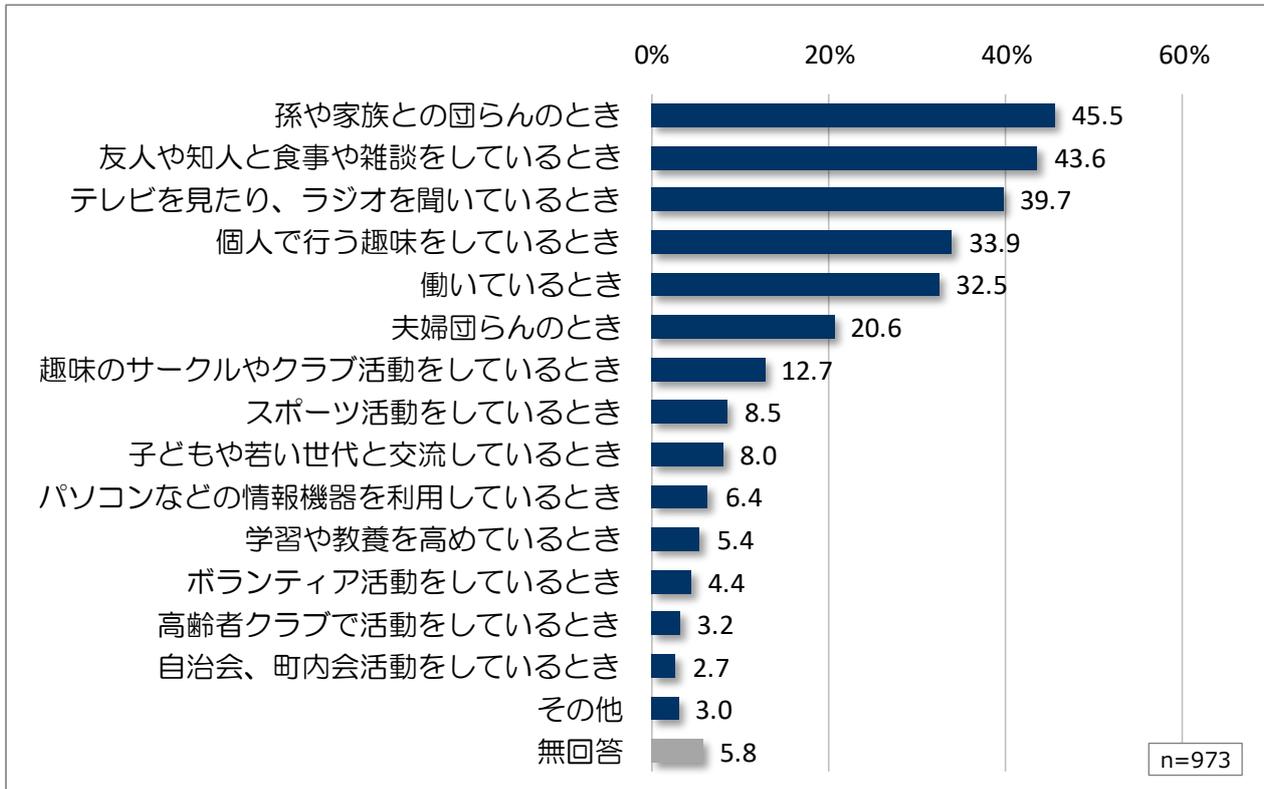
「サービス量を現状程度とし、保険料の上がり幅を抑えてほしい」が66.0%と最も高くなっています。



## 4. 生きがいや社会参加について

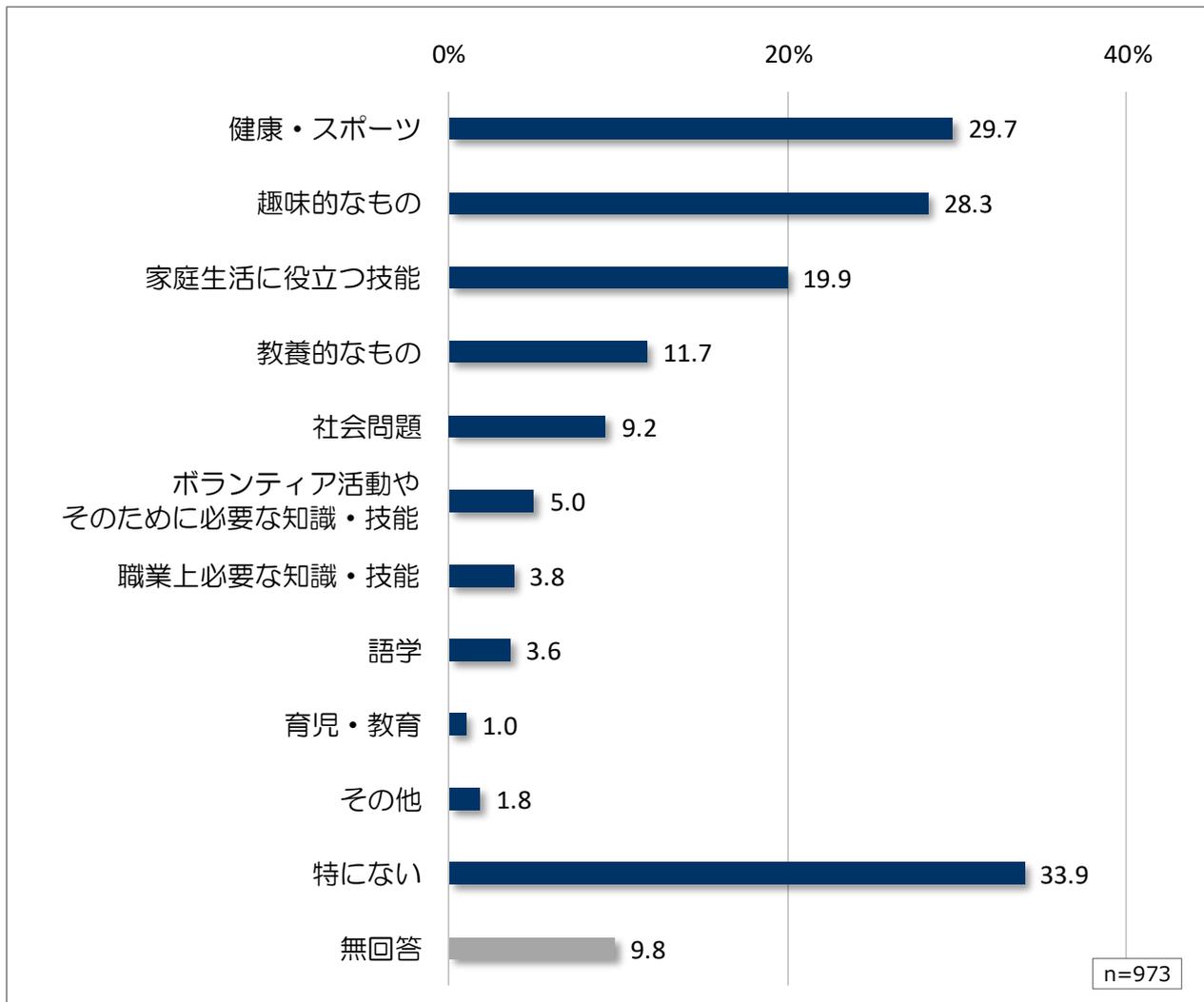
### (1) あなたは日頃の生活で生きがいを感じているのはどんなことですか(〇は3つ)

「孫や家族との団らんのとき」が45.5%と最も高く、次いで「友人や知人と食事や雑談をしているとき」が43.6%となっています。



## (2) あなたが今後（老後）学習してみたいことは何ですか（複数回答）

「健康・スポーツ」が29.7%、次いで「趣味的なもの」が28.3%となっています。一方で「特にない」が33.9%となっています。



- \*健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）
- \*趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）
- \*家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）
- \*教養的なもの（文学、歴史など）
- \*社会問題（社会・時事問題・国際問題、環境問題など）
- \*ボランティア活動やそのために必要な知識・技能（点訳、手話、介護など）
- \*職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）
- \*語学（英会話など）
- \*育児・教育（幼児教育、教育問題など）

### 3 評価項目別のリスク分析結果

#### 1. 運動器機能

##### ■運動器機能の低下 判定基準

設問	0点	1点
問2(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない	3. できない
問2(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない	3. できない
問2(3) 15分位続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない	3. できない
問2(4) 過去1年間に転んだことがありますか	3. ない	1. 何度もある 2. 1度ある
問2(5) 転倒に対する不安は大きいですか	3. あまり不安ではない 4. 不安ではない	1. とても不安である 2. やや不安である

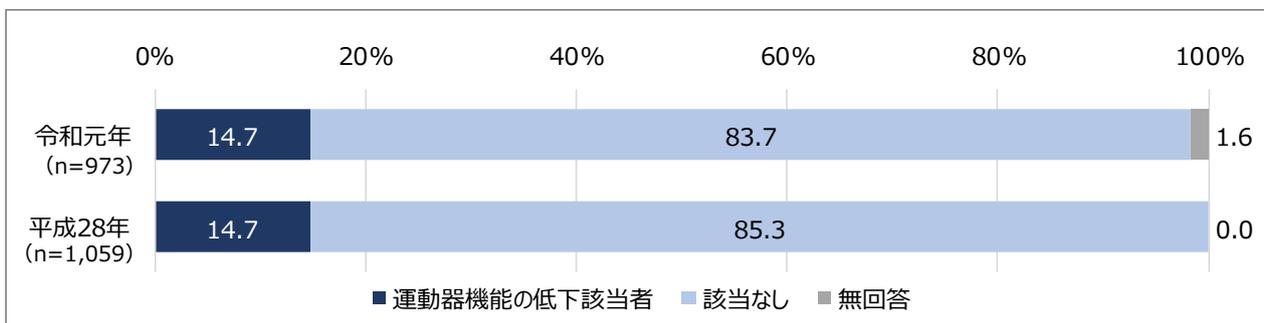
5項目の合計得点	2点以下	3点以上
運動器機能の低下：判定カテゴリ	該当なし	運動器機能の低下 該当者

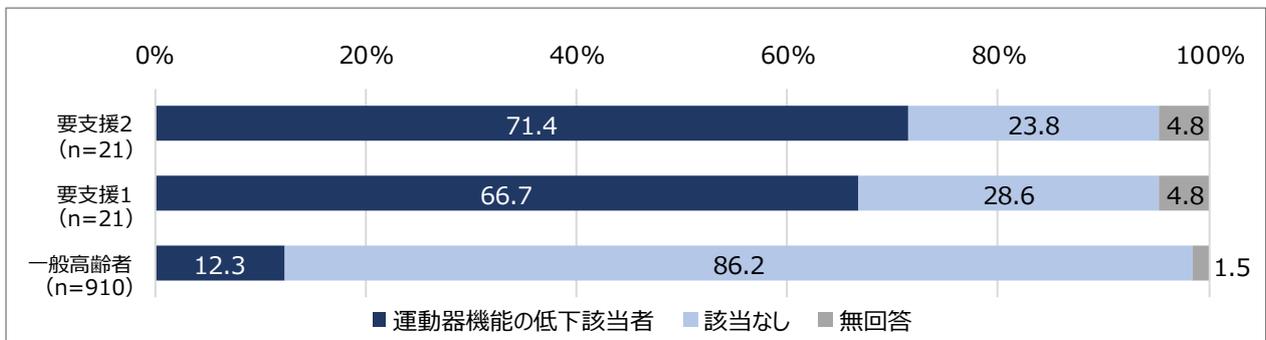
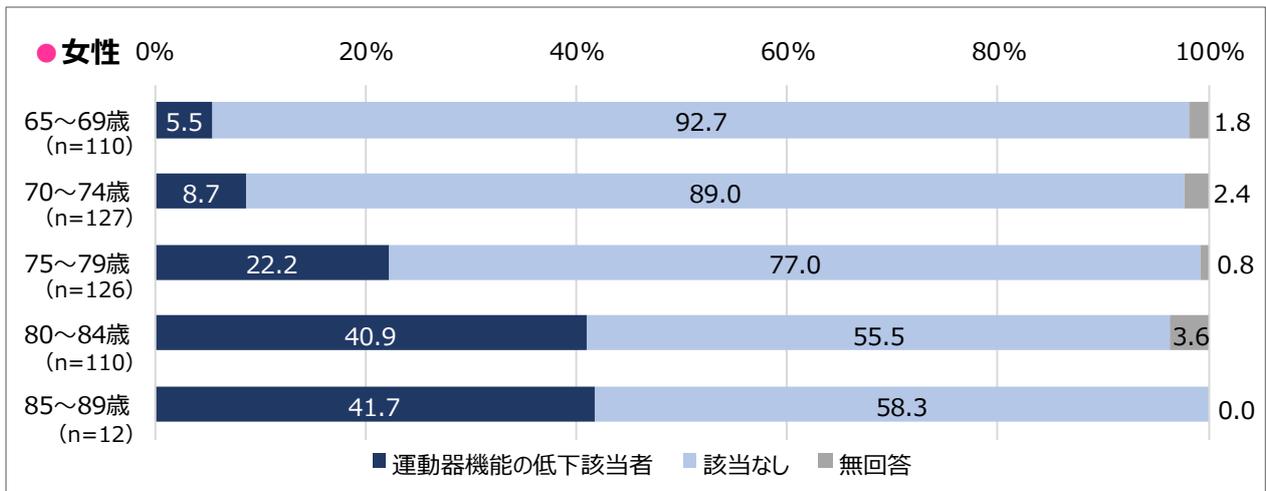
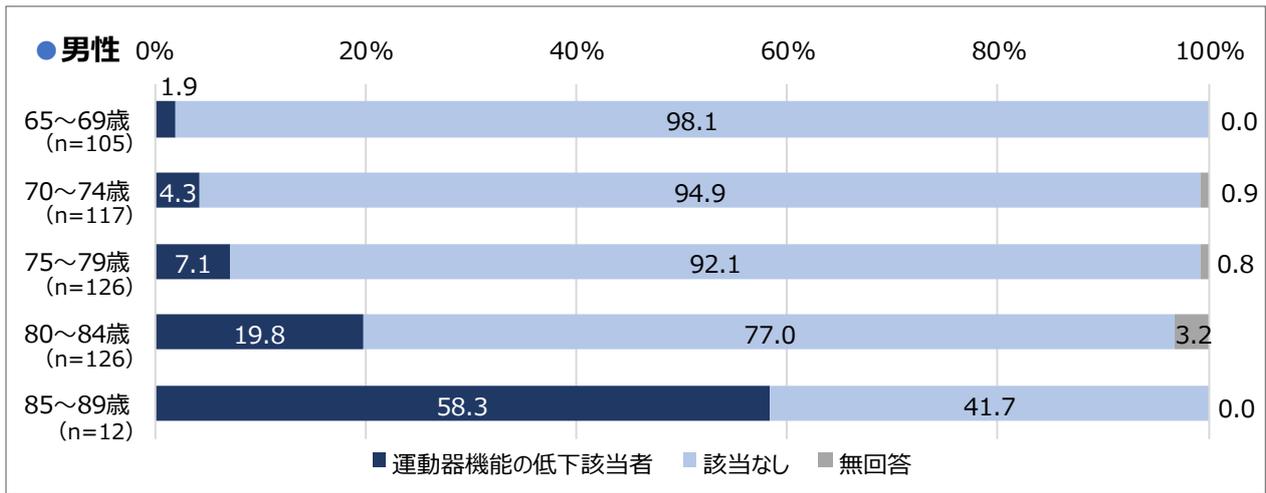
運動器機能低下のリスク該当者は14.7%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれてリスク該当者の割合が高くなっています。

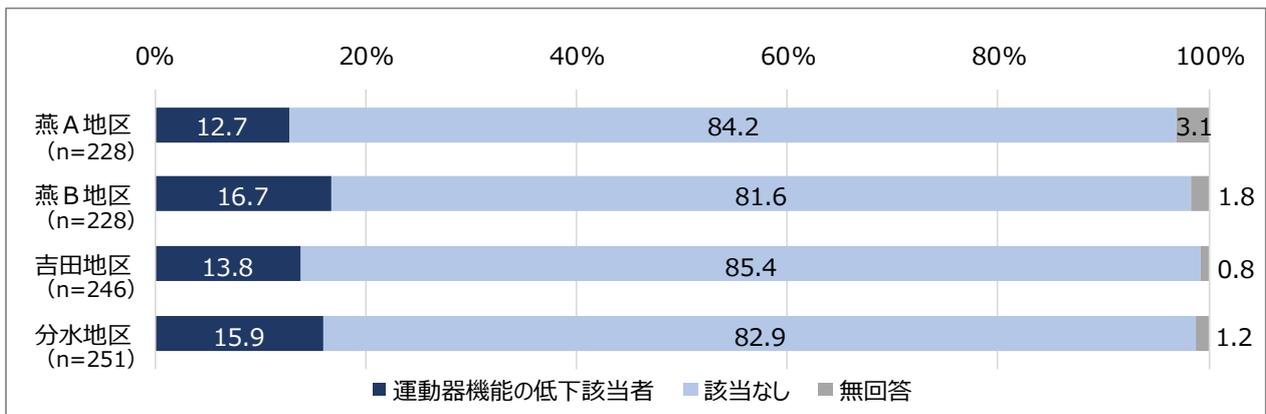
認定区分別にみると、リスク該当者の割合は「要支援2」は71.4%、「要支援1」は66.7%、「一般高齢者」は12.3%となっています。

日常生活圏域別にみると、リスク該当者の割合が最も高いのは「燕B地区」で16.7%、最も低いのは「燕A地区」で12.7%となっています。





\* 総合事業対象者は該当数が 1 人 (n=1) のためグラフに表記していません。



## 2. 転倒

### ■ 転倒リスク 判定基準

設問	0点	1点
問2 (4) 過去1年間に転んだことがありますか	3. ない	1. 何度もある 2. 1度ある

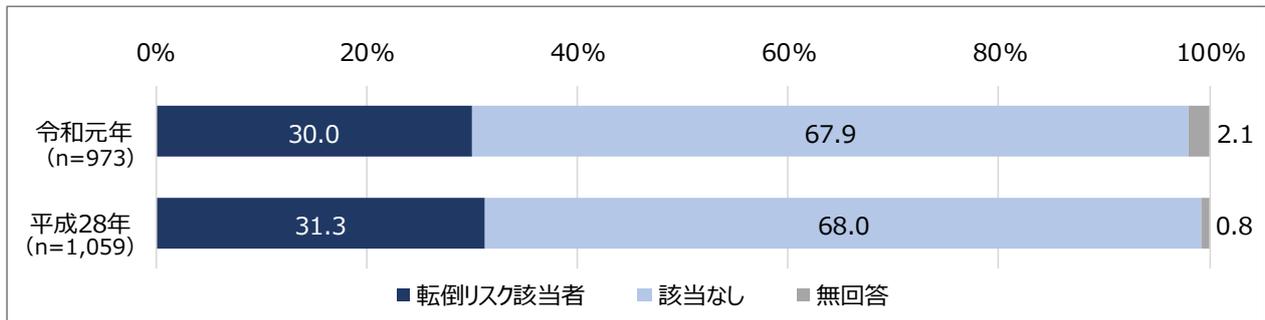
1項目の合計得点	0点	1点
転倒リスク：判定カテゴリ	該当なし	転倒リスク 該当者

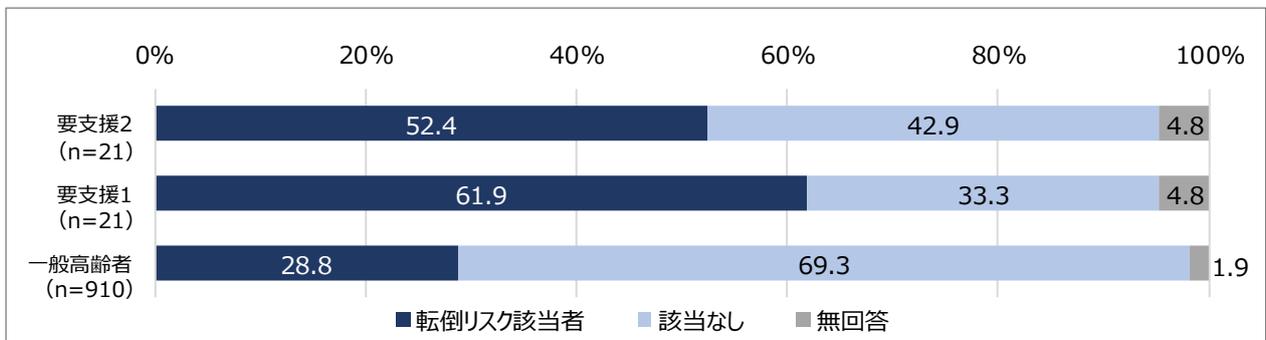
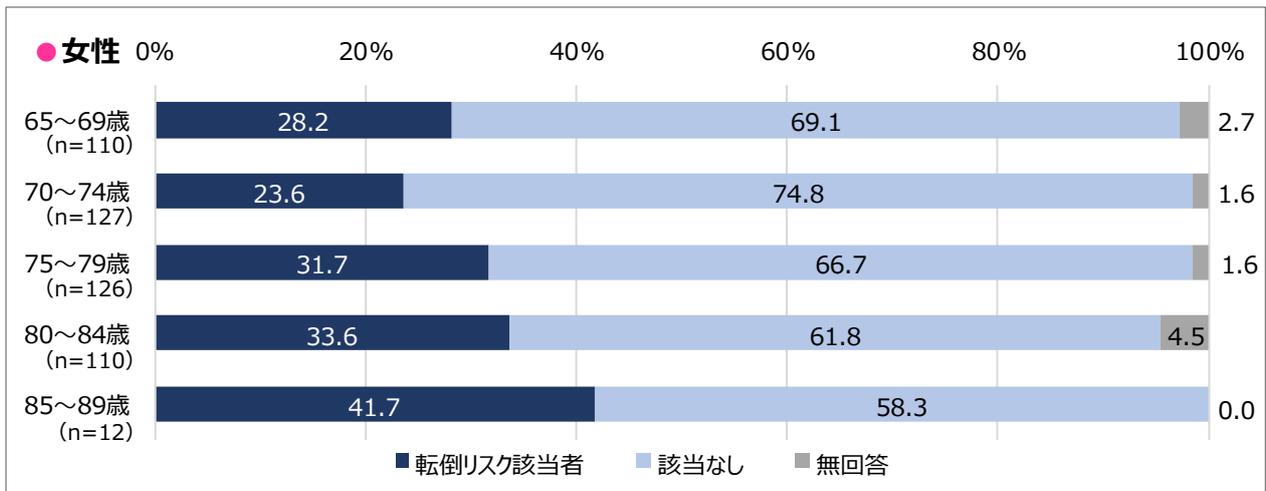
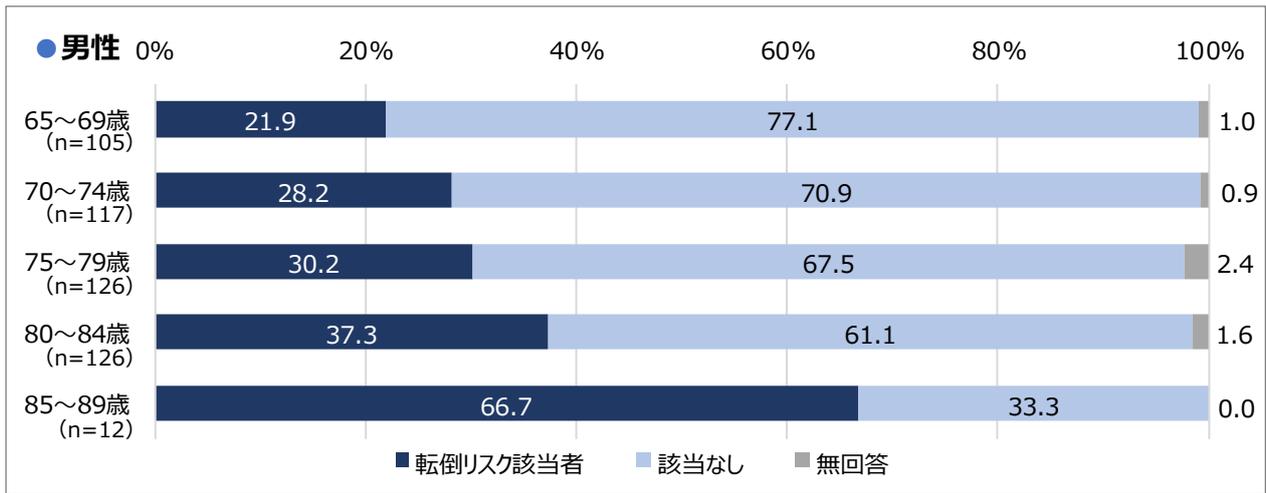
転倒のリスク該当者は30.0%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれてリスク該当者の割合が高くなる傾向にあります。特に男性では「65～69歳」では21.9%ですが、「85～89歳」では66.7%となっています。

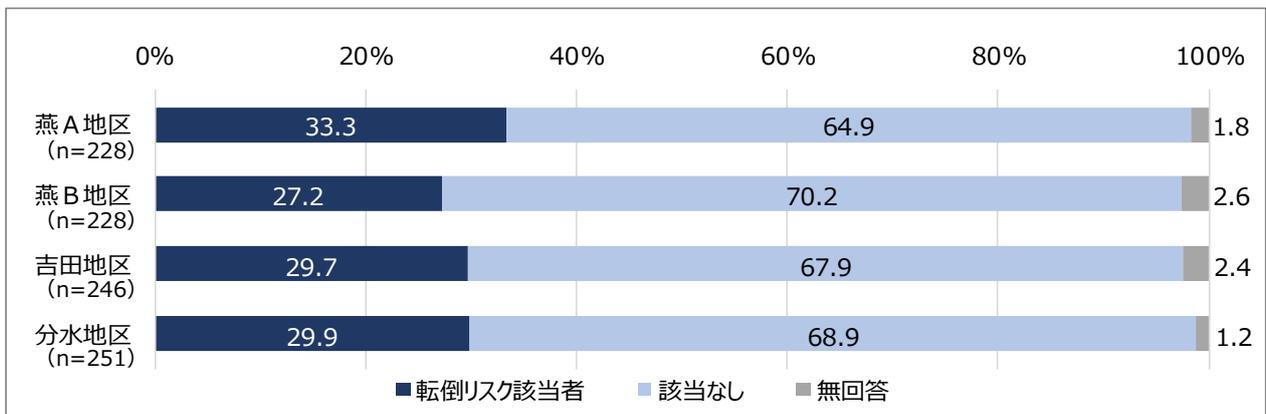
認定区分別にみると、リスク該当者の割合は「要支援2」は52.4%、「要支援1」は61.9%、「一般高齢者」は28.8%となっています。

日常生活圏域別にみると、リスク該当者の割合が最も高いのは「燕A地区」で33.3%、最も低いのは「燕B地区」で27.2%となっています。





\* 総合事業対象者は該当数が 1 人 (n=1) のためグラフに表記していません。



### 3. 閉じこもり

#### ■ 閉じこもり傾向 判定基準

設問	0点	1点
問2 (6) 週に1回以上は外出していますか	3. 週2~4回 4. 週5回以上	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

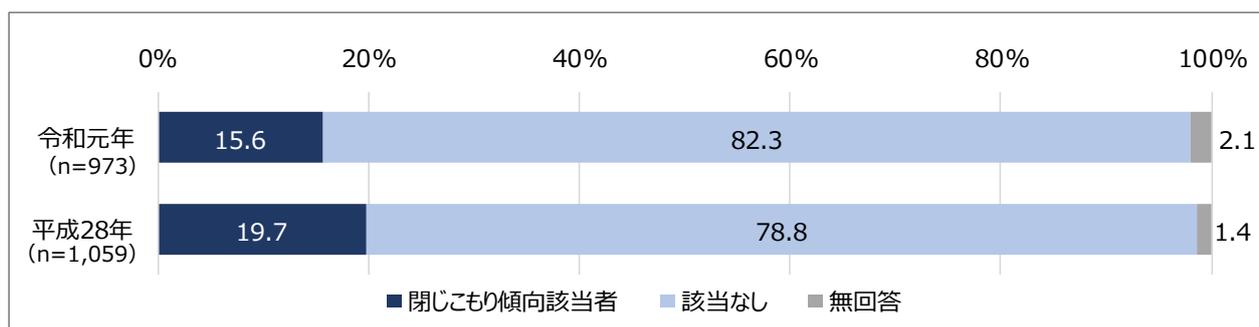
1項目の合計得点	0点	1点
閉じこもり傾向：判定カテゴリ	該当なし	閉じこもり傾向 該当者

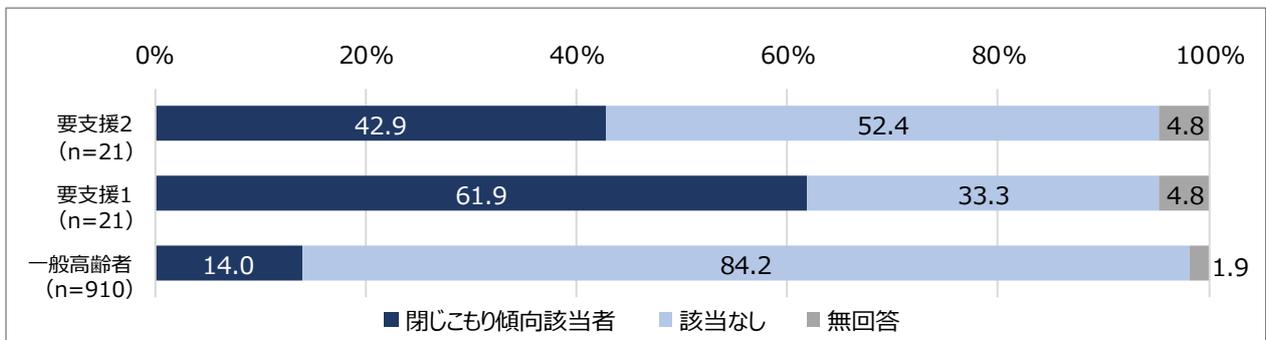
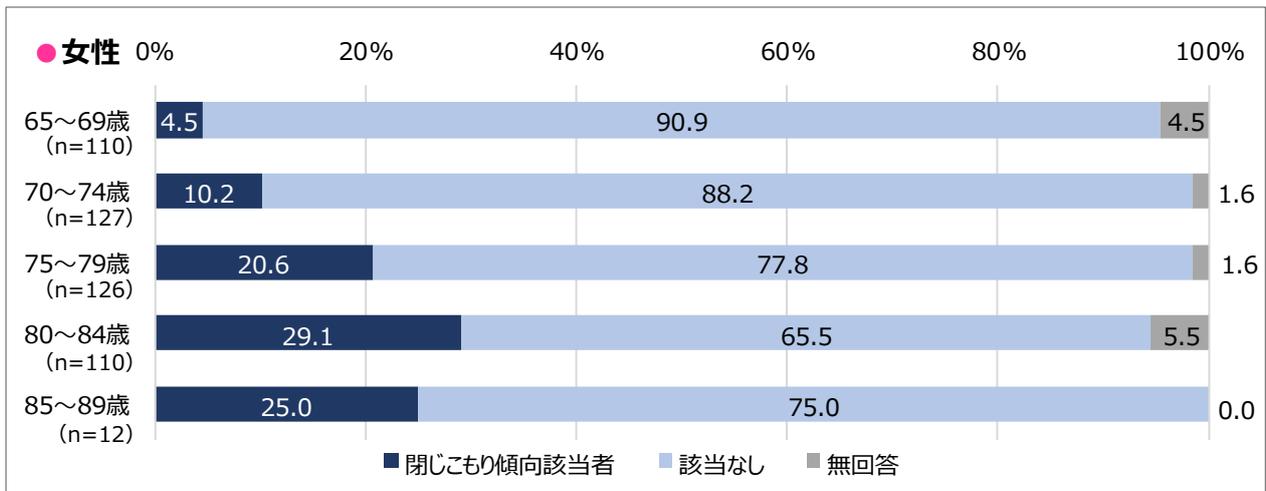
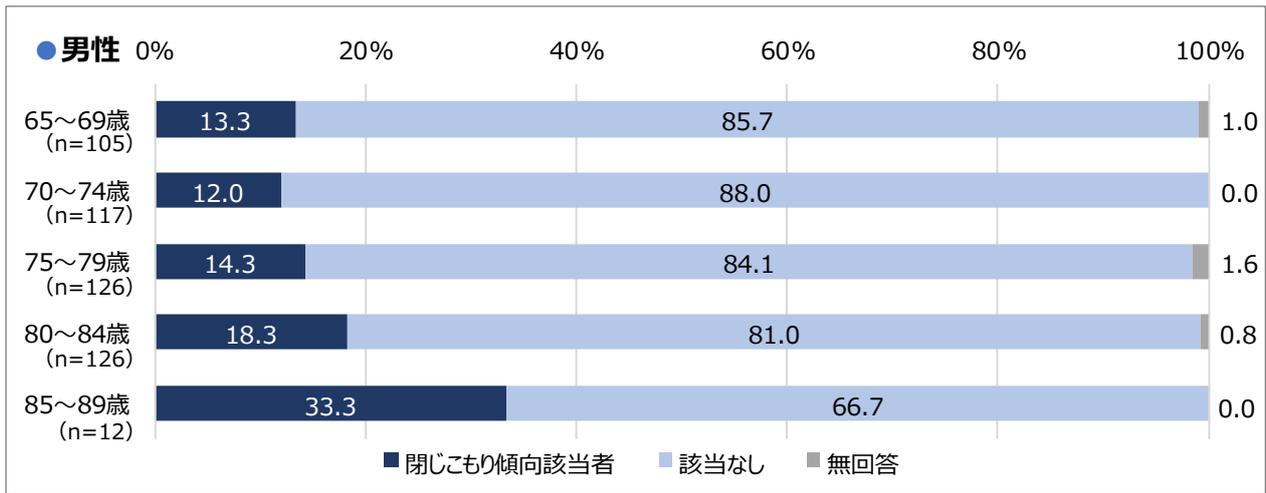
閉じこもり傾向のリスク該当者は15.6%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれてリスク該当者の割合が高くなる傾向にあります。

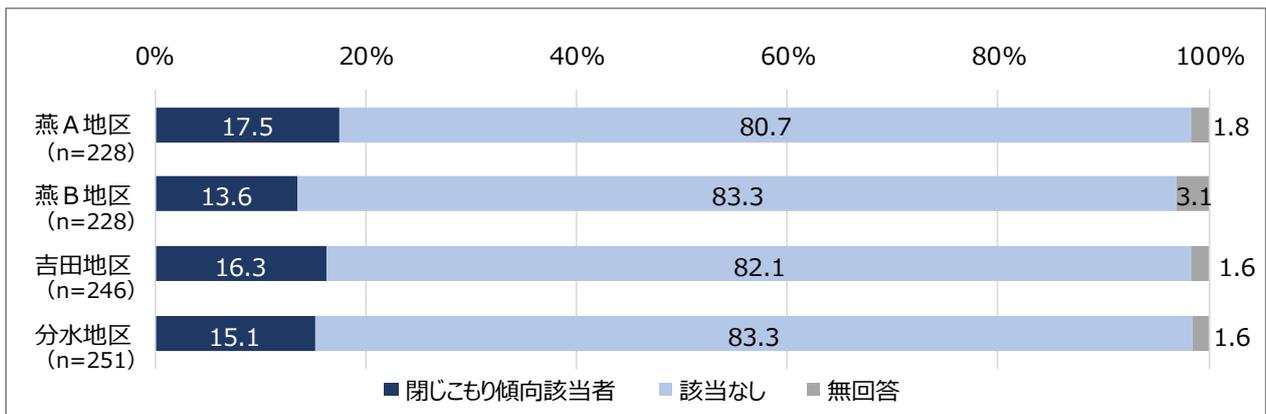
認定区分別にみると、リスク該当者の割合は「要支援2」は42.9%、「要支援1」は61.9%、「一般高齢者」は14.0%となっています。

日常生活圏域別にみると、リスク該当者の割合が最も高いのは「燕A地区」で17.5%、最も低いのは「燕B地区」で13.6%となっています。





\* 総合事業対象者は該当数が 1 人 (n=1) のためグラフに表記していません。



## 4. 低栄養

### ■ 低栄養の傾向 判定基準

設問	0点	1点
問3 (1) BMI (身長・体重)	2. 18.5～25.0 未満 3. 25.0 以上	1. 18.5 未満
問3 (10) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	2. いいえ	1. はい

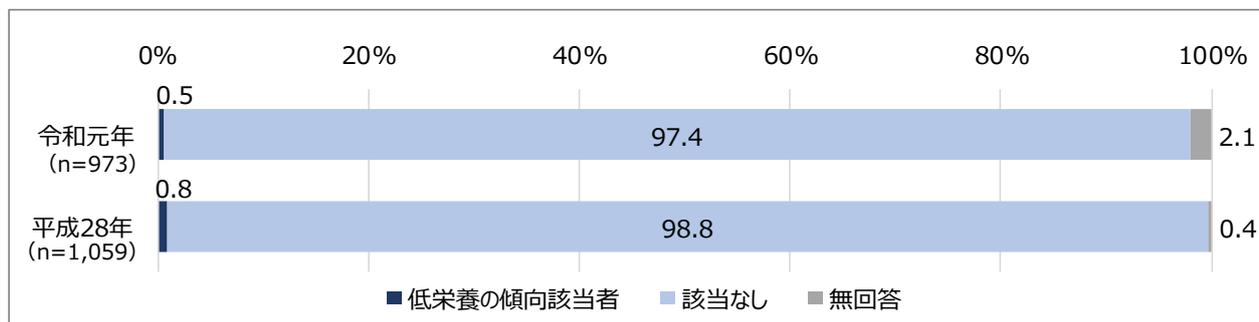
2項目の合計得点	1点以下	2点
低栄養の傾向：判定カテゴリ	該当なし	低栄養の傾向 該当者

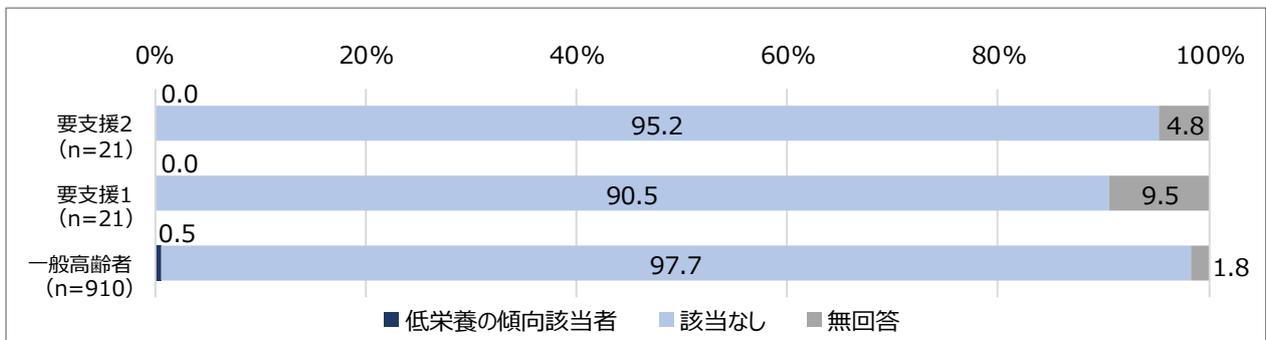
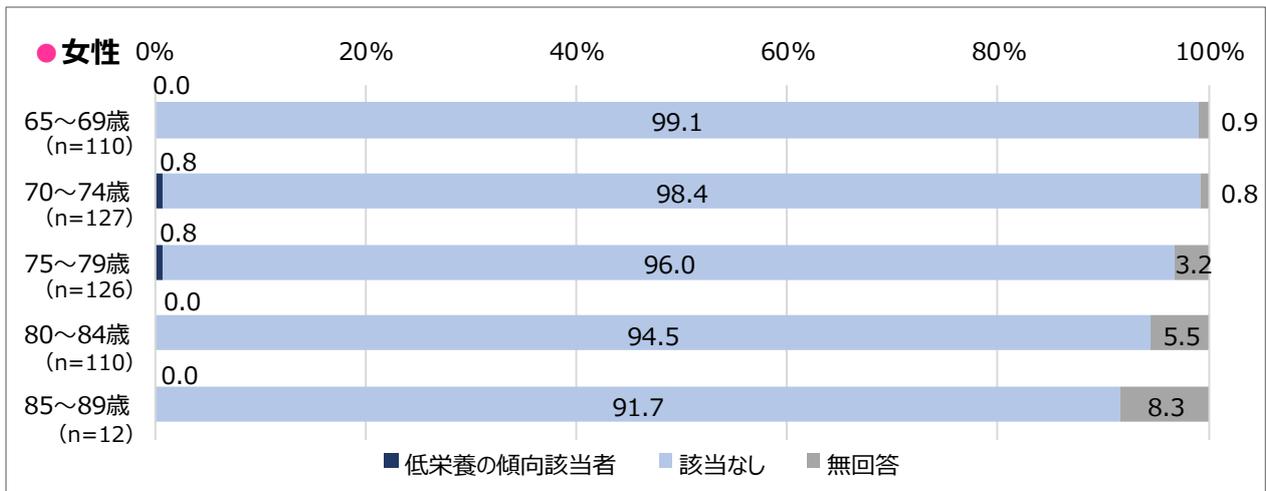
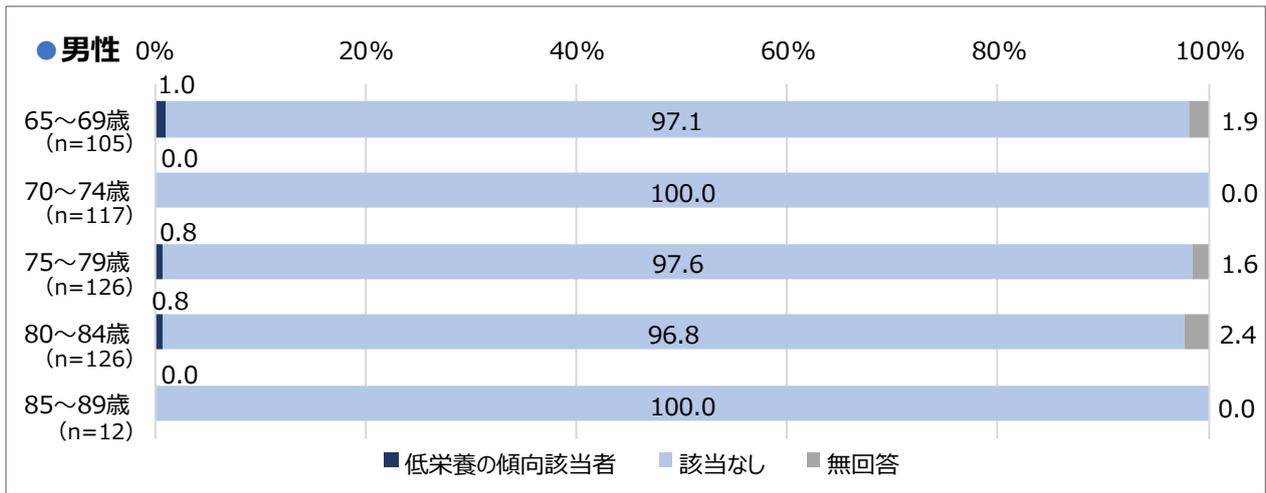
低栄養のリスク該当者は0.5%となっています。

リスク該当者数が少ないため、性別・年齢別に大きな差はみられませんでした。

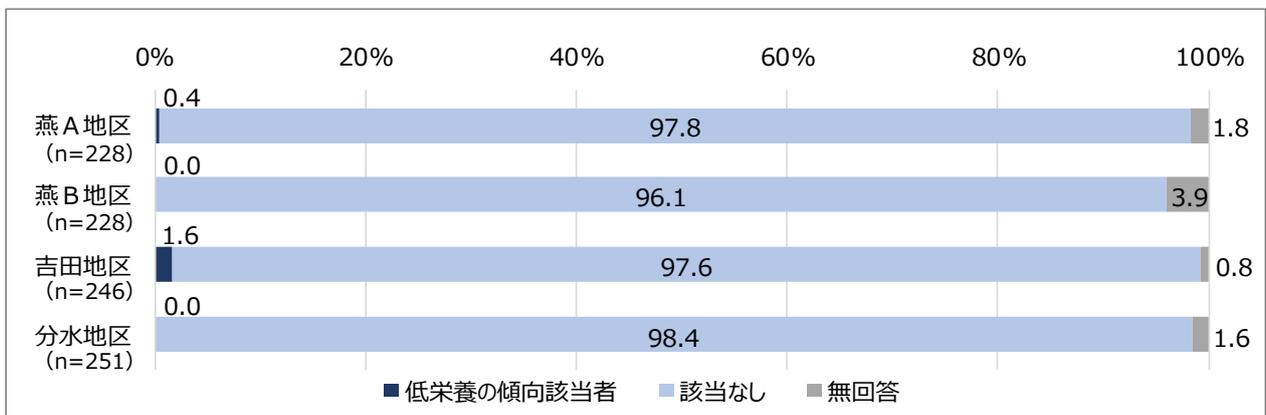
認定区分別にみると、「要支援2」、「要支援1」ではリスク該当者は0.0%、「一般高齢者」では0.5%となっています。

日常生活圏域別にみると、リスク該当者の割合が最も高いのは「吉田地区」で1.6%となっています。「燕B地区」と「分水地区」ではリスク該当者0.0%となっています。





\* 総合事業対象者は該当数が 1 人 (n=1) のためグラフに表記していません。



## 5. 口腔機能

### ■ 口腔機能の低下 判定基準

設問	0点	1点
問3(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	2. いいえ	1. はい
問3(3) お茶や汁物等でむせることがありますか	2. いいえ	1. はい
問3(4) 口の渇きが気になりますか	2. いいえ	1. はい

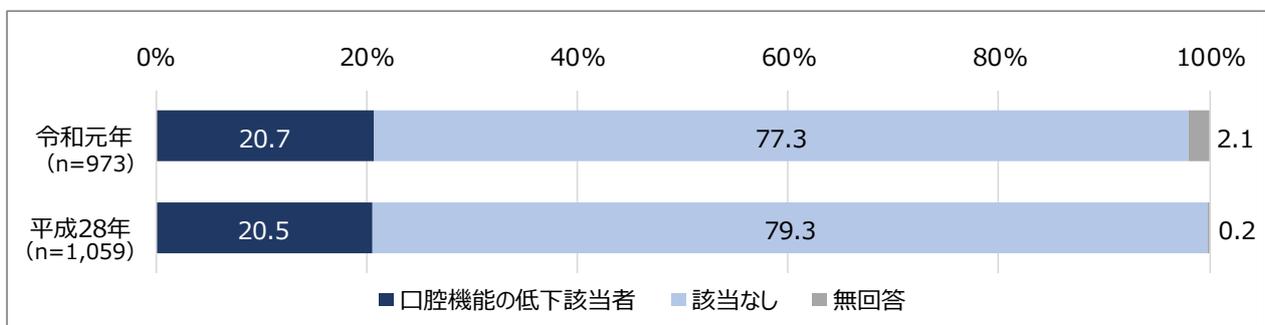
3項目の合計得点	1点以下	2点以上
口腔機能の低下：判定カテゴリ	該当なし	口腔機能の低下 該当者

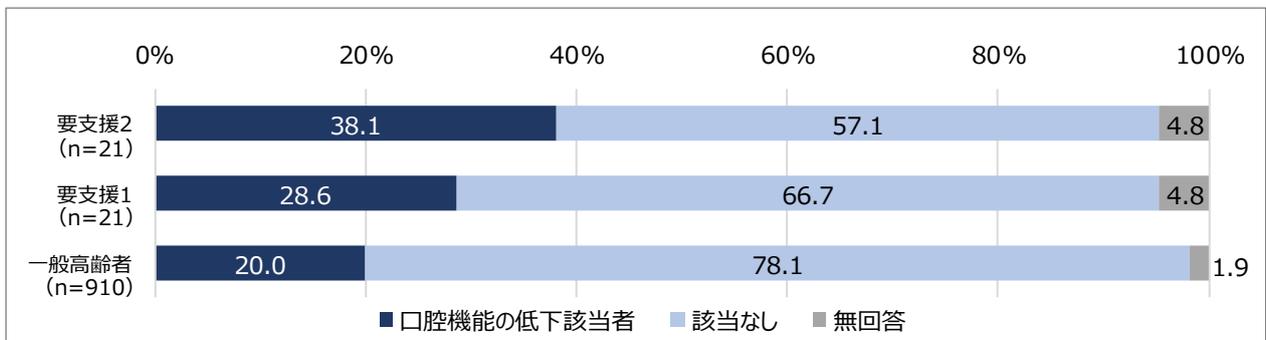
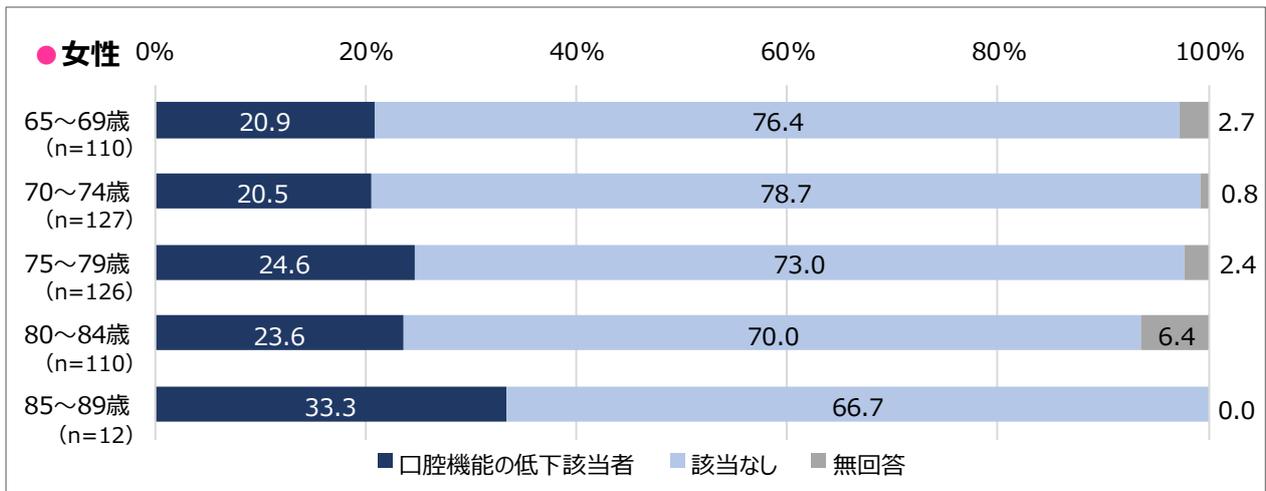
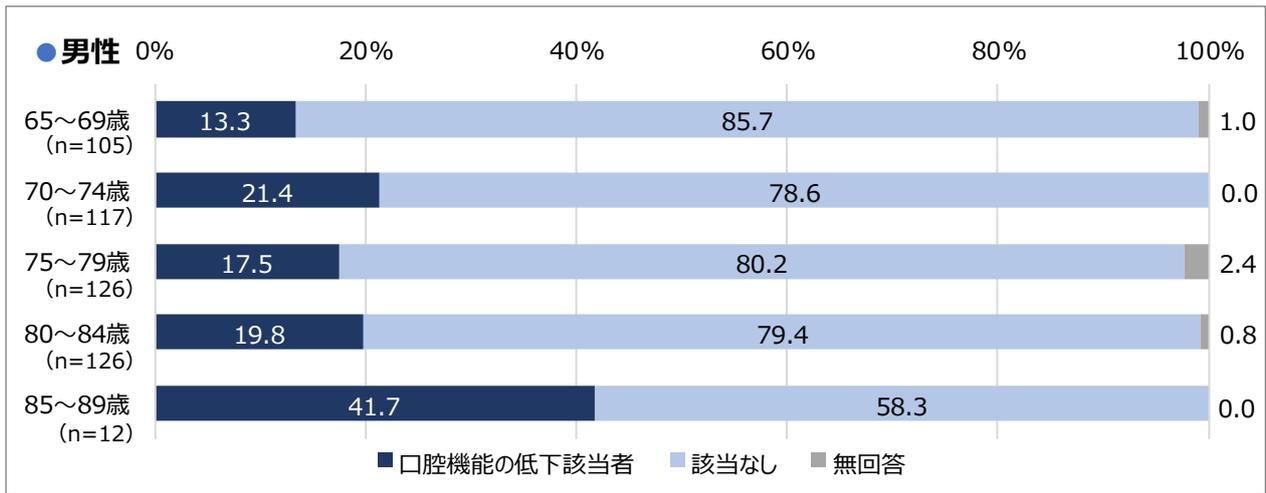
口腔機能低下のリスク該当者は20.7%となっています。

性別・年齢別にみると、男性よりも女性の方がリスク該当者の割合が高くなっていますが、「85～89歳」では男性の方が割合が高くなっています。

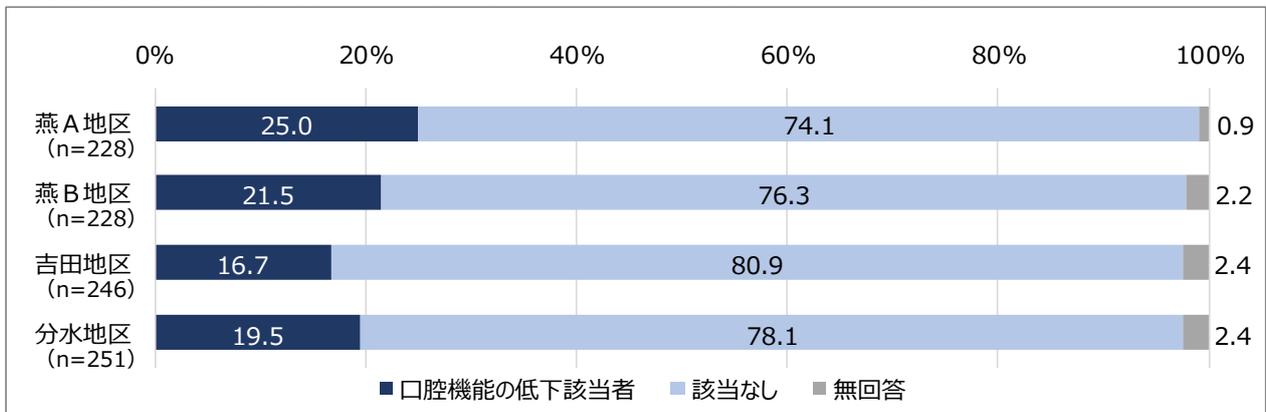
認定区分別にみると、リスク該当者の割合は「要支援2」は38.1%、「要支援1」は28.6%、「一般高齢者」は20.0%となっています。

日常生活圏域別にみると、リスク該当者の割合が最も高いのは「燕A地区」で25.0%、最も低いのは「吉田地区」で16.7%となっています。





\* 総合事業対象者は該当数が 1 人 (n=1) のためグラフに表記していません。



## 6. 認知機能

### ■ 認知機能の低下 判定基準

設問	0点	1点
問4 (1) もの忘れが多いと感じますか	2. いいえ	1. はい

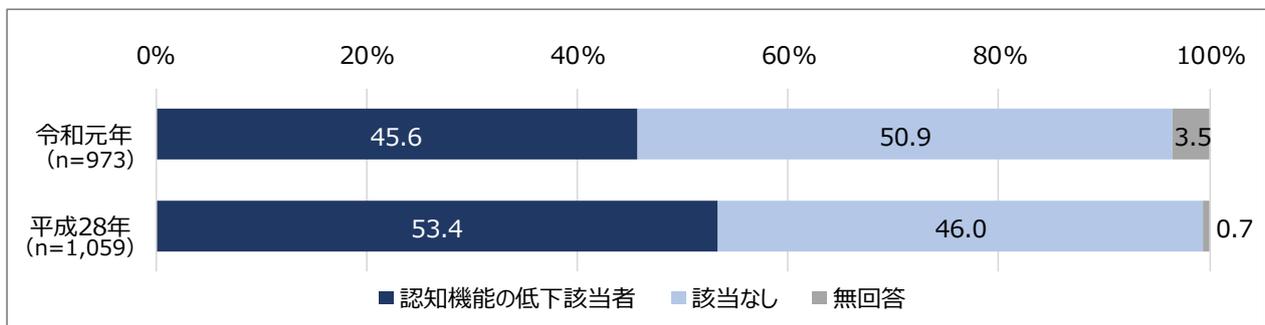
1項目の合計得点	0点	1点
認知機能の低下：判定カテゴリ	該当なし	認知機能の低下 該当者

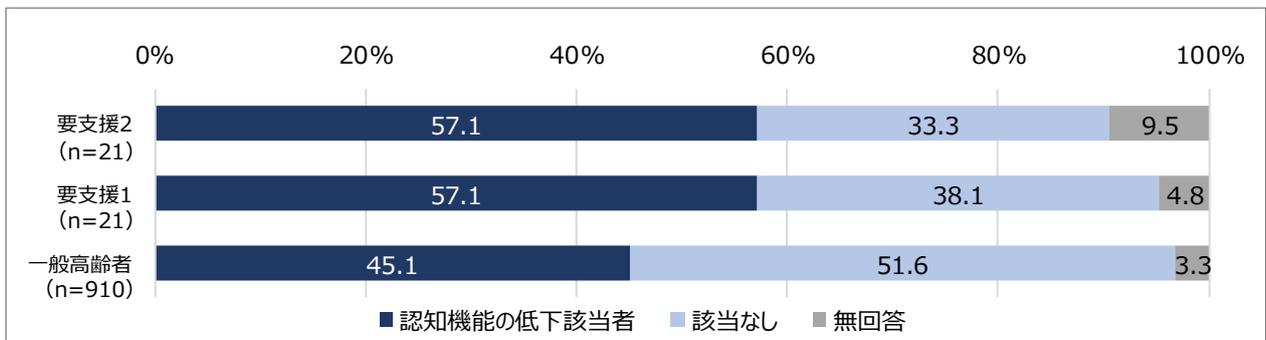
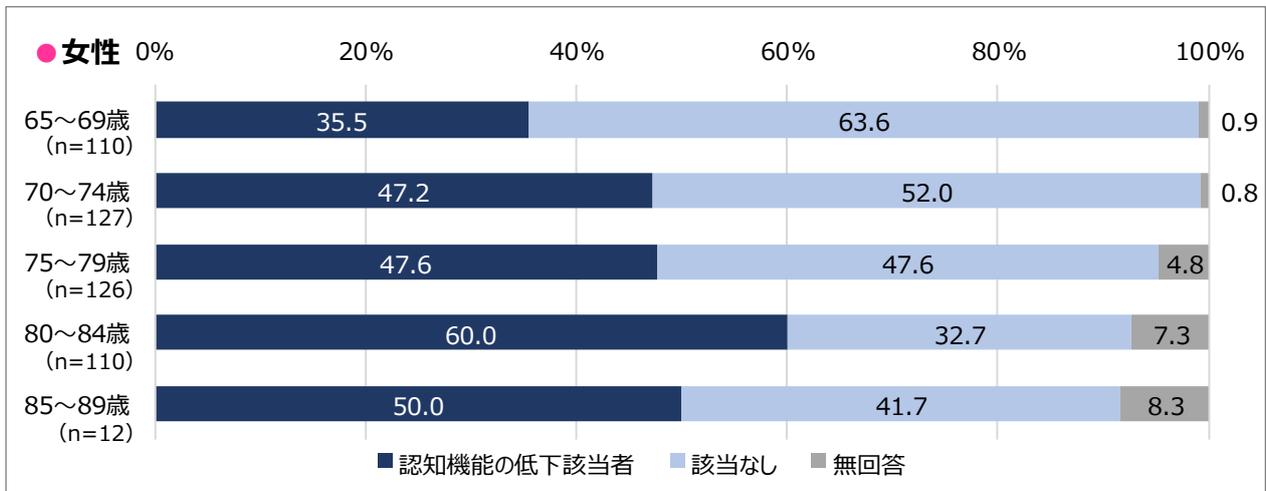
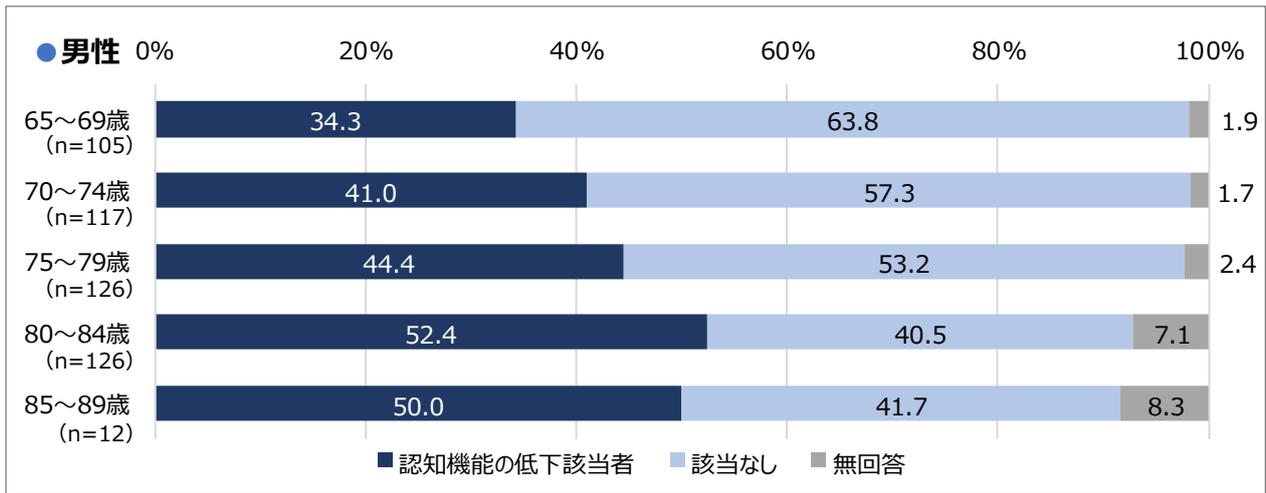
認知機能低下のリスク該当者は 45.6%となっています。平成 28 年調査時より 7.8 ポイント減少しています。

性別・年齢別にみると、男性よりも女性の方がリスク該当者の割合が高くなっています。また、男性・女性ともに年齢が上がるにつれてリスク該当者の割合が高くなる傾向にあります。

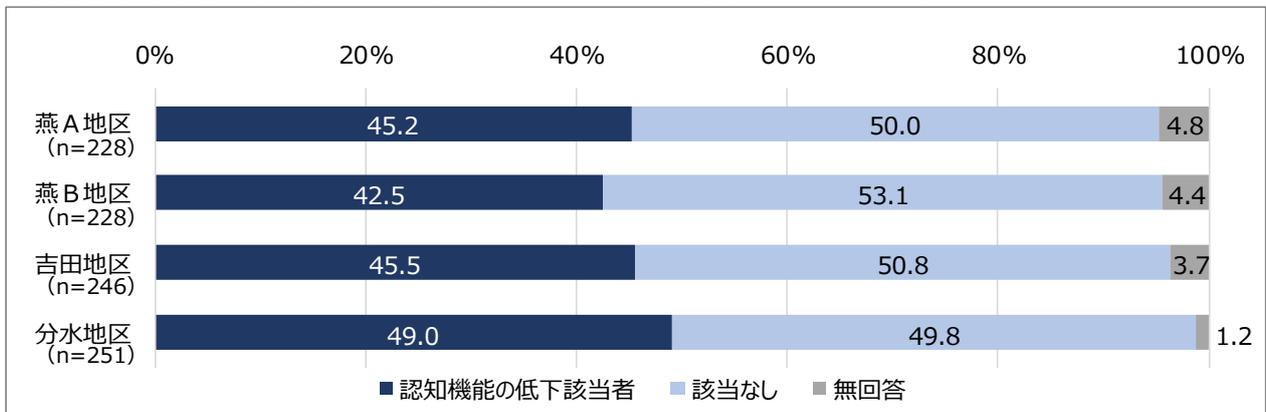
認定区分別にみると、リスク該当者の割合は「要支援 2」、「要支援 1」とともに 57.1%、「一般高齢者」は 45.1%となっています。

日常生活圏域別にみると、リスク該当者の割合が最も高いのは「分水地区」で 49.0%、最も低いのは「燕B地区」で 42.5%となっています。





\* 総合事業対象者は該当数が 1 人 (n=1) のためグラフに表記していません。



## 7. うつ傾向

### ■うつ傾向 判定基準

設問	0点	1点
問7(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	2. いいえ	1. はい
問7(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	2. いいえ	1. はい

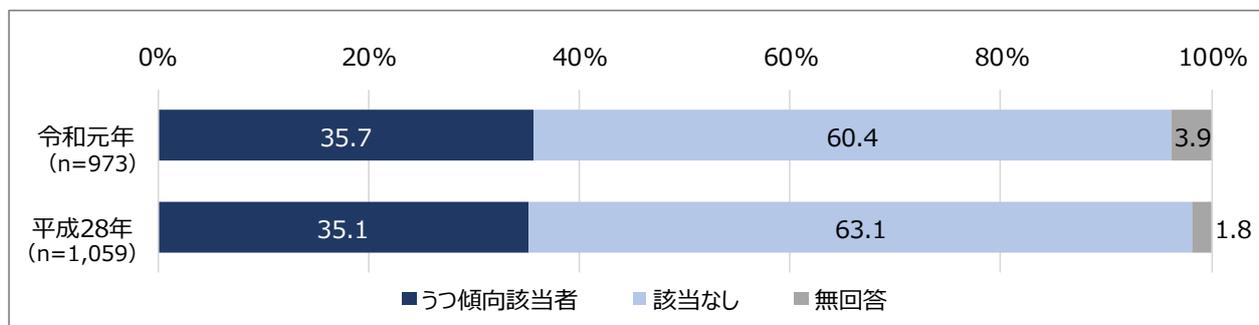
2項目の合計得点	0点	1点以上
うつ傾向：判定カテゴリ	該当なし	うつ傾向 該当者

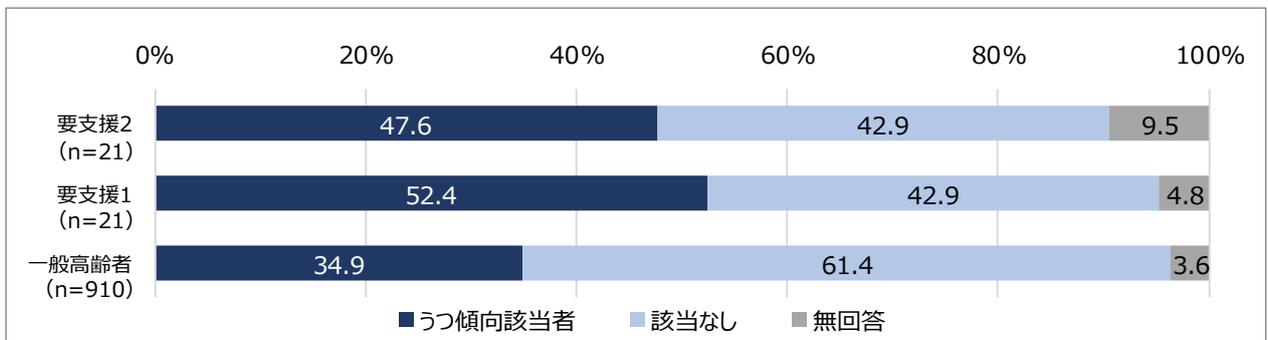
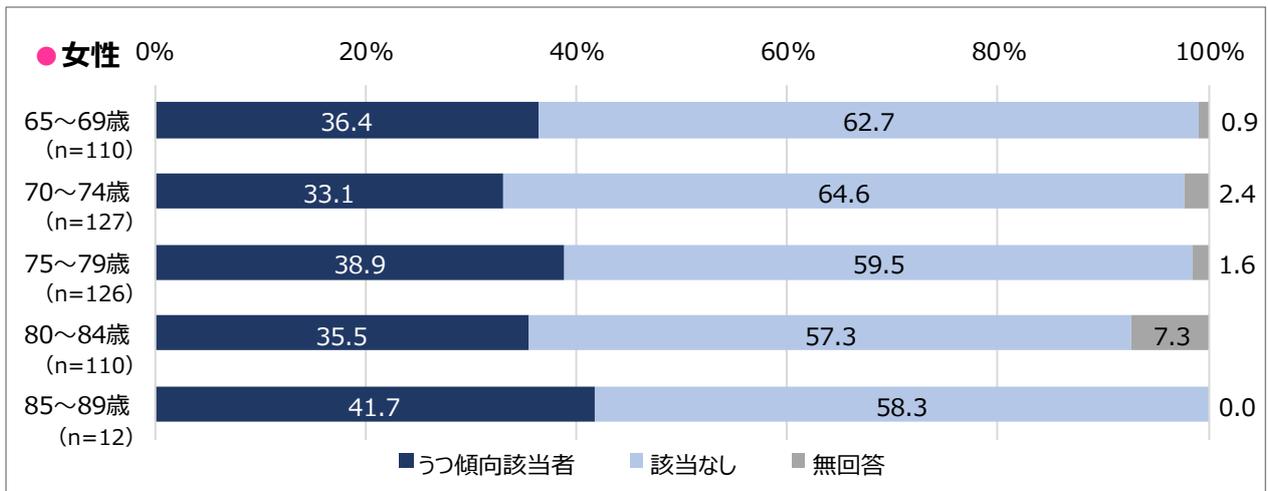
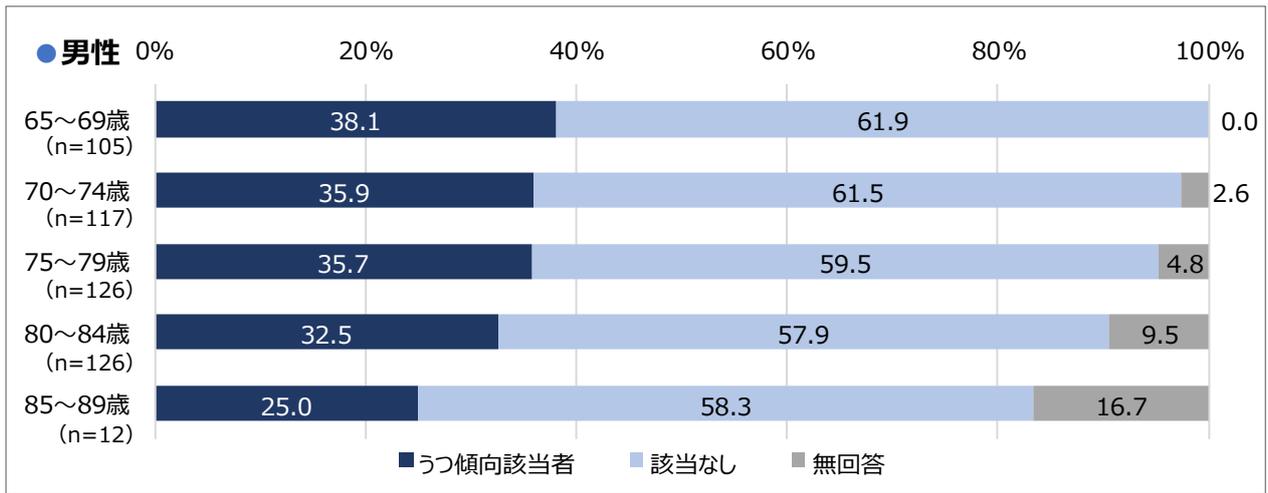
うつ傾向のリスク該当者は35.7%となっています。

性別・年齢別にみると、男性は年齢が上がるにつれてリスク該当者の割合が低くなっていますが、女性は年齢による傾向はあまりみられませんでした。

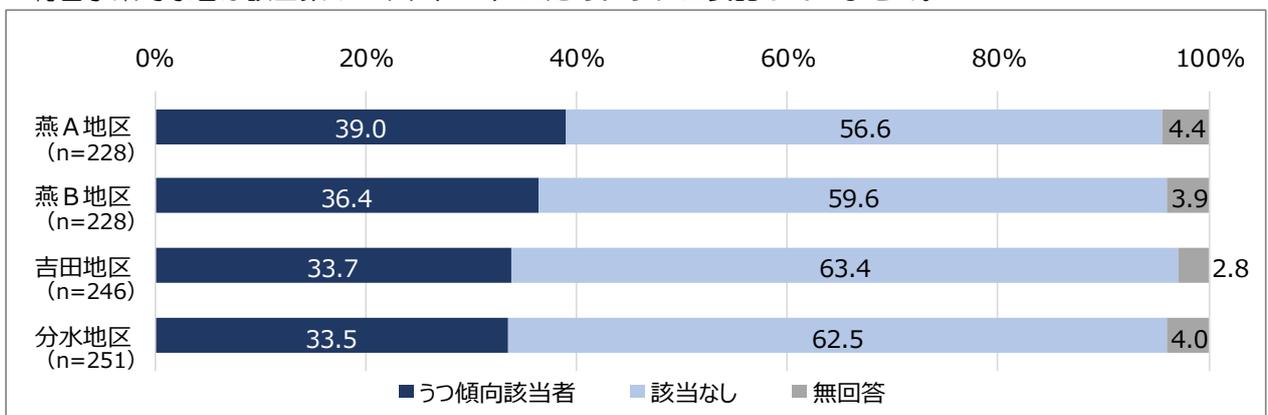
認定区分別にみると、リスク該当者の割合は「要支援2」は47.6%、「要支援1」は52.4%、「一般高齢者」は34.9%となっています。

日常生活圏域別にみると、リスク該当者の割合が最も高いのは「燕A地区」で39.0%となっています。「吉田地区」と「分水地区」では低い傾向にあります。





\* 総合事業対象者は該当数が 1 人 (n=1) のためグラフに表記していません。



## 4 日常生活圏域別の地域分析

### 1. リスク該当者の状況

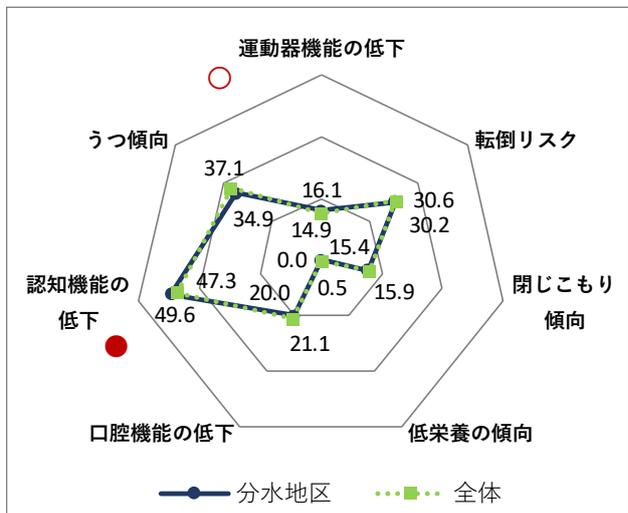
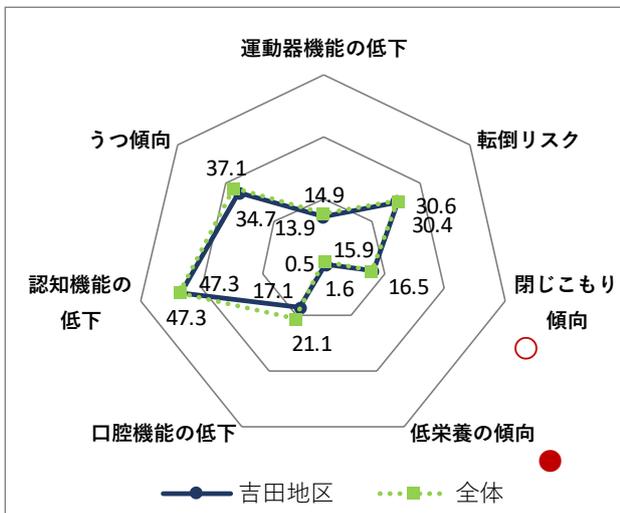
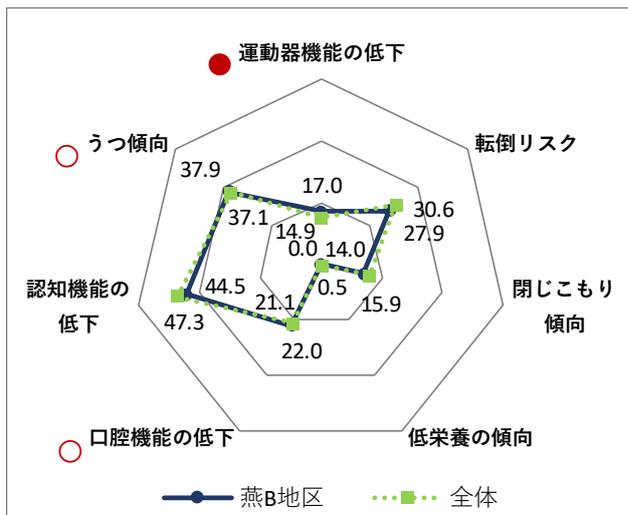
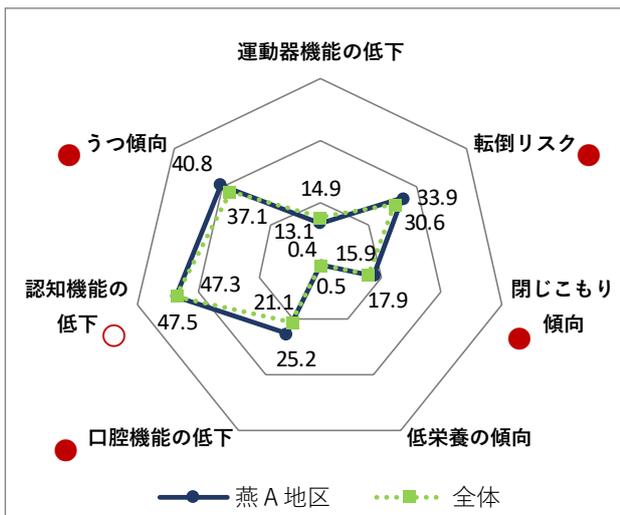
日常生活圏域別のリスク該当者の割合を、全体の割合と比較しました。無回答による判定不能を除いているため、評価項目別の分析結果と数値が異なります。全体の割合より高い項目は○、4 圏域の中で最も割合の高い項目は●で示しています。

燕A地区では、「転倒リスク」、「閉じこもり傾向」、「口腔機能の低下」、「うつ傾向」の4 項目でリスク該当者割合が最も高く、また「認知機能の低下」のリスク該当者割合が高くなっています。

燕B地区では、「運動器機能の低下」のリスク該当者割合が最も高くなっており、「口腔機能の低下」、「うつ傾向」のリスク該当者割合が高くなっています。

吉田地区では、「低栄養の傾向」のリスク該当者割合が最も高く、また「閉じこもり傾向」のリスク該当者割合が高くなっています。

分水地区では、「認知機能の低下」のリスク該当者割合が最も高く、また「運動器機能の低下」のリスク該当者割合が高くなっています。



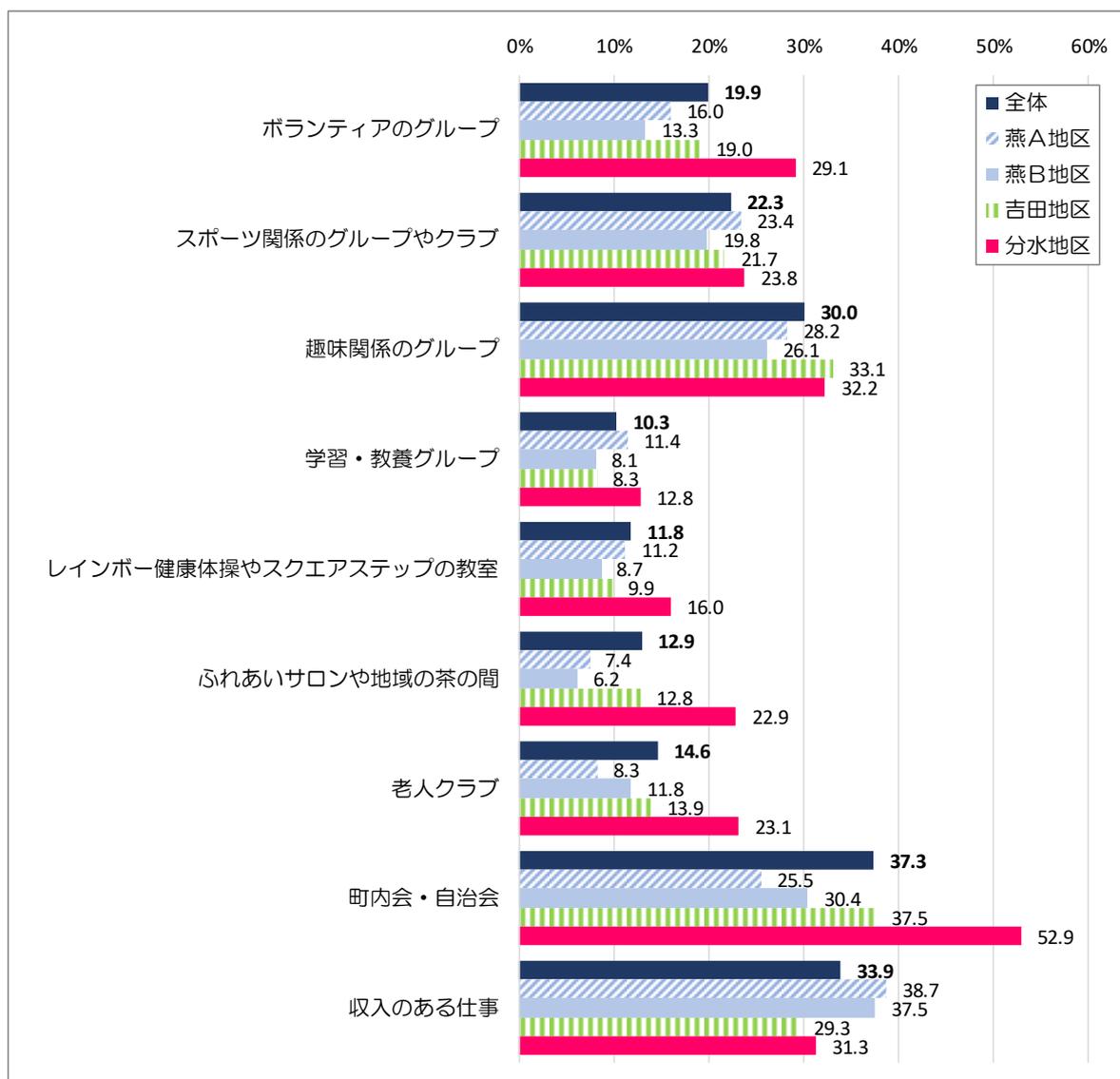
## 2. 地域活動への参加状況

地域活動へ参加している割合を日常生活圏域別に比較すると、燕A地区は、「収入のある仕事」の割合が最も高くなっていますが、その他の活動については全体の割合を下回る傾向にあり、「老人クラブ」、「町内会・自治会」では割合が最も低くなっています。

燕B地区は、「収入のある仕事」以外は全体の割合を下回っており、「ボランティアのグループ」、「スポーツ関係のグループ」、「趣味関係のグループ」、「学習教養グループ」、「レインボー健康体操やスクエアステップの教室」、「ふれあいサロンや地域の茶の間」では割合が最も低くなっています。

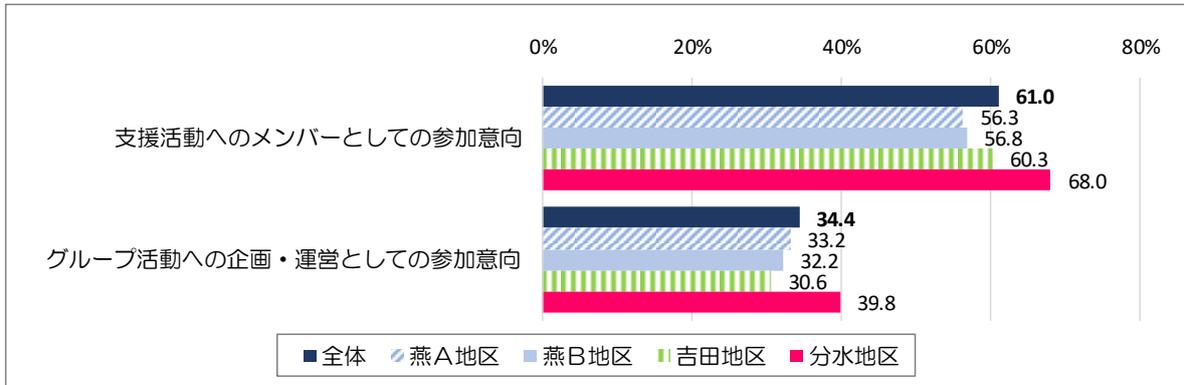
吉田地区では、「趣味関係のグループ」の割合が最も高くなっていますが、その他の項目については「町内会・自治会」以外で全体の割合を下回っています。

分水地区では、「収入のある仕事」以外は全体の割合を上回っており、「ボランティアのグループ」、「スポーツ関係のグループやクラブ」、「学習・教養グループ」、「レインボー健康体操やスクエアステップの教室」、「ふれあいサロンや地域の茶の間」、「老人クラブ」、「町内会・自治会」では割合が最も高くなっています。



地域づくり活動への参加意向を日常生活圏域別にみると、「分水地区」で「メンバーとして」、「企画・運営として」ともに参加意向が最も高くなっています。

「メンバーとして」の参加意向が最も低いのは「燕A地区」、「企画・運営として」の参加意向が最も低いのは「吉田地区」となっています。



# 在宅介護実態調査 報 告 書 【 概要版 】

第 8 期介護保険事業計画の策定に向けて

令和 2 年 5 月  
燕 市

# 目 次

<b>1 調査概要</b> .....	<b>1</b>
(1) 調査目的 .....	1
(2) 調査方法 .....	1
(3) 回収結果 .....	1
(4) 報告書の見方.....	1
<b>2 調査結果</b> .....	<b>2</b>
調査対象者本人について .....	2
(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討 .....	4
1. 家族等による介護の状況.....	4
2. 施設等検討の状況 .....	6
3. 介護者が不安に感じる介護.....	7
4. サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況の関係 .....	8
(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討 .....	10
1. 主な介護者の就労状況 .....	10
2. 主な介護者が行っている介護と就労継続見込み .....	12
3. サービス利用の組み合わせと就労継続見込みの関係 .....	15
4. 介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援について .....	16
(3) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討 .....	19
1. 要介護度と世帯類型 .....	19
2. 世帯類型別の家族等による介護の頻度 .....	20
(4) 介護による離職の状況 .....	21
1. 過去1年間に仕事を辞めた方.....	21
(5) 市独自設問 .....	22
1. どこで最期まで生活を送りたいか .....	22
2. 介護を行う上での困りごと.....	23
3. ケアプランの満足度 .....	24
4. 介護保険料について .....	24
5. 経済的状況.....	25
6. 今後の要望.....	26
7. 介護者が支援してほしいこと .....	27

# 1 調査概要

## (1) 調査目的

介護保険サービスの利用状況や家族等介護者の就労状況を踏まえた、第8期介護保険事業計画（令和3年度～令和5年度）を策定し、在宅生活の継続や介護者等の就労継続の実現に向けた介護サービス基盤の充実を図ることを目的として実施しました。

## (2) 調査方法

- 調査対象者：令和元年12月1日時点において、65歳以上の要支援、要介護認定者（施設入所者等を除く）の中から無作為抽出した800人
- 調査期間：令和元年12月13日～令和元年12月27日
- 調査方法：郵送による配布・回収

## (3) 回収結果

- 調査対象者数：800人
- 回収数（回収率）：505件（63.1%）
- 有効回答数：492件（認定データ）

## (4) 報告書の見方

- ① 報告書中の「n」の数値は、設問への該当者数を表します。
- ② 回答の比率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。このため、回答率の合計が100.0%にならない場合があります。
- ③ 回答の比率（%）は、その設問の該当者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、回答率の合計が100.0%を超えることがあります。
- ④ 年齢など調査対象者の基本属性を中心としたクロス集計結果については、「無回答」を除いて集計しているため、全体の示す数値とは一致しない場合があります。
- ⑤ 設問により、平成28年12月に実施した前回調査結果を比較したグラフを表記しています。

※市独自調査設問については、認定データ（国の集計分析ソフト）を活用していないため、調査結果の該当者数（n=498）と異なっています。

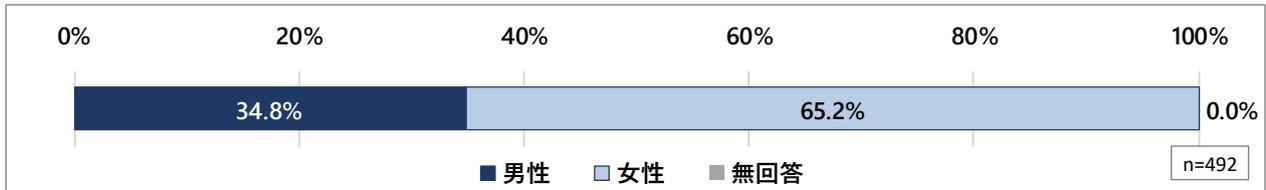
※クロスグラフの該当者数「n」が少数の場合は、その傾向に注意が必要です。

## 2 調査結果

### 調査対象者本人について

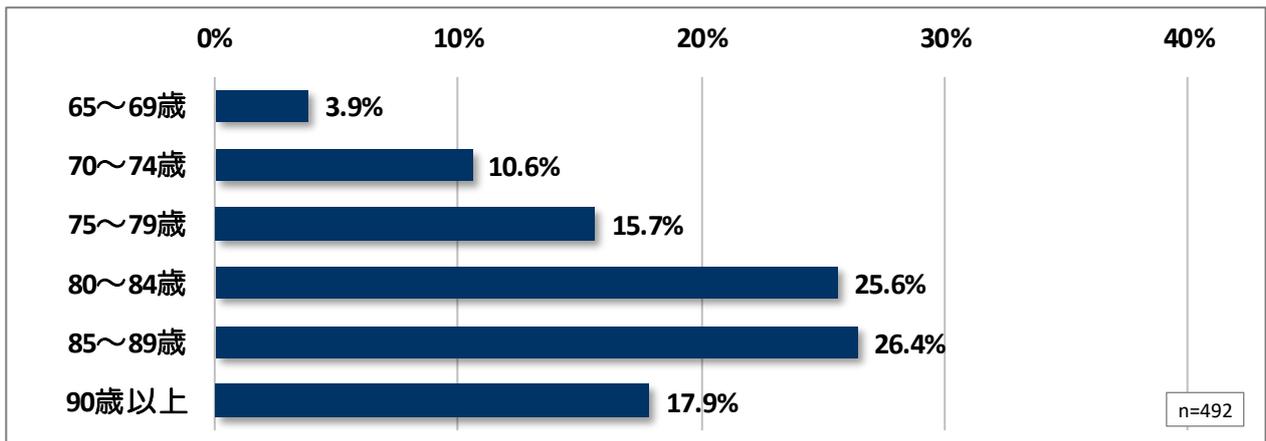
#### 性別

「男性」が34.8%、「女性」が65.2%となっています。



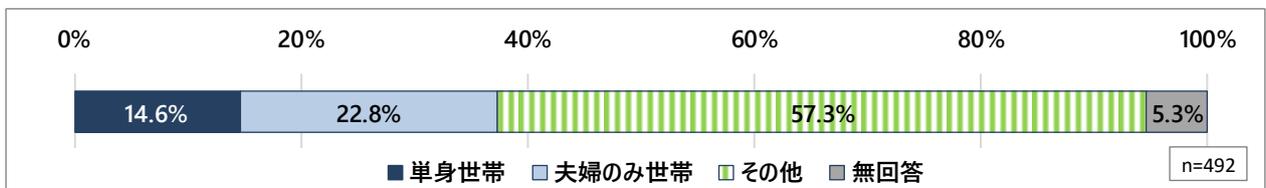
#### 年齢

「85～89歳」が26.4%と最も高く、次いで「80～84歳」が25.6%となっています。



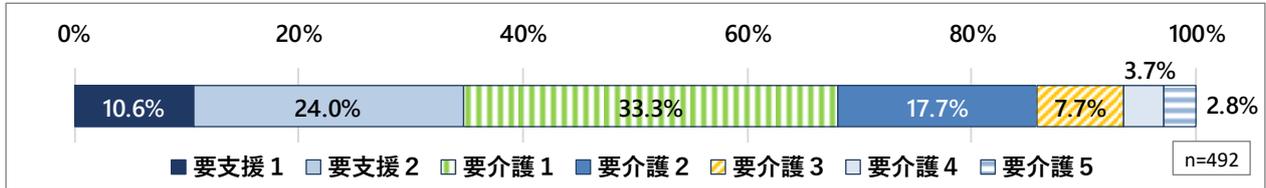
#### 世帯類型

「単身世帯」が14.6%、「夫婦のみ世帯」が22.8%、「その他」が57.3%となっています。



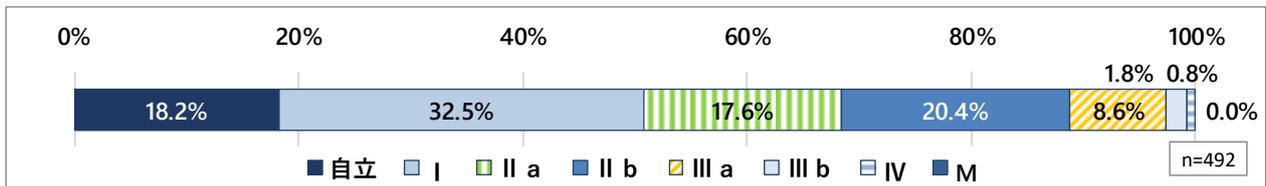
## 認定区分（二次判定結果）

「要支援 1・2」が 34.6%、「要介護 1・2」が 51.0%、「要介護 3 以上」が 14.2% となっています。



## 認知症日常生活自立度

「Ⅱa」と「Ⅱb」を合わせると 38.0%、「Ⅲa」と「Ⅲb」を合わせると 10.4% となっています。



## (1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行いました。

### 1. 家族等による介護の状況

家族等による介護の頻度は、「ほぼ毎日」が39.2%となっています。「週3~4日」が7.1%、「週1~2日」が6.9%、「週1日以下」が8.1%で、「ない」は27.2%となっています。

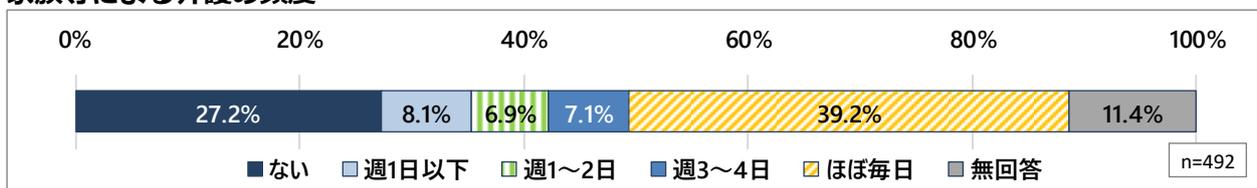
主な介護者と本人の関係は、「子」が39.7%と最も高く、次いで「配偶者」が34.9%、「子の配偶者」が14.8%となっています。

主な介護者の性別は、「男性」が32.7%、「女性」が62.0%で、女性の割合が高くなっています。

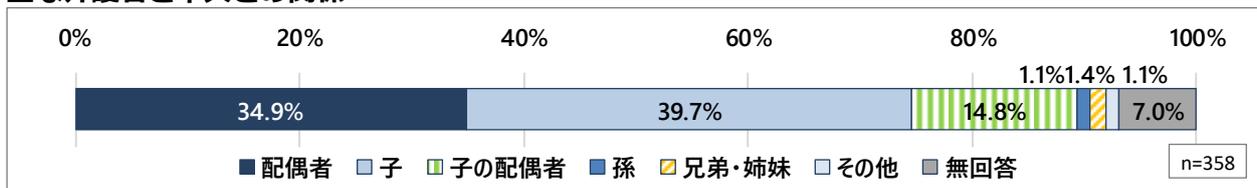
主な介護者の年齢は、「60歳台」が30.7%と最も高く、次いで「50歳台」が23.2%となっています。また、「80歳以上」の介護者は17.6%となっています。

主な介護者が行っている介護は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が73.5%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が70.1%、「食事の準備（調理等）」が69.8%、「外出の付き添い、送迎等」が69.3%などとなっています。

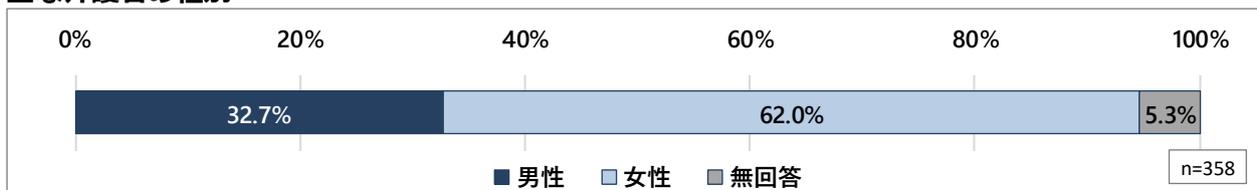
家族等による介護の頻度



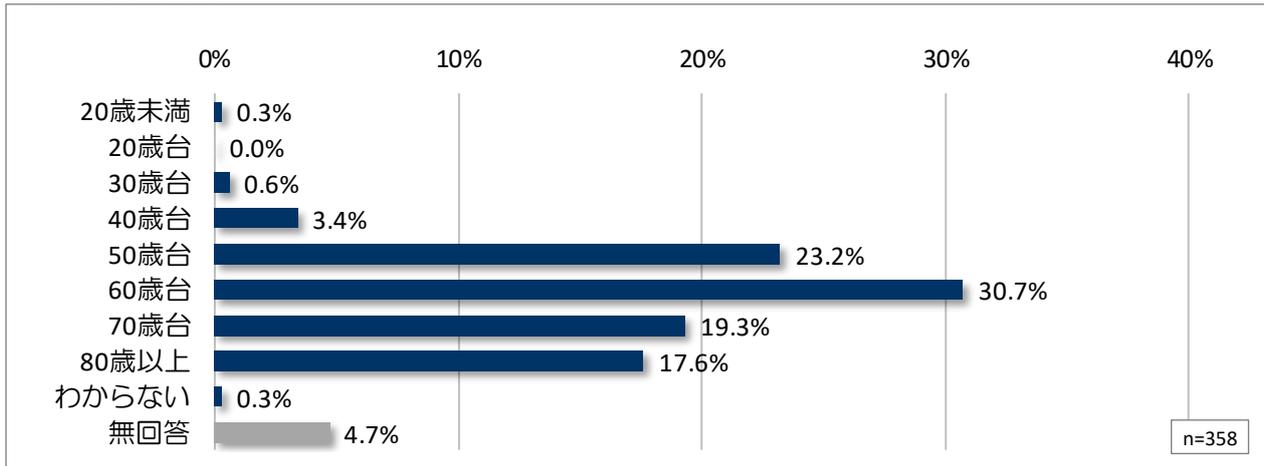
主な介護者と本人との関係



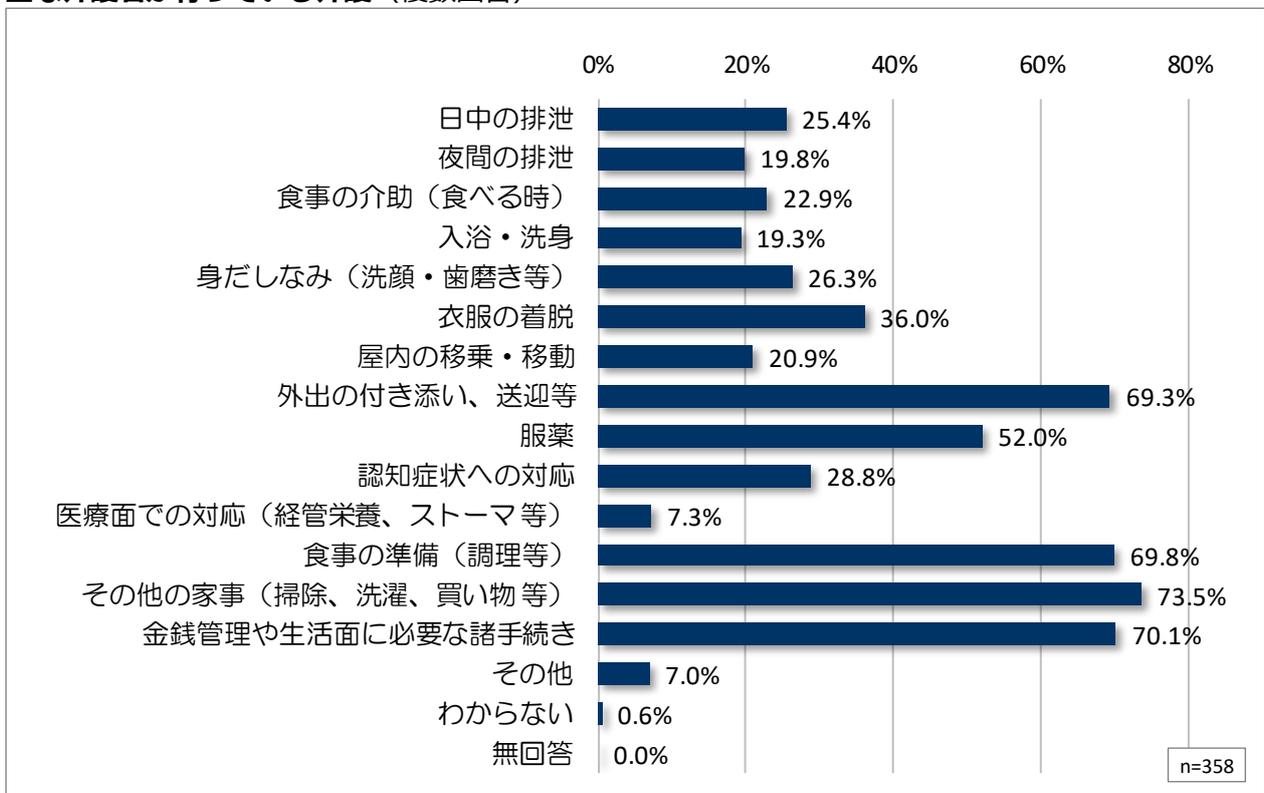
主な介護者の性別



### 主な介護者の年齢



### 主な介護者が行っている介護（複数回答）



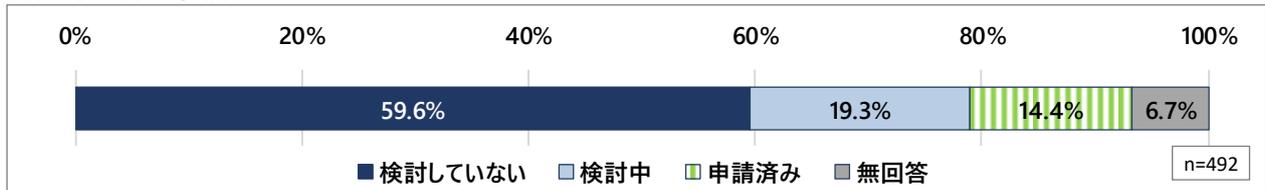
## 2. 施設等検討の状況

「検討していない」が59.6%、「検討中」が19.3%、「申請済み」が14.4%となっています。

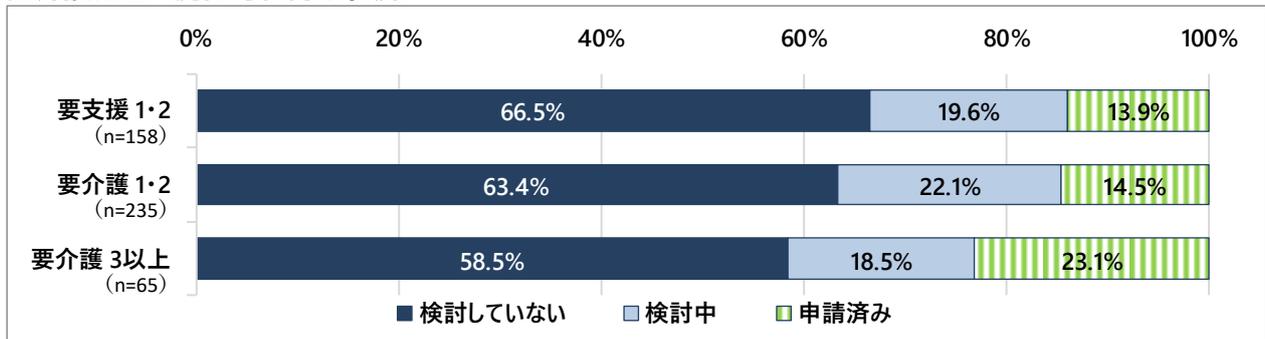
要介護度別にみると、重度化とともに「申請済み」の割合が高くなり、「検討していない」割合が低くなっています。

世帯類型別にみると、「単身世帯」で「申請済み」の割合が高く、「検討していない」割合が低くなっています。

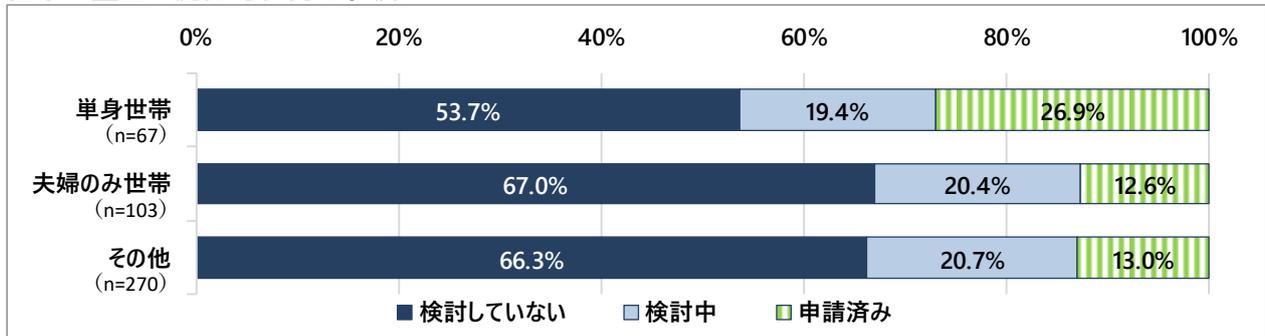
### 施設等検討の状況



### 要介護度別・施設等検討の状況



### 世帯類型別・施設等検討の状況



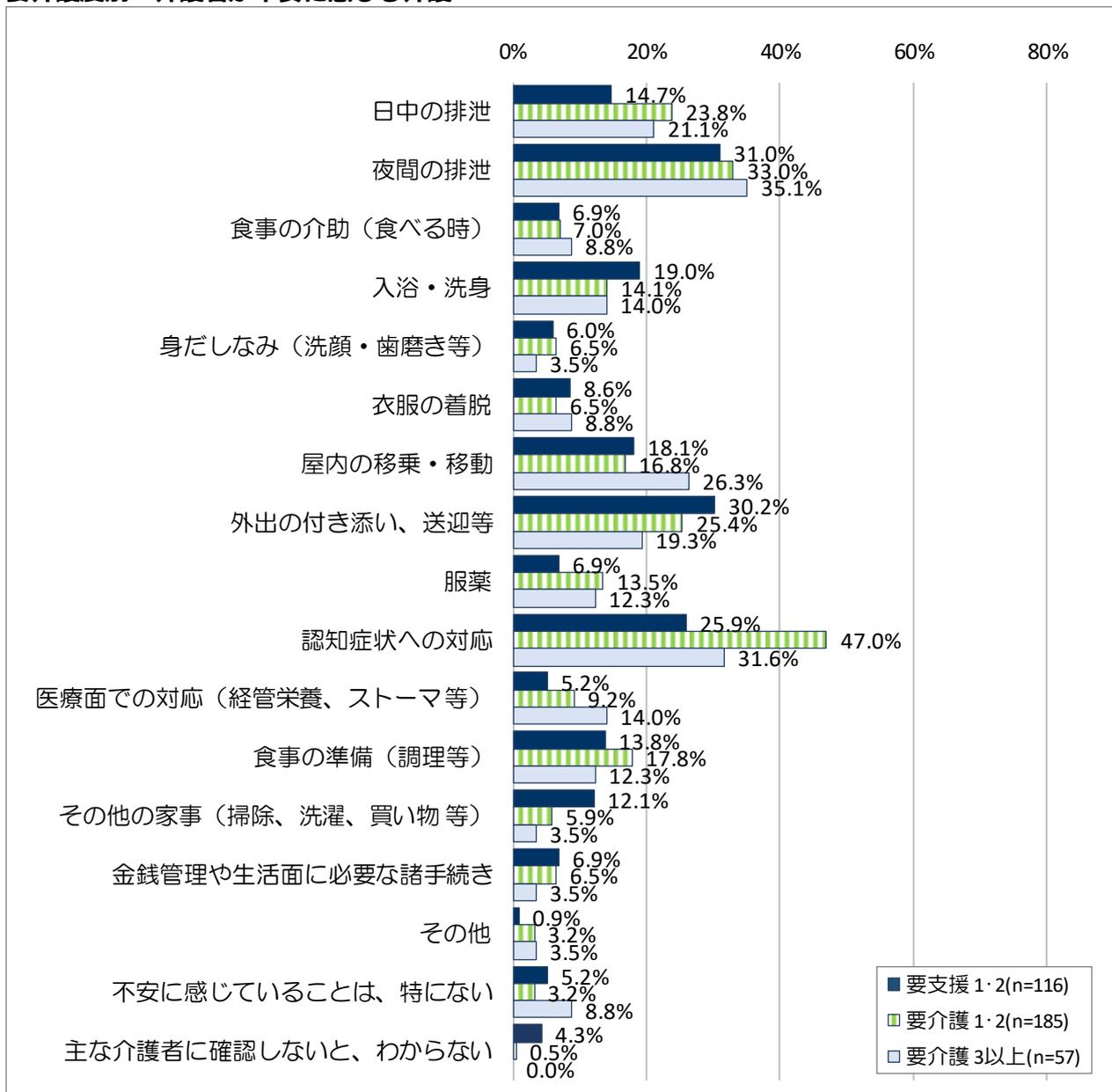
### 3. 介護者が不安に感じる介護

要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化について、集計分析しました。

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護は「認知症状への対応」、「外出の付き添い、送迎等」、「日中の排泄」、「夜間の排泄」の割合が高くなっています。

要介護度別にみると「認知症状への対応」、「日中の排泄」は要介護 1・2 で割合が最も高く、「夜間の排泄」については重度化に伴い割合が高くなる傾向にあります。一方で「外出の付き添い、送迎等」は要支援で割合が高くなっています。

要介護度別・介護者が不安に感じる介護



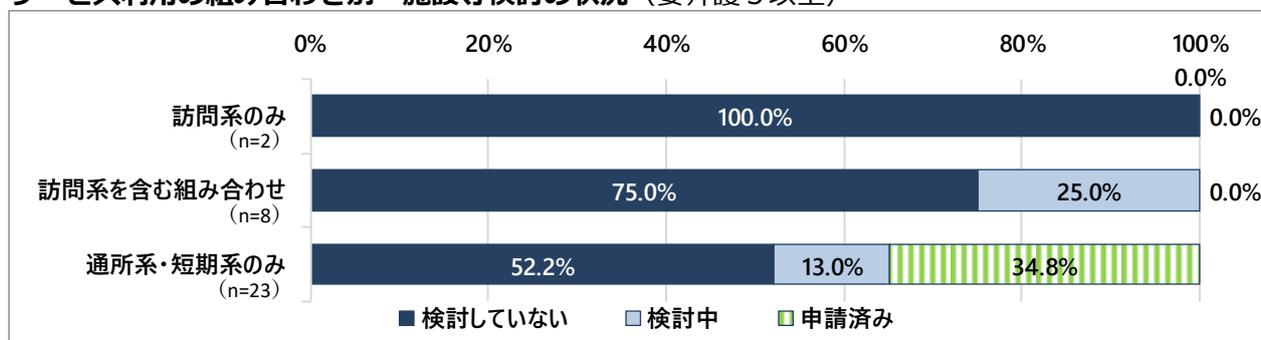
#### 4. 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

「サービス利用の組み合わせ」別の「施設等検討の状況」について、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析しました。

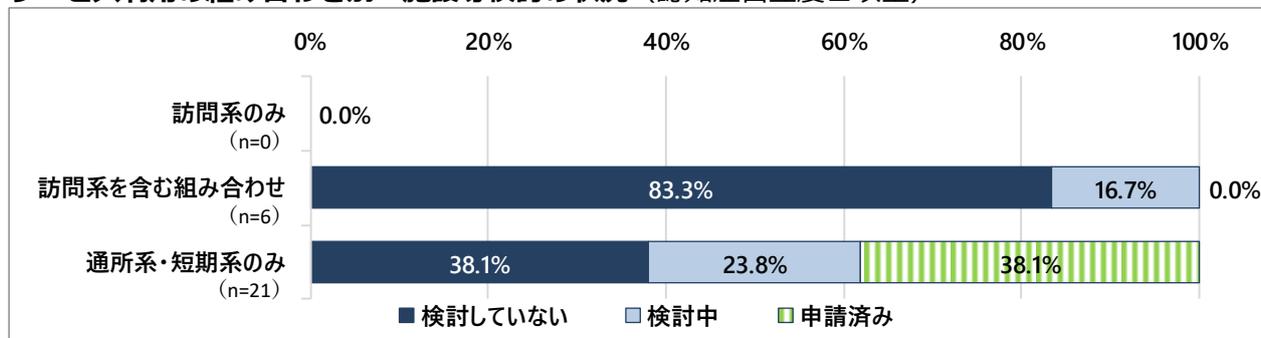
該当者数（n 値）が少ないため傾向を判断することは難しいですが、「通所系・短期系のみ」と比較して「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」割合が高く、「申請済み」は0.0%となっています。

このことから、在宅限界点の向上のためには、「通所系・短期系」のみでなく、「訪問系」を組み合わせた利用を推進していくことが効果的となるケースもあると考えられます。

サービス利用の組み合わせ別・施設等検討の状況（要介護3以上）



サービス利用の組み合わせ別・施設等検討の状況（認知症自立度Ⅲ以上）

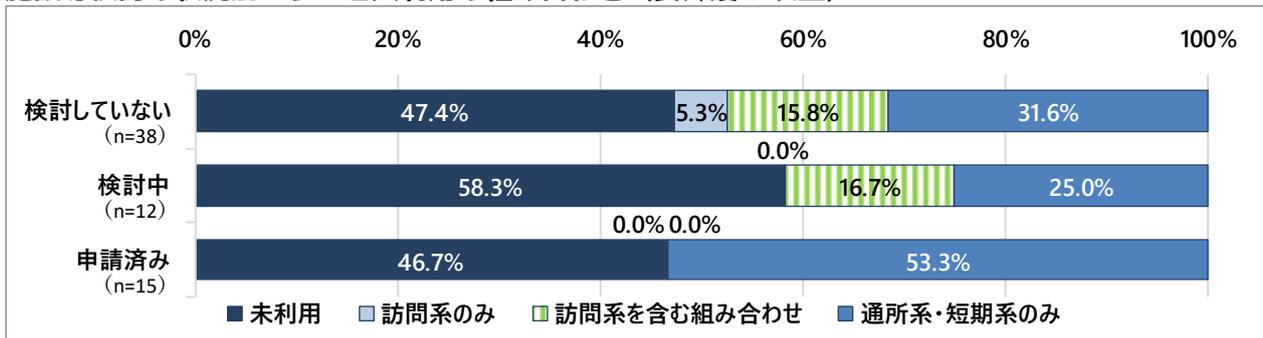


また、「施設等検討の状況」別に「サービス利用の組み合わせ」の割合を要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析しました。

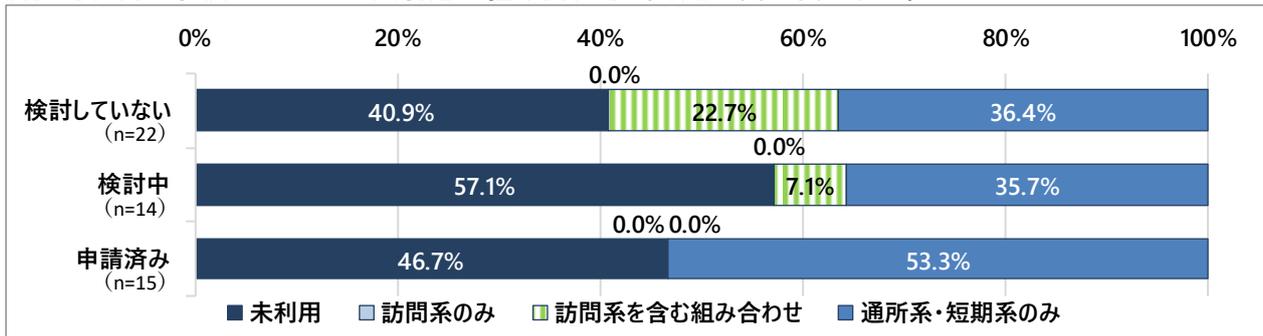
要介護3以上、認知症自立度Ⅲ以上のどちらでも「申請済み」では訪問系のサービスの利用はなく、「検討中」ではサービスを利用していない「未利用」の割合が高くなっています。

施設入所を検討する必要があるような、より介護者の負担が大きいケースでは、訪問系を含むサービスの利用が効果的となるケースもあると考えられます。

**施設等検討の状況別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）**



**施設等検討の状況別・サービス利用の組み合わせ（認知症自立度Ⅲ以上）**



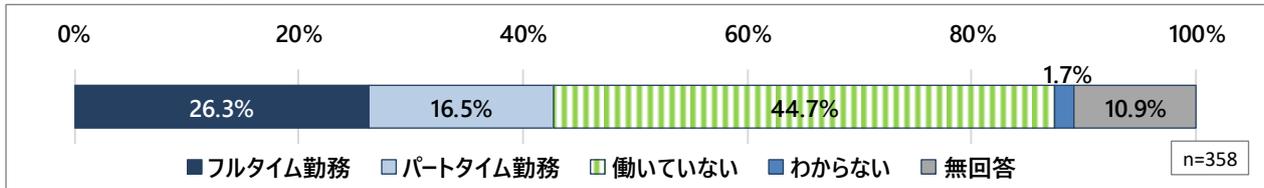
## (2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行いました。

### 1. 主な介護者の就労状況

主な介護者の就労状況を見ると、「働いていない」が44.7%と最も高くなっています。

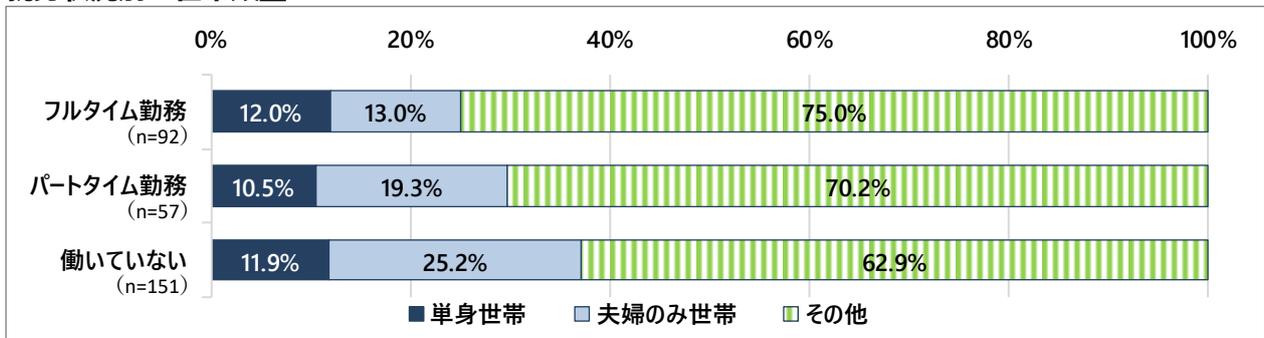
主な介護者の就労状況



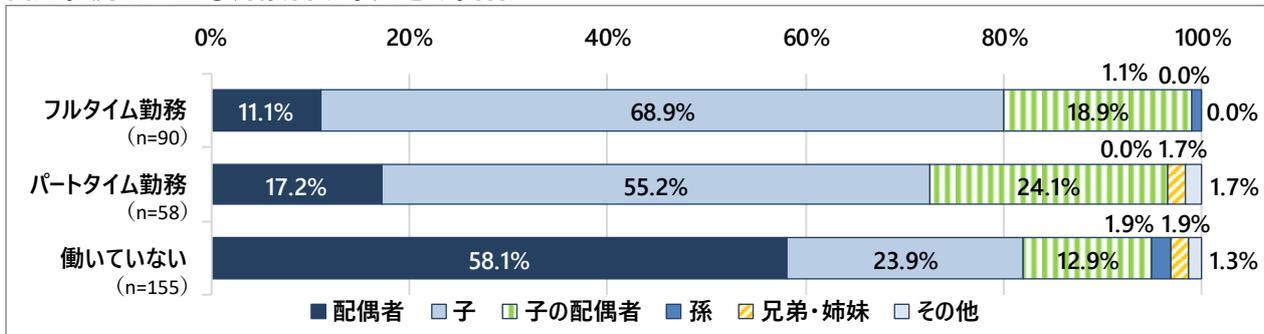
就労状況別に世帯類型をみると、介護者が「働いていない」世帯で「夫婦のみ世帯」の割合が高く、「フルタイム勤務」で「その他」の割合が高くなっています。

主な介護者と本人との関係をみると、介護者が「働いていない」世帯で「配偶者」の割合が高くなっています。

就労状況別・世帯類型



就労状況別・主な介護者の本人との関係

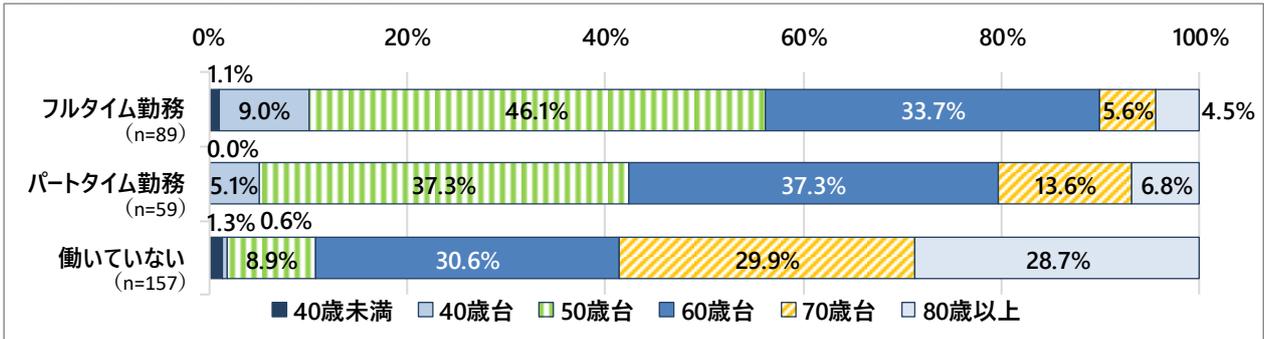


就労状況別に主な介護者の年齢をみると、主な介護者が「働いていない」世帯では70歳以上の割合が高くなっています。

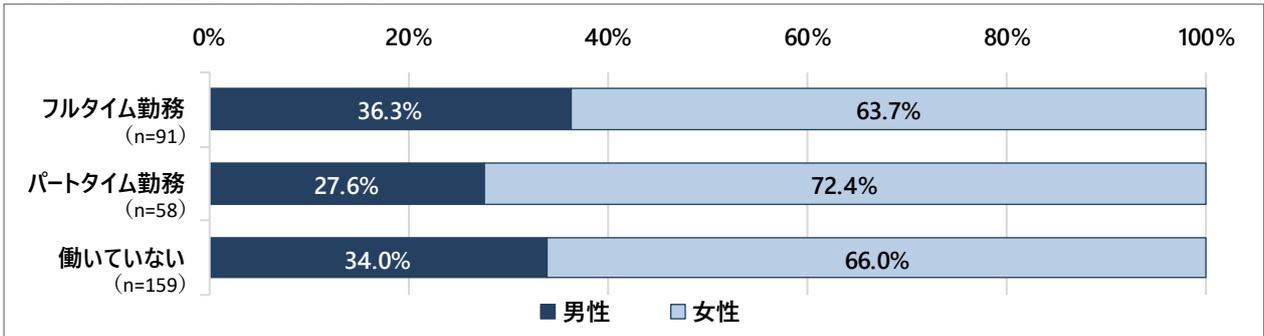
主な介護者の性別をみると、「パートタイム勤務」で女性の割合が高くなっています。

就労状況別に要介護度・認知症自立度をみると、「パートタイム勤務」で要支援1・2、自立+Iの割合が高くなっており、「働いていない」世帯で要介護3以上の割合が高くなっています。

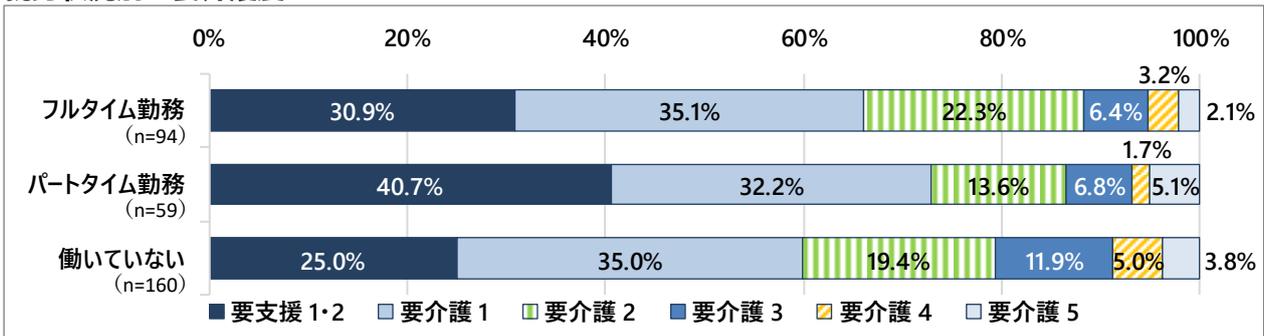
### 就労状況別・主な介護者の年齢



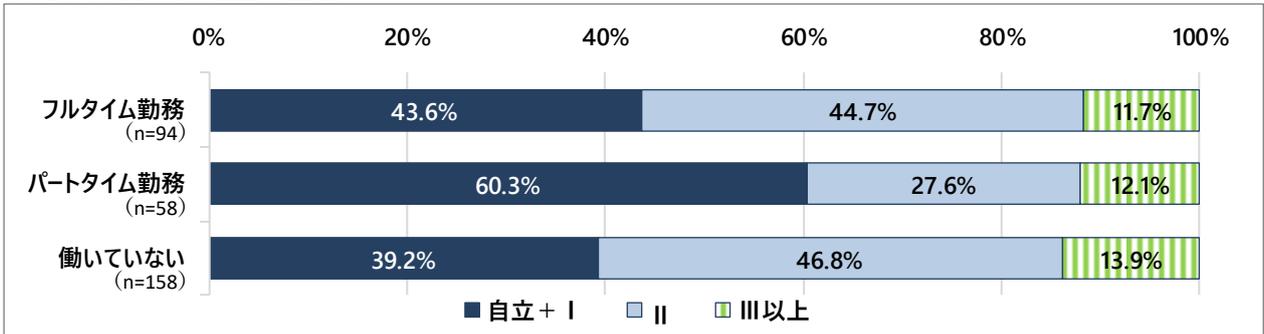
### 就労状況別・主な介護者の性別



### 就労状況別・要介護度



### 就労状況別・認知症自立度



## 2. 主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

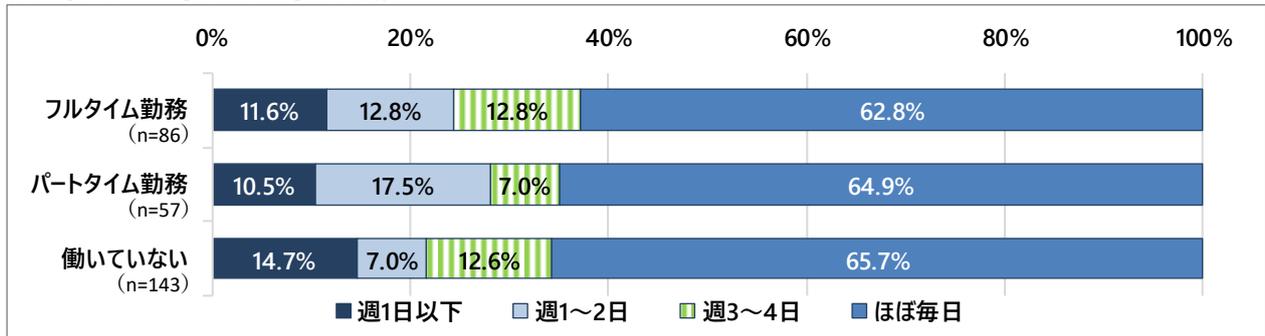
家族等による介護の頻度は、「ほぼ毎日」が最も高く、働いていない介護者では 65.7%、パートタイム勤務では 64.9%、フルタイム勤務で 62.8%となっています。「働いていない」介護者で「ほぼ毎日」の割合が最も高くなっていますが、「週 1 日以下」の割合も最も高くなっています。

主な介護者の就労の程度（働いていない<パートタイム勤務<フルタイム勤務）に応じて、介護者が行っている割合が低くなる介護は、「日中の排泄」、「衣服の着脱」、「身だしなみ」、「屋内の移乗・移動」、「食事の介助」、「外出の付き添い、送迎等」、「医療面での対応」となっています。こうした介護については、

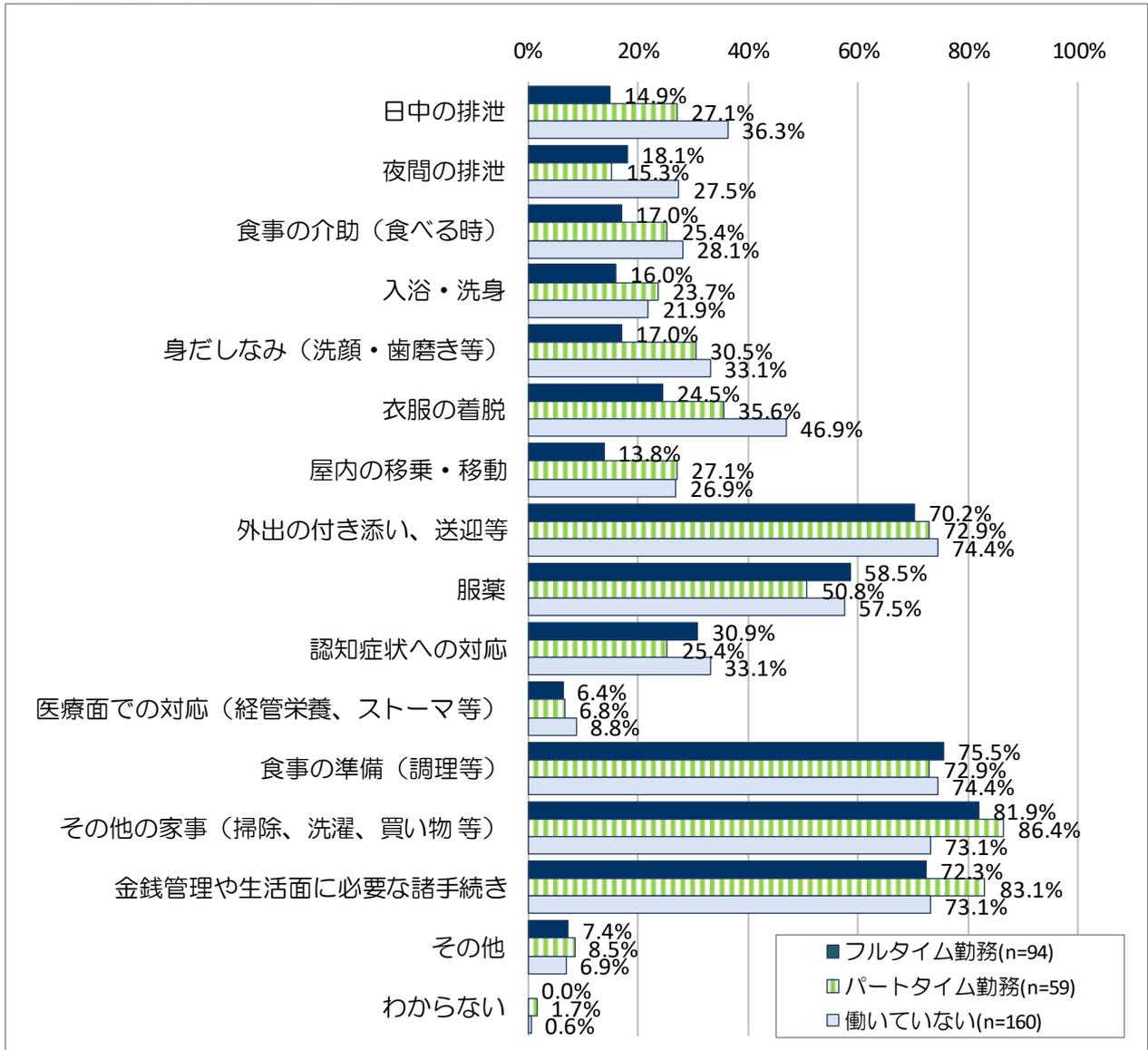
①主な介護者が「働いていない」場合では要介護度が高い傾向がみられるため、就労の程度に応じて介護者が行っている割合が低くなっている

②要介護者の日常生活に長時間付き添っていないとできない等の理由により、就労の程度に応じて介護者が行っている割合が低くなっていて、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としている可能性が考えられます。

就労状況別・家族等による介護の頻度



就労状況別・主な介護者が行っている介護

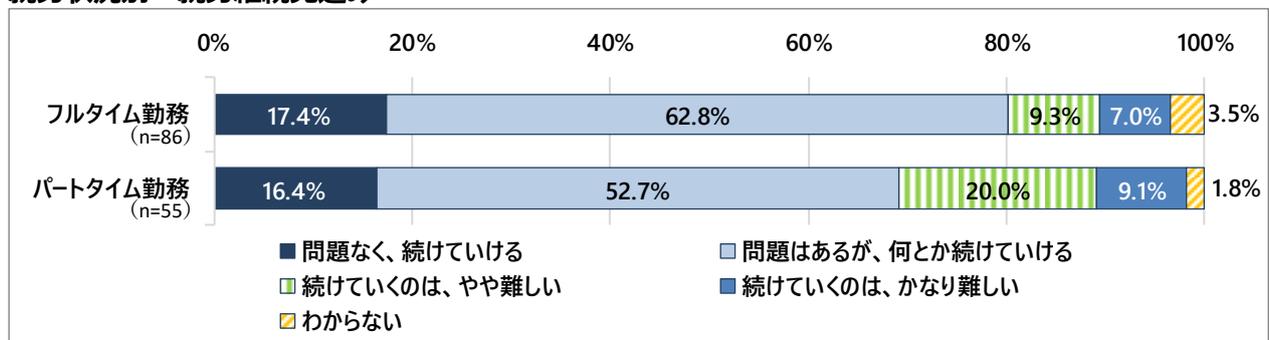


就労している介護者の今後の就労継続見込みをみると、「問題なく続けていける」割合に大きな差はありませんでしたが、「問題はあるが、何とか続けていける」割合は「フルタイム勤務」の方が高く、62.8%となっています。「パートタイム勤務」では「続けていくのは、かなり難しい」が9.1%、「続けていくのは、やや難しい」が20.0%となっています。

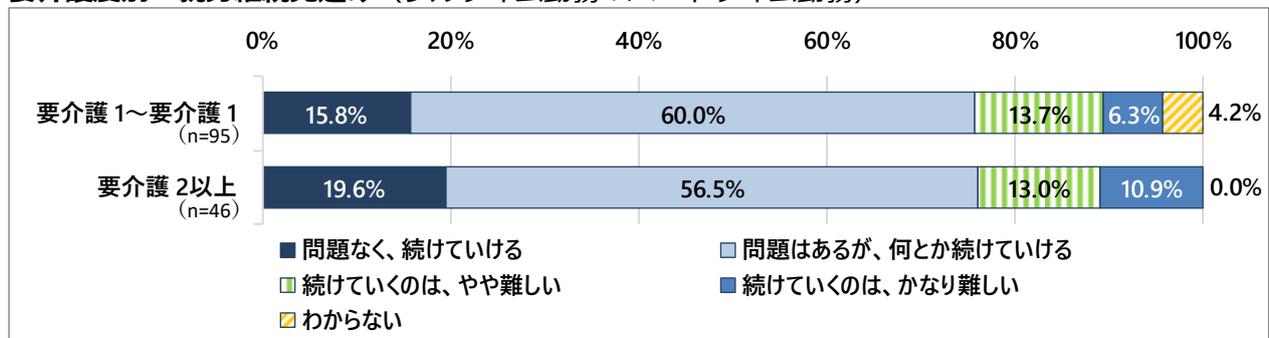
要介護度別で就労継続見込みをみると、「問題なく続けていける」割合は、要介護2以上の方がやや高く、19.6%となっています。

認知症自立度別で就労継続見込みをみると、「問題なく続けていける」割合はⅡ以上の方が高く、18.1%となっていますが、Ⅱ以上では「続けていくのは、やや難しい」割合が高く18.1%となっています。

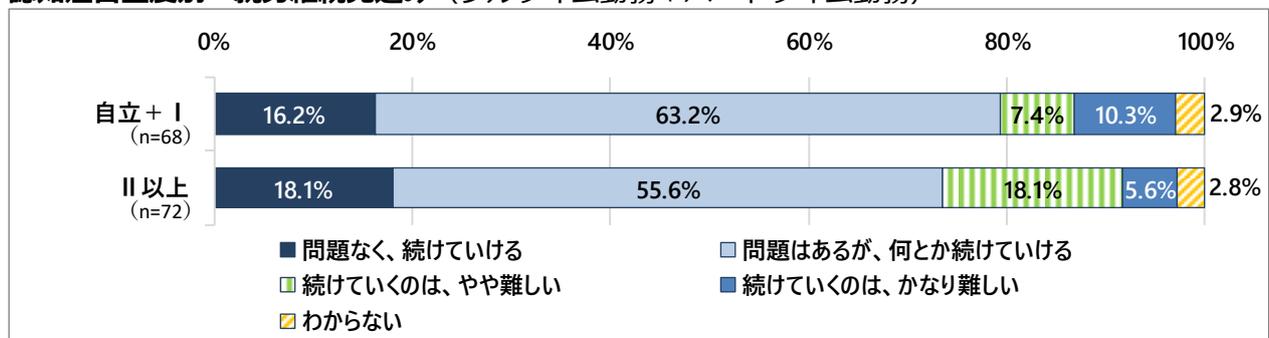
### 就労状況別・就労継続見込み



### 要介護度別・就労継続見込み (フルタイム勤務+パートタイム勤務)



### 認知症自立度別・就労継続見込み (フルタイム勤務+パートタイム勤務)

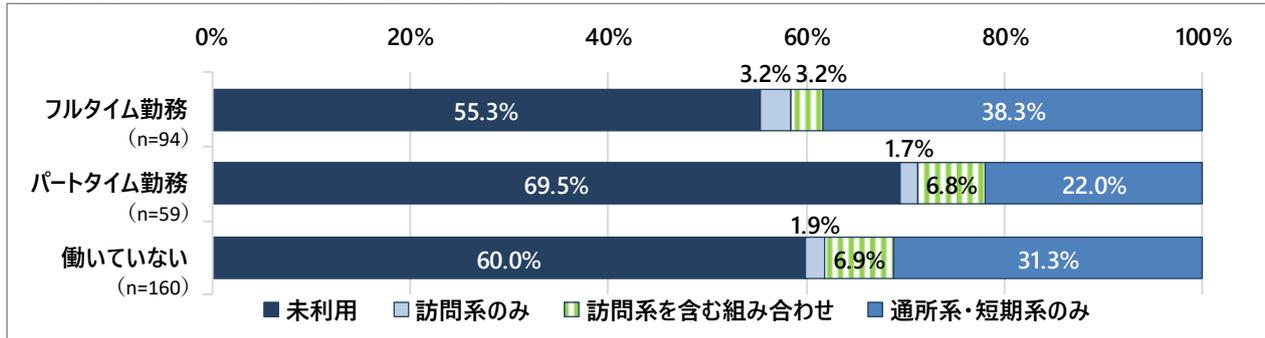


### 3. 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

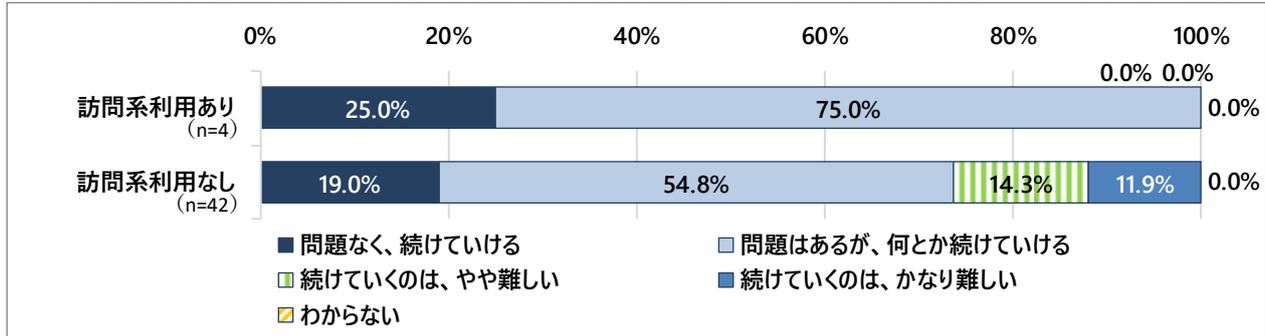
就労状況別にサービス利用の組み合わせをみると、「パートタイム勤務」で介護保険サービス「未利用」の割合が高くなっています。「フルタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」の割合が高く、「訪問系を含む組み合わせ」の割合が低くなっています。

サービス利用の組み合わせ別の就労継続見込みについて、要介護2以上と認知症自立度Ⅱ以上でみると、「訪問系利用あり」の該当者数（n値）が少ないため傾向を判断することはできませんでした。

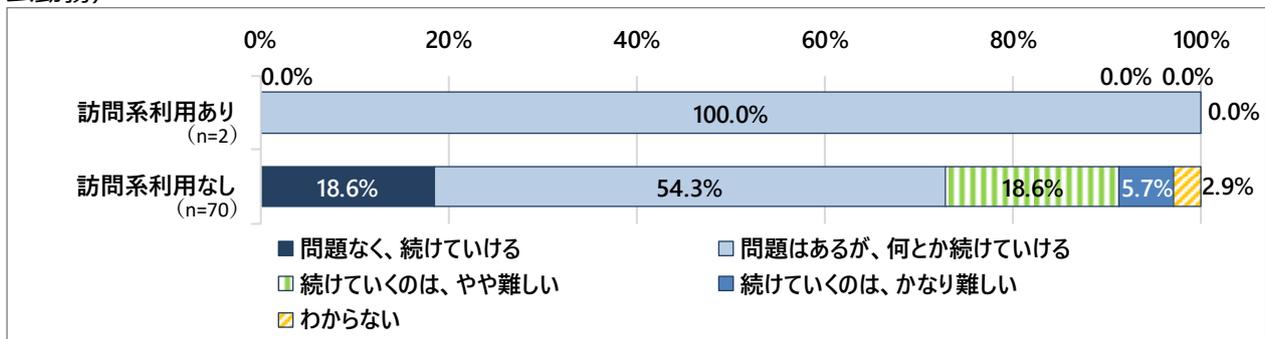
#### 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



#### サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み (要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



#### サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み (認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)

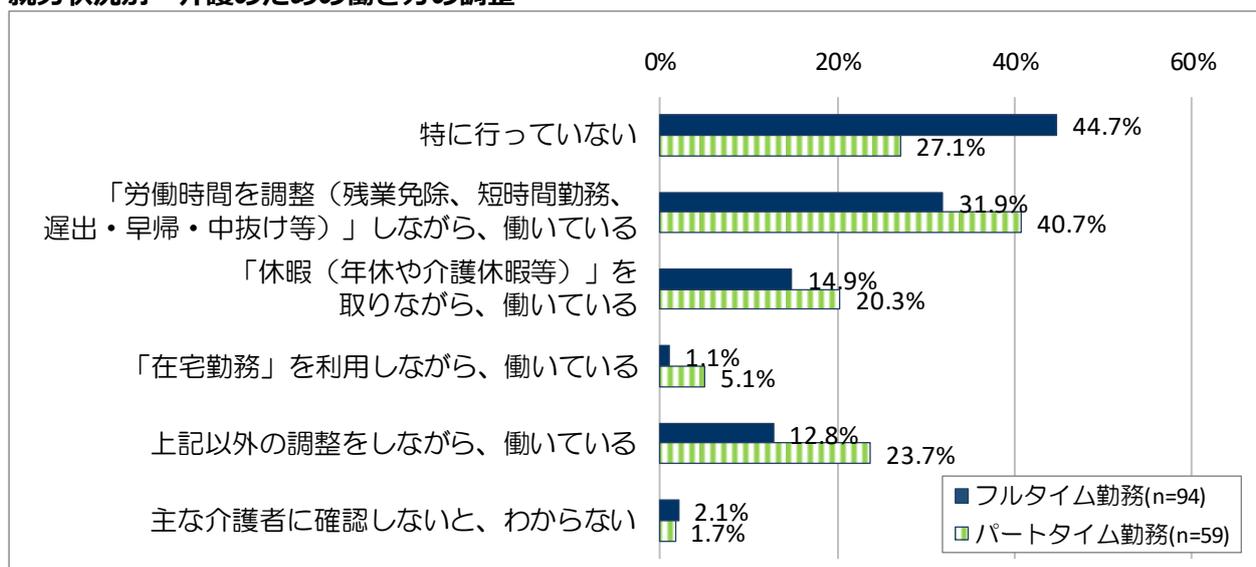


#### 4. 「介護のための働き方の調整」と「効果的な勤め先からの支援」について

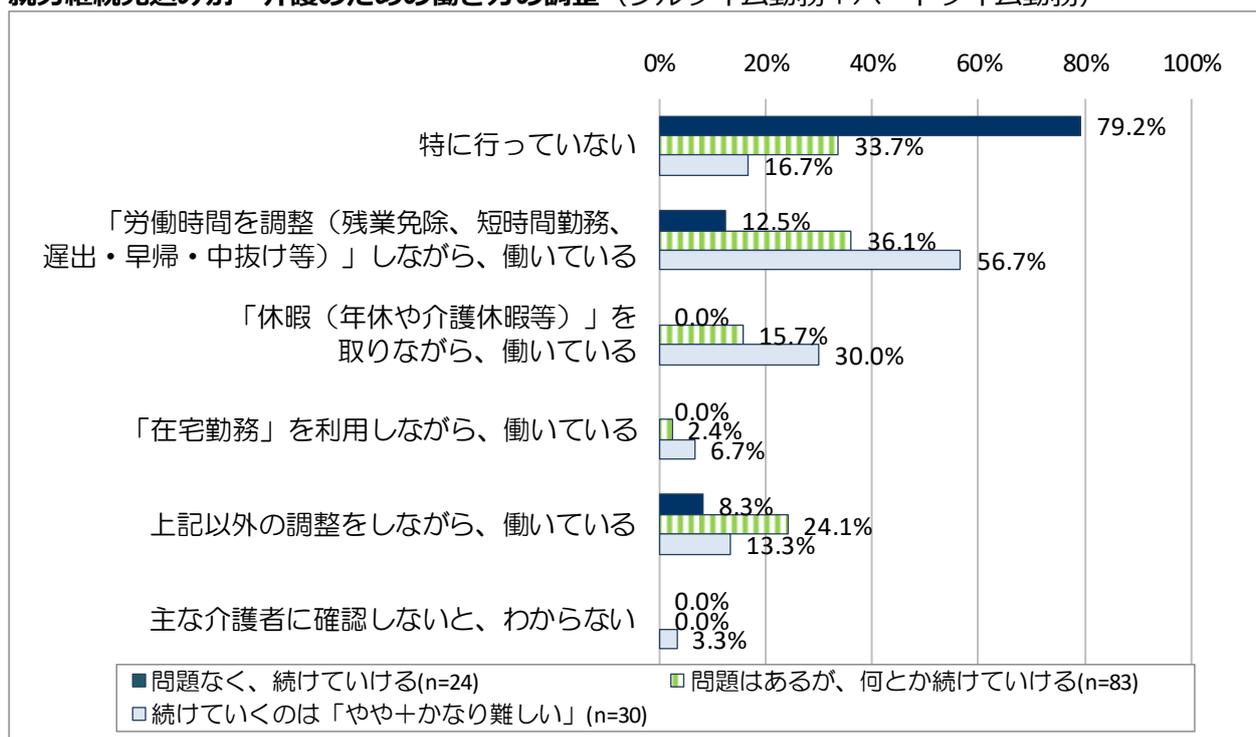
職場における働き方の調整については、「特に行っていない」割合はフルタイム勤務の方が高く 44.7%で、パートタイム勤務では 27.1%となっています。働き方の調整で最も高いのは「労働時間を調整しながら働いている」で、フルタイム勤務で 31.9%、パートタイム勤務で 40.7%となっています。

就労継続見込み別にみると、問題なく続けていける人では「特に行っていない」が 79.2%となっていますが、就労の継続が困難と感じている人ほど「特に行っていない」割合は低くなっており、何らかの調整をしながら働いている状況となっています

##### 就労状況別・介護のための働き方の調整



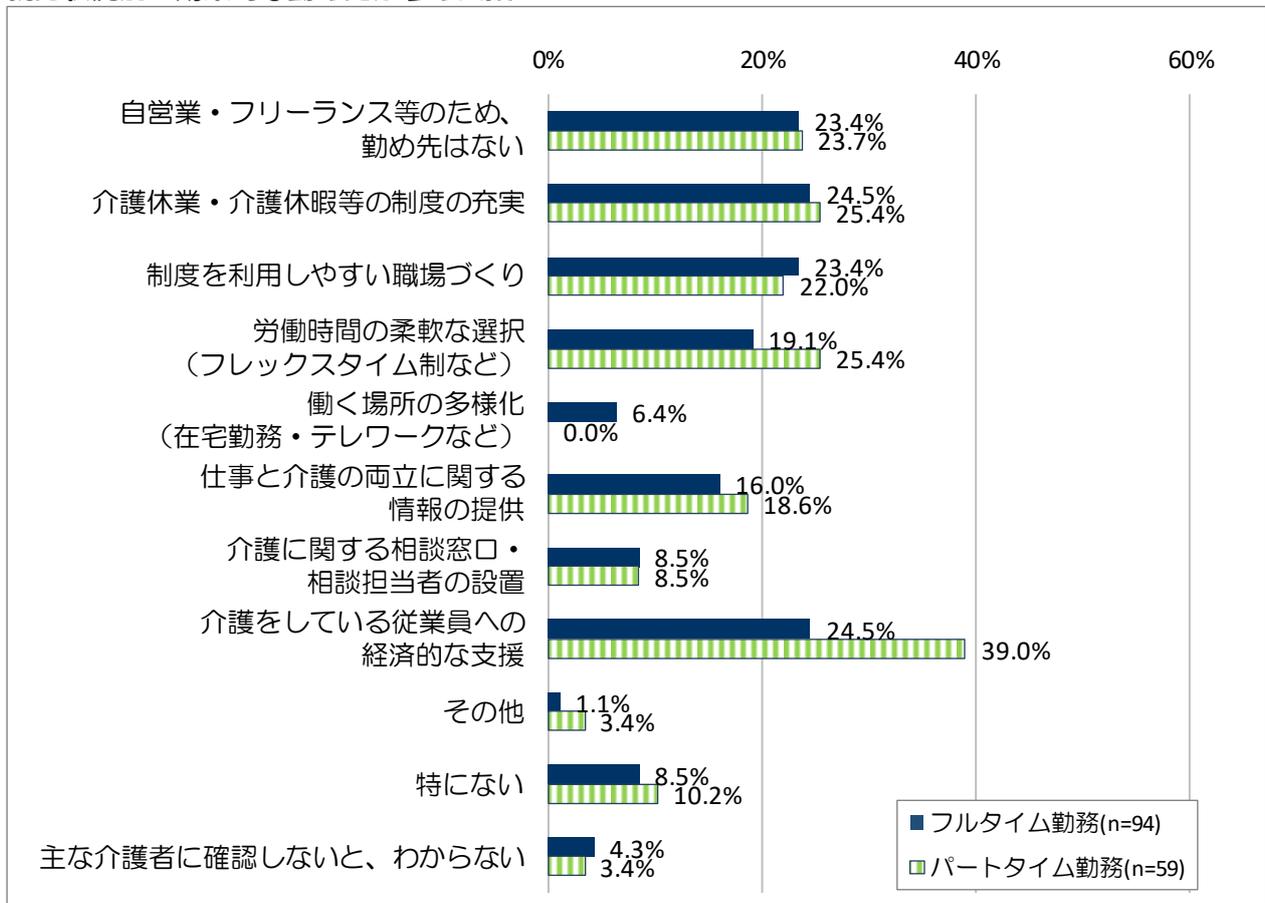
##### 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



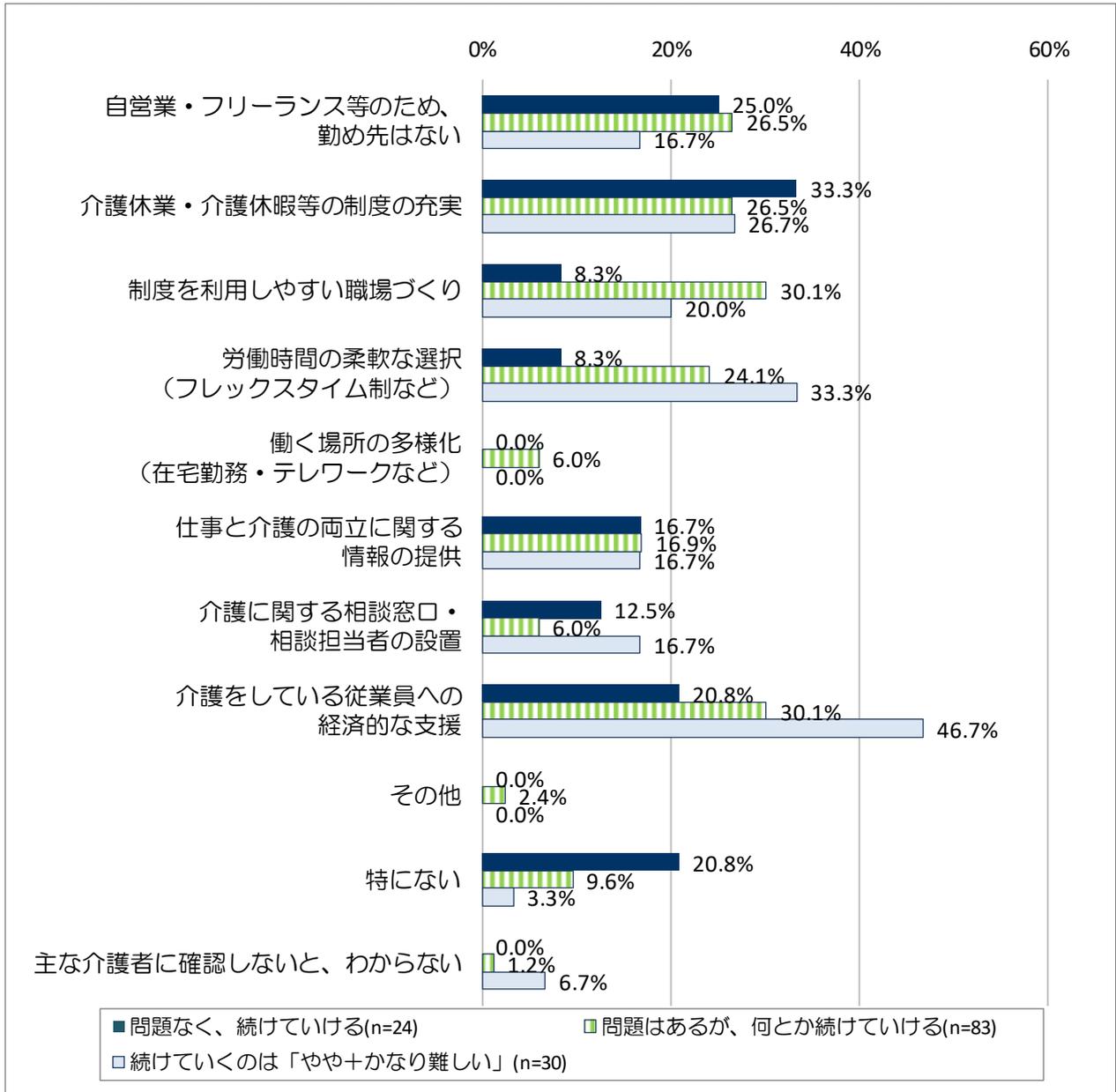
効果的な勤め先の支援としては、フルタイム勤務では、パートタイム勤務に比べて、「働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）」、「制度を利用しやすい職場づくり」で割合が高くなっています。パートタイム勤務では、「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が高く39.0%となっています

就労継続見込み別にみると、問題なく続けていける介護者では「特にない」が20.8%と最も高くなっています。就労の継続が困難だと感じている介護者が高く挙げているのは「介護をしている従業員への経済的な支援」、「労働時間の柔軟な選択」、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」などとなっています。

### 就労状況別・効果的な勤め先からの支援



就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



### (3) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、世帯類型別のサービス利用の傾向や、施設等検討の状況について集計を行いました。

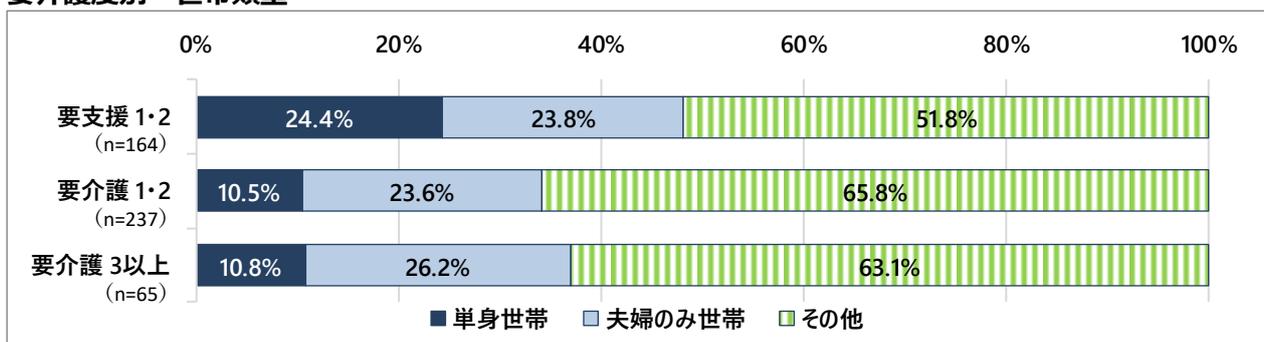
#### 1. 要介護度と世帯類型

要介護度別に世帯類型をみると、要介護度の重度化に伴い、「単身世帯」の割合が減少しています。

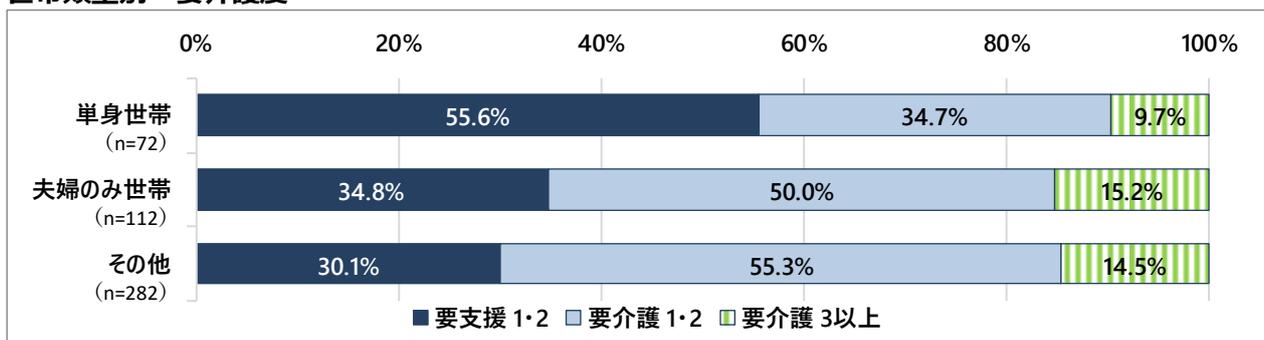
また、世帯類型別に要介護度をみると、単身世帯では「要支援 1・2」の割合が高く、「要介護 3 以上」の割合が低くとなっています。

これらのことから「単身世帯」では、重度化した場合に在宅生活の継続が困難になると考えられます。

#### 要介護度別・世帯類型



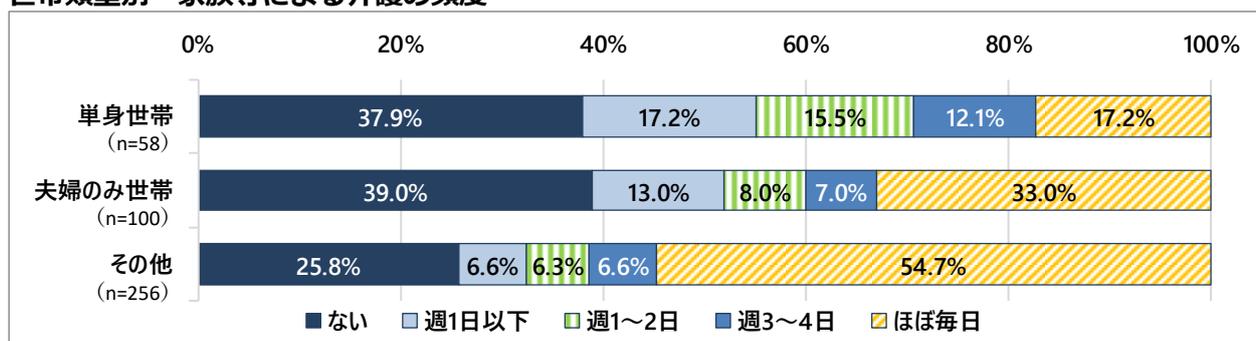
#### 世帯類型別・要介護度



## 2. 「世帯類型」別の「家族等による介護の頻度」

世帯類型別に家族等による介護の頻度をみると、その他世帯で「ほぼ毎日」の割合が高く54.7%となっています。単身世帯では頻度が低い傾向にありますが、それでも「ほぼ毎日」の割合が17.2%となっており、同居していない家族等による介護により在宅生活を継続していると考えられます。

世帯類型別・家族等による介護の頻度

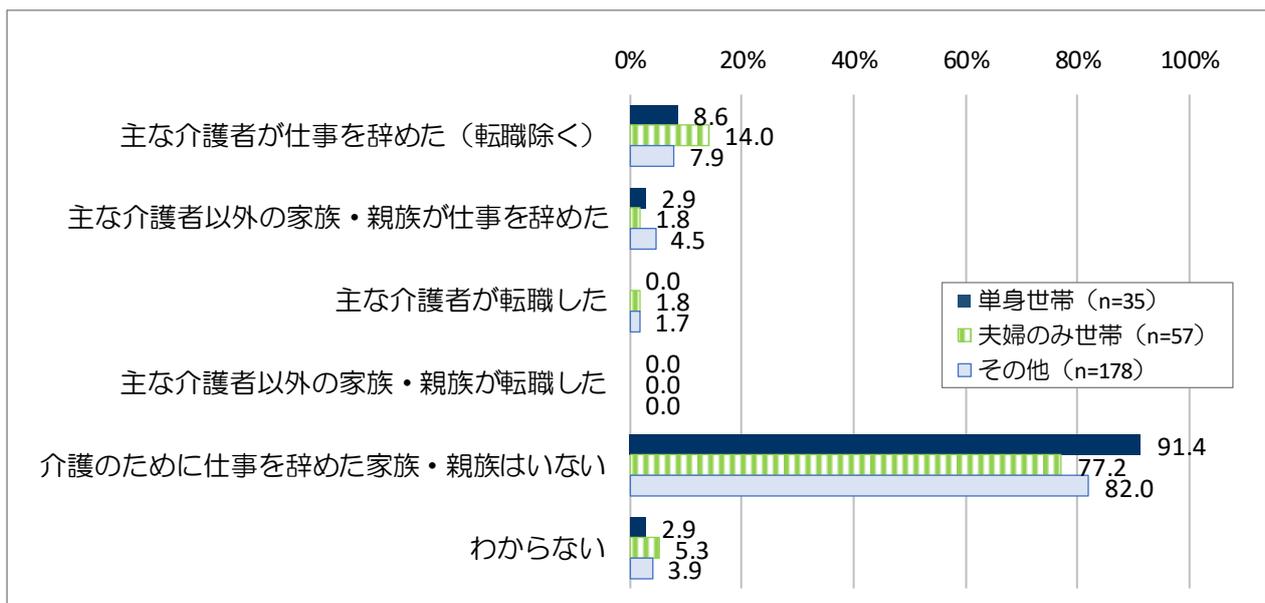
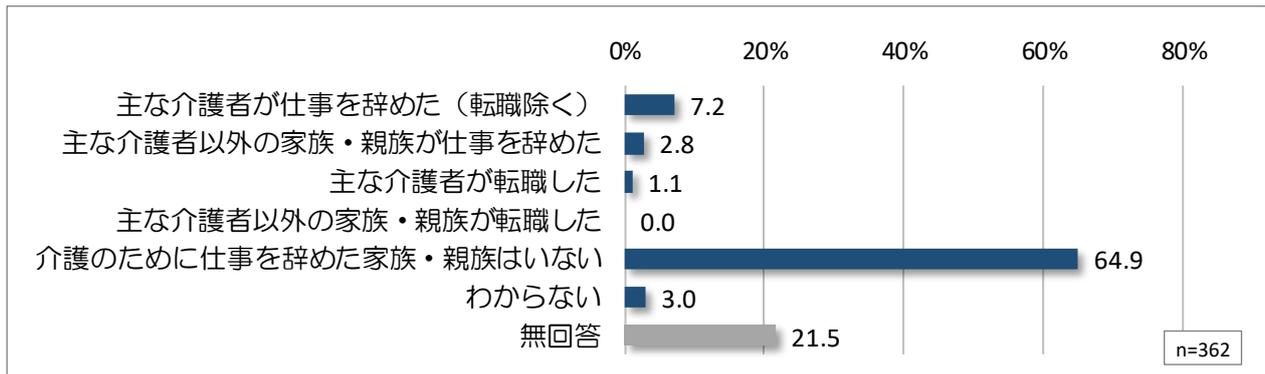


## (4) 介護による離職の状況

### 1. 過去1年間に仕事を辞めた方

「主な介護者が仕事を辞めた」が7.2%、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた」が2.8%となっています。

世帯類型別にみると、「夫婦のみ世帯」で「主な介護者が仕事を辞めた」割合が最も高くなっています。



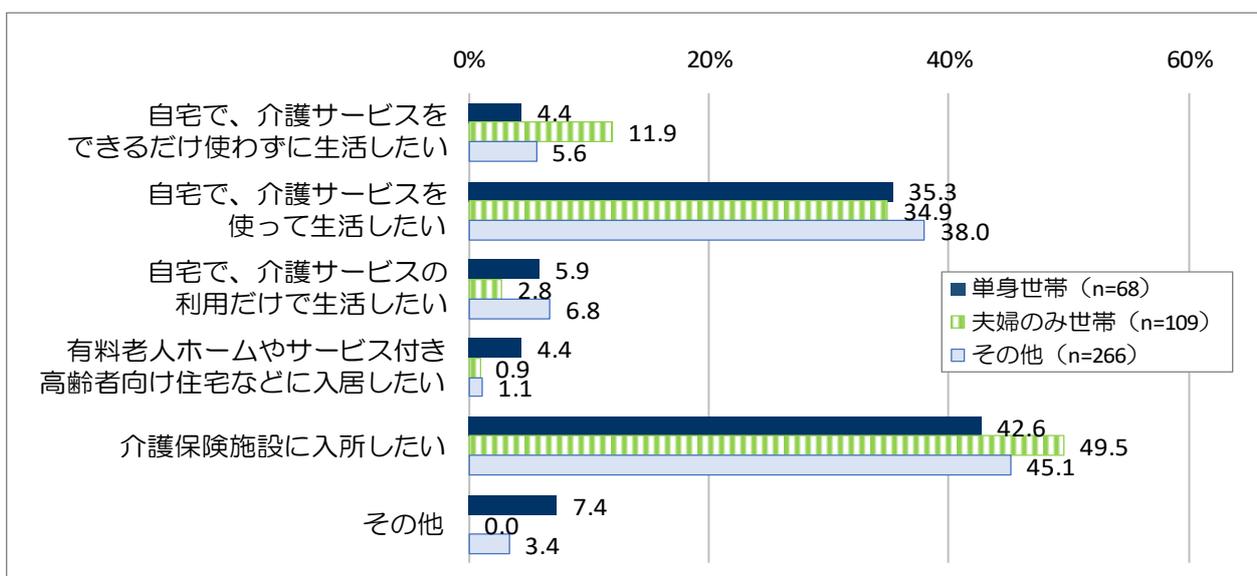
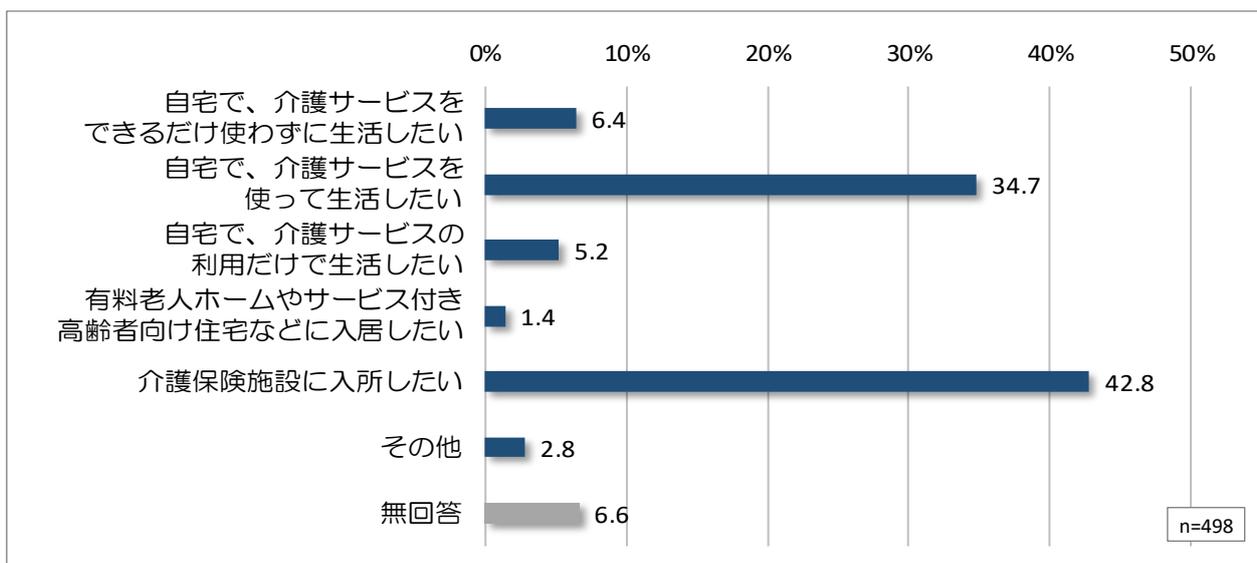
## (5) 市独自設問

### 1. どこで最期まで生活を送りたいか

現在抱えている傷病の治療が困難になったり、治る見込みがなくなった場合、どこで最期まで生活を送りたいとお考えですか（複数回答）

「介護保険施設に入所したい」が42.8%と最も高く、次いで「自宅で、介護サービスを使って生活したい」が34.7%となっています。

世帯類型別にみると、「夫婦のみ世帯」で「自宅で、介護サービスをできるだけ使わずに生活したい」割合が高くなっていますが、はっきりした傾向はみられませんでした。

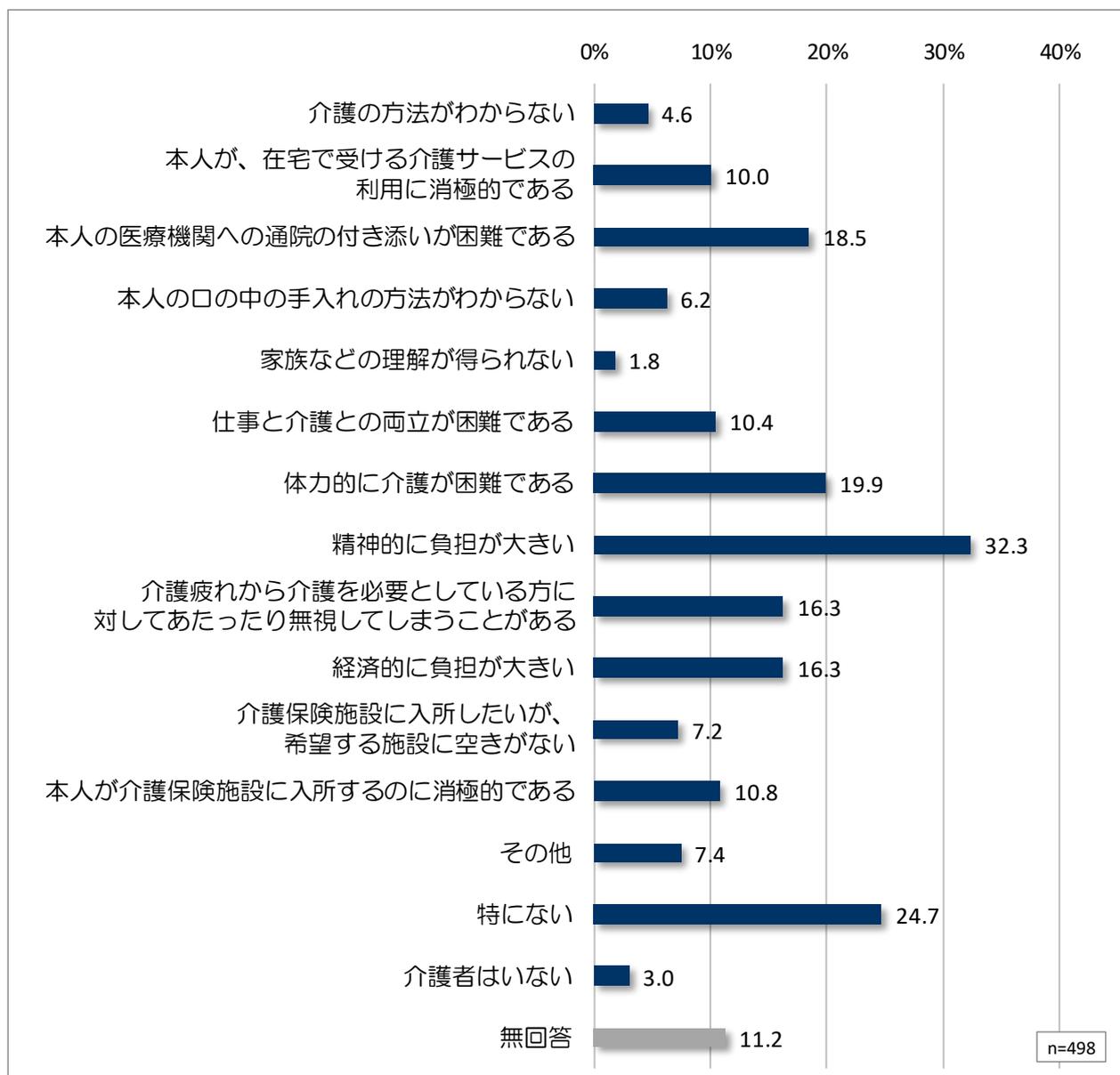


\*調査票では「1つを選択」としていましたが、複数回答が多数あったため、複数回答で集計しています。

## 2. 介護を行う上での困りごと

### 介護者の方が介護を行う上で困っていることは何ですか（複数回答）

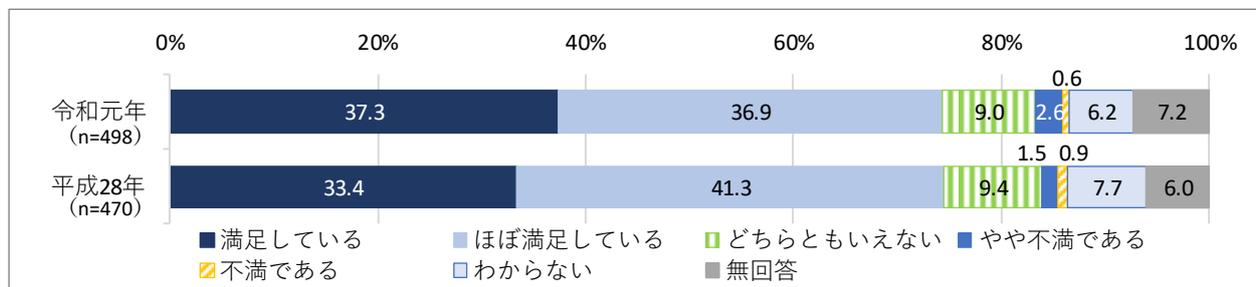
「精神的に負担が大きい」が32.3%と最も高くなっています。次いで「体力的に介護が困難である」が19.9%、「本人の医療機関への通院の付き添いが困難である」が18.5%となっています。一方で「特にない」が24.7%となっています。



### 3. ケアプランの満足度

#### ケアプランの内容について満足していますか

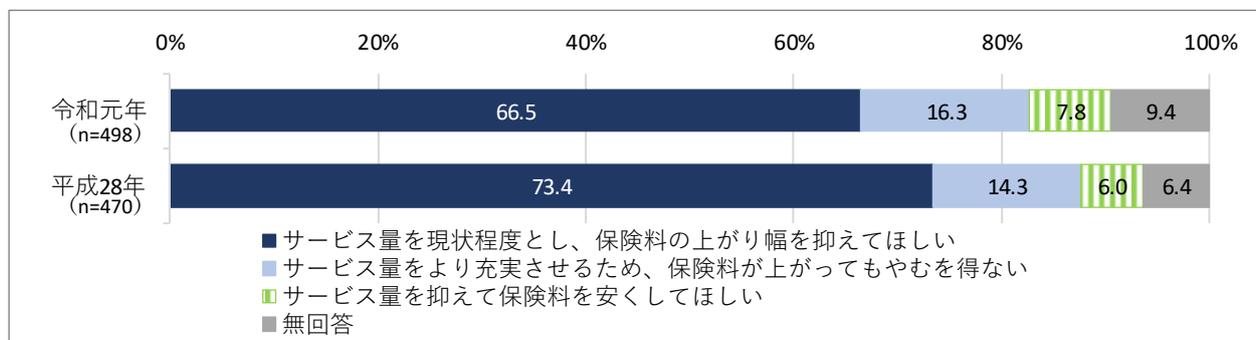
「満足している」が37.3%、「ほぼ満足している」が36.9%となっています。



### 4. 介護保険料について

介護保険の利用者の増加と高齢化の進行により、サービス量を現状程度に保つていくためには、介護保険料も高くなっていきます。あなたは介護保険のサービスと保険料の関係について、おおよそどのように考えていますか

「サービス量を現状程度とし、保険料の上がり幅を抑えてほしい」が66.5%、「サービス量をより充実させるため、保険料が上がってもやむを得ない」が16.3%、「サービス量を抑えて保険料を安くしてほしい」が7.8%となっています。



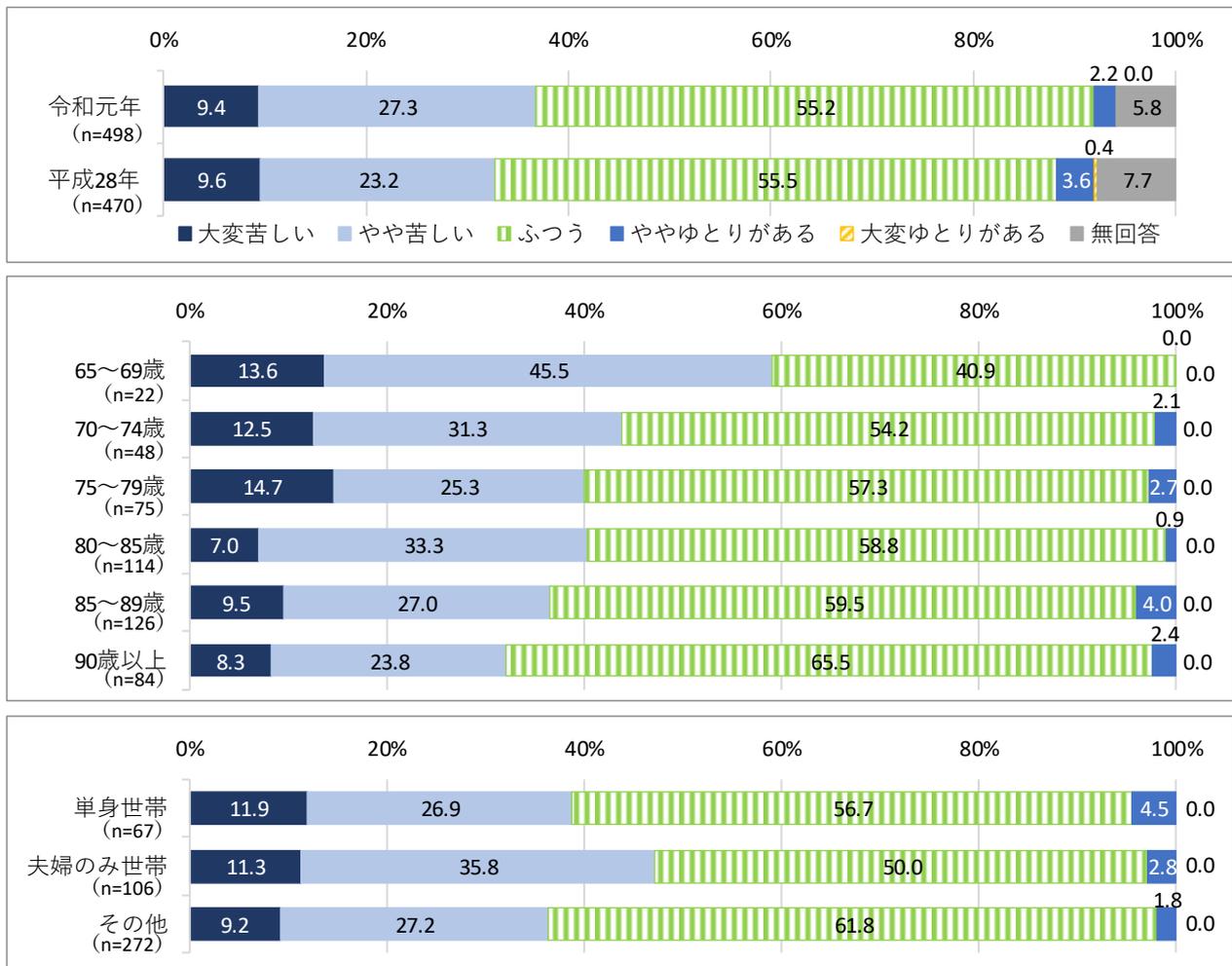
## 5. 経済的状況

ご本人（調査対象者）は、現在の暮らしの状況を経済的にどう感じていますか

「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせると36.7%となっています。

年齢別にみると、年齢が上がるほど「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計が低くなる傾向にあります。

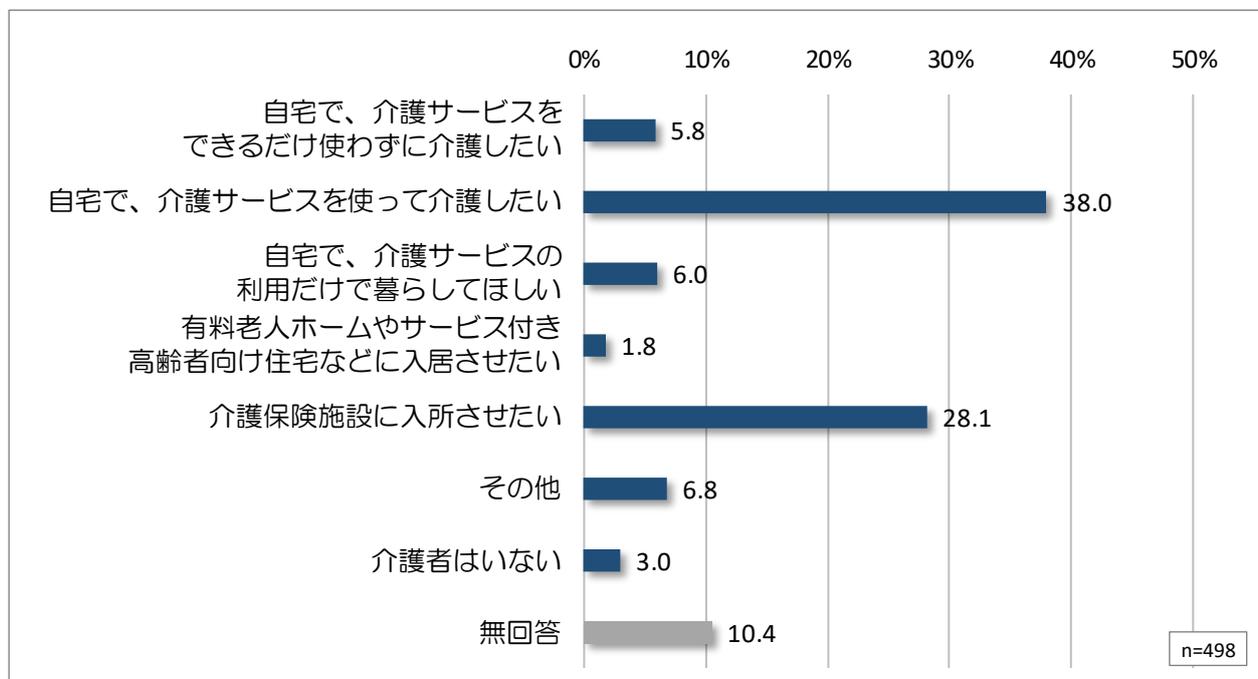
世帯類型別にみると、「夫婦のみ世帯」で「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計が高い傾向にあります。



## 6. 今後の要望

### 介護者の方は、今後の介護をどのようにしていきたいとお考えですか

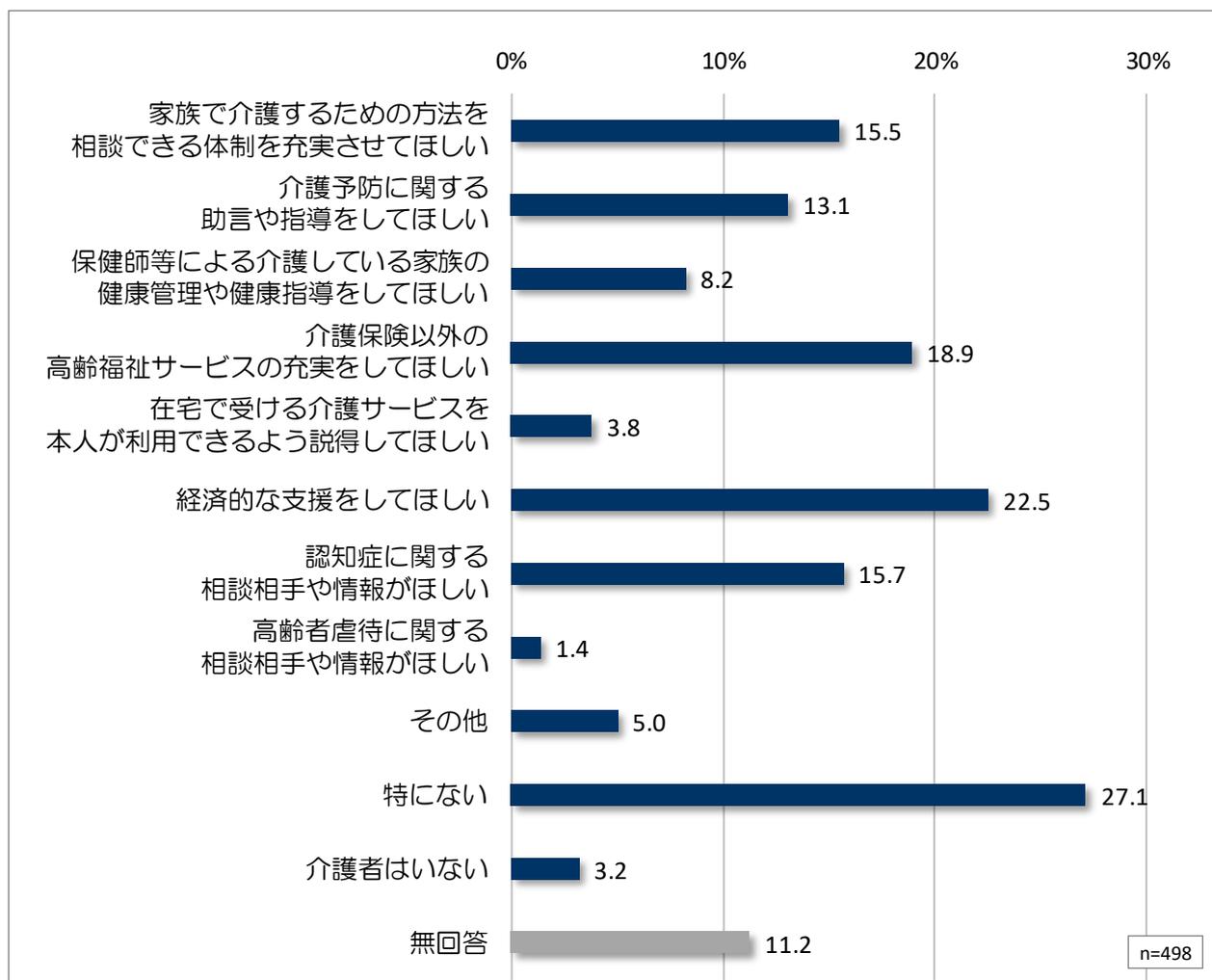
「自宅で、介護サービスを使って介護したい」が38.0%と最も高く、次いで「介護保険施設に入所させたい」が28.1%となっています。



## 7. 介護者が支援してほしいこと

介護者の方は、現状の介護に関してどのようなことを支援してほしいとお考えですか

「経済定期的な支援をしてほしい」が22.5%と最も高く、次いで「介護保険以外の高齢福祉サービスの充実をしてほしい」が18.9%となっています。一方で「特にない」が27.1%となっています。



(4) その他

◎施設整備関係

・事業廃止

○令和2年3月31日

・グループホーム我が家（共用型デイサービス）

認知症対応型通所介護

介護予防認知症対応型通所介護

・つばめ第3デイサービスセンター

認知症対応型通所介護

介護予防認知症対応型通所介護